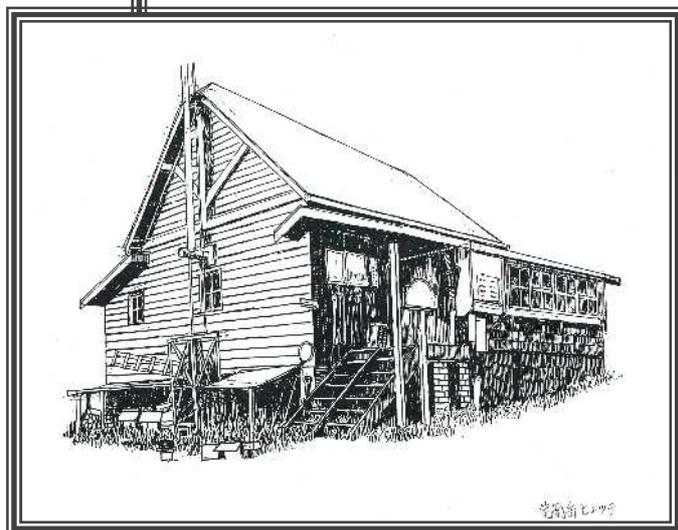
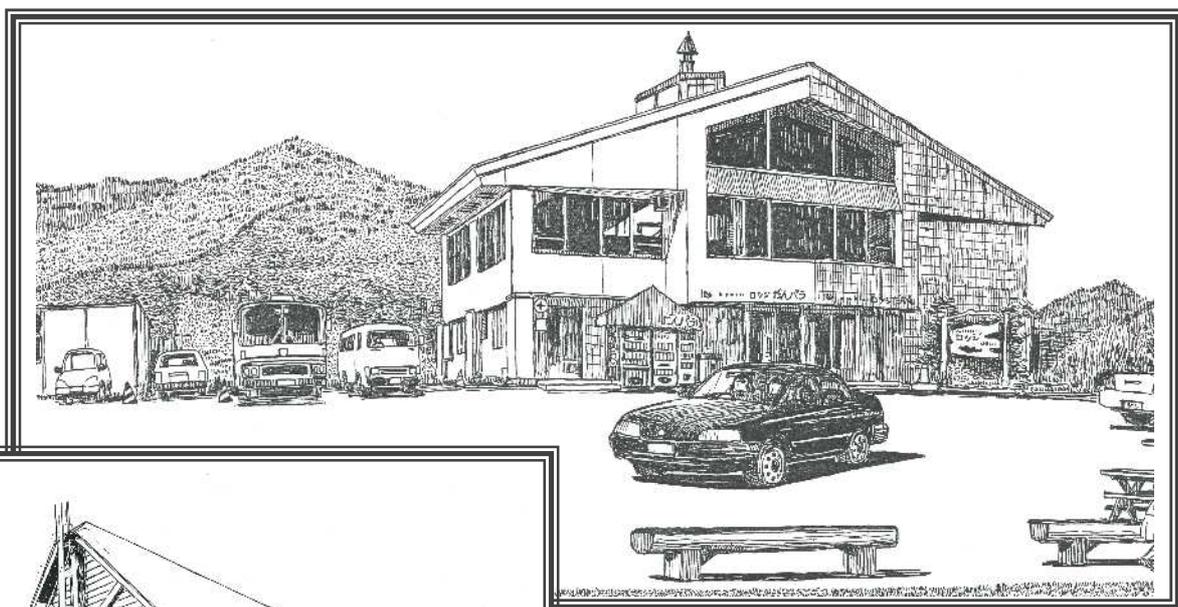


- ふれあいむろらん あったかランド -

ふるさと室蘭ガイドブック



平成28年から、8月11日が、
祝日「山の日」に制定されました。

室蘭岳には、市の施設「室蘭岳山
麓総合公園(だんパラ公園)」があり、
子どもたちが楽しめる遊具も充実し
ています。

室 蘭 市

はじめに

室蘭市は、北海道の自然100選、新日本観光地百選などにより、地球岬が全国から注目され、白鳥大橋やイルカ・クジラウォッチングなどの観光資源のほか、近年は、室蘭やきとり、室蘭カレーラーメン、ボルタが人気を呼び、そして新たに夜景観光も注目されています。

しかしながら、室蘭を訪れた人たちが最も印象に残るのは、室蘭でふれる温かいおもてなし、つまり「ホスピタリティー」です。一人でも多くの市民が、このまちのことを知り、自分の住むまちに自信と誇りを持って、訪れた人たちに温かく接し、室蘭のイメージを大きく高めたいものです。

このガイドブックは、室蘭というまちを知って、来蘭者を案内するための、また、他のまちに行ったときに室蘭をPRするための手引書として作成しました。

どうぞ、ご活用ください。

本誌は、平成28年12月現在で内容を改訂しています。数値などに変更のあったものは、ご面倒でも訂正・加筆してください。本文に誤りなどがありましたら、室蘭市 広報課までご連絡くださいますようお願いいたします。

また、本文中の敬称は、略させていただきます。

なお、このガイドブックは、市ホームページでもご覧いただけます。

室蘭市の「花」「木」「鳥」「魚」

「花」..... ツツジ (昭和 47 年制定)

一般家庭で栽培され、愛好者もたくさんいます。栽培される種は、エゾムラサキ、レンゲ、クルメ、キリシマツツジなどたくさんありますが、市の花としては特に種を定めず、ツツジ類全般としました。

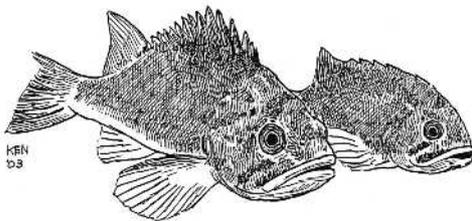


「木」..... ナナカマド (昭和 47 年制定)

初夏の白い花、秋の紅葉と赤い実が美しく、広く親しまれています。名前の由来は、7回カマドに入れても燃えにくいという通説があり、庭に植えておくと、火難を免れるという言い伝えもあります。

「鳥」..... ヒガラ (昭和 47 年制定)

姿が可愛らしく、鳴き声の美しい小鳥で、春先のネコヤナギが花咲く頃や、秋の渡りの頃には群れをつくり、測量山、地球岬一帯でよく見られます。カラ類(シジューカラ、ヤマスズメなど)の仲間では保護鳥とされており、飼育するには許可が必要です。漢字では「日雀」と表記します。



「魚」..... クロソイ (平成 14 年制定)

室蘭港周辺の岩場で生き抜く力強さ、食卓でのおいしさなど、市民に親しまれる室蘭市の代表的な魚として、選定されました。水族館でも見ることができます。

「花」「木」「鳥」は、開港 100 年・市制施行 50 年を記念して、市民から募集し、定められました。「魚」は、開港 130 年・市制施行 80 年に定められました。

目次

第 1 章 室蘭の概要	1 ~ 7
室蘭の語源	1
おいたち	1
開港(開基)	1
市制施行	1
市紋章	1
市民憲章	1
市の宣言	2
スポーツ都市宣言	
室蘭市いきいき明るい福祉都市宣言	
平和都市宣言	
「ものづくりのマチ」宣言	
安全安心都市宣言	
位置・地勢	3
面積	3
気象	3
人口	3
現況	4
事業所	4
農水産業	4
製造業	4
商業	4
室蘭港	4
客船の来航	5
姉妹都市(静岡県静岡市、新潟県上越市、米国ノックスビル市)	6
友好都市(中国山東省日照市)	7
交流都市(沖縄県宮古島市)	7
第 2 章 室蘭市の歴史	8 ~ 16
1. はじめに	8
2. 室蘭の先史時代	8
・輪西遺跡から出土した土偶	8
・「続縄文」提唱の地	8
・先史時代人の複顔	8
3. 松前藩と絵鞆場所の開設	8
・場所制度	9
4. プロビデンス号の来航	9
5. 交通の要路モロラン	9
6. 南部陣屋	10
7. 開拓の先駆者たち	10
・胆振という地名の由来	11
8. 札幌本道の開削と室蘭の開港	11
9. 明治天皇室蘭へ	12
10. 屯田兵の入植	12
・屯田兵制度	13
11. 三港定期航路	13
12. 鉄道の開設と石炭の積み出し	14
13. 戦時下の室蘭	15
14. 幻の飛行場「八丁平」	15
15. 空襲と艦砲射撃	15
16. 戦後の室蘭	16

第 3 章 室蘭市内案内	17 ~ 83	
1. 景 勝 地	17 ~ 23	
室蘭八景	17	
・室蘭港の夜景	・金屏風、銀屏風の断崖絶壁	
・地球岬の絶景	・黒百合咲く大黒島	
・測量山の展望	・マスイチ浜の外海展望	
・絵鞆岬の景観	・トッカリシヨの奇勝	
絵 鞆 岬	17	
マスイチ浜	17	
大 黒 島	17	
旧室蘭灯台（大黒島）	18	
白鳥大橋	18	
白鳥大橋ビューポイント（4カ所）	18	
内 浦 湾（噴火湾）	18	
測 量 山	19	
測量山鉄塔ライトアップ	19	
チキウ岬	20	
チキウ岬灯台	20	
地球岬散策路	20	
金 屏 風	20	
銀 屏 風	20	
トッカリシヨ	20	
トキカラモイ	21	
ハルカラモイ	21	
・アフルパロ	21	
チャラツナイと蓬萊門	21	
イタンキ浜	21	
・鳴 砂	21	
・すこやかロード 鳴砂の浜コース	22	
・ピオトープ・イタンキ	22	
室蘭市ピオトープ憲章	22	
室 蘭 岳（鷲別岳）	23	
・水 神 社	23	
・白鳥の鐘	23	
保存林・樹木	23	
2. 室蘭の夜景 輝く光の宝石箱	24 ~ 25	
室蘭港の夜景	24	
夜景観光と日本工場夜景	24	
室蘭夜景の魅力	25	
夜景のバリエーションの多さと適度な距離感	25	
「ものづくりのまち」ならではの灯	25	
魅惑の夜景を違った角度から楽しめる夜景ナイトクルージング	25	
3. 展望台（展望台と臨海公園）	26 ~ 27	
夜景ビューポイント		
4. むろらんの森と散策路	28 ~ 29	
地球岬緑地	測量山緑地	ふるさとの森21公園
知利別公園	だんパラ公園	地球岬街道 夢の森
5. ネーチャーウォッチング	30 ~ 31	
バードウォッチング	30	
ハヤブサ	30	
イルカ・クジラウォッチング	31	
室蘭ルネッサンスが提唱	31	
クジラと縁の深い室蘭	31	
資源調査を開始	31	

6. 桜の名所・花の名所	32 ~ 33
・母恋富士下サクラ並木、	・崎守町の一本桜、
・幌萌町のエゾヤマザクラ	・測量山桜ロード、
・アジサイロード	・祝津臨海公園の桜並木
・地球岬アジサイロード	・中島1丁目1条通線の桜並木と季節の花々
・知利別川沿い桜並木とアヤメ	・鷲別川沿い桜並木とコスモス
・コスモスロード	・白鳥台北公園、
・臨港道路陣屋崎守線沿道のサクラ	
7. 文化財	34 ~ 36
国の指定・登録文化財	34
市の指定文化財	34
名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸	35
・名勝とは	35
・北海道の名勝「ピリカノカ」	35
・絵鞆半島外海岸	35
・名勝に指定されると	35
・アイヌ文化と室蘭	35
室蘭神楽	36
・鯨神の舞	36
御供獅子舞	36
8. 碑および史跡	37 ~ 41
絵鞆遺跡	37
先住民慰霊碑	37
築港殉職碑	37
ハンス・オルソンの慰霊碑	37
プロビデンス号来航記念碑	37
魚藍観音像	38
明治天皇御乗艦御聖跡碑	38
今上天皇陛下御上陸記念碑	38
明治天皇聖跡碑	38
ホーレス・ケブロン顕彰碑	38
艦砲射撃慰霊碑	39
忠魂碑	39
本多新翁頌徳碑	39
仏坂招魂碑	39
海軍殉職将兵者納骨塔と礼拝記念碑	39
天沢泉と明治天皇御巡幸記念碑	40
艦砲射撃殉職者慰霊碑	40
明治天皇御野立所記念碑	40
宮沢少佐遭難記念碑	40
中国人殉難烈士慰霊碑	40
輪西屯田兵記念碑	40
艦砲射撃慰霊碑	41
輪西村開拓記念碑	41
閑斐泉先生碑	41
史跡 東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡	41
9. 戦跡	42 ~ 43
十五纏加農砲掩体跡	42
測量山の観測所跡	42
	42
旧市立病院から旧料亭常盤への地下道跡と地下診療室跡	42
華工収容所跡	43
防空壕跡	43
室蘭飛行場跡地と防衛司令部跡地	43
栗山高射砲陣地跡地に残る掩体跡	43
我此土安穩の碑	

10. 文学碑	44 ~ 51
安部一路 句碑	44
進藤千晶 句碑	44
幸能舎守雄 歌碑	45
棟方志功 板画碑	45
八木義徳 文学碑	46
並木凡平 歌碑	47
葉山嘉樹 文学碑	48
長谷川正治 歌碑	49
佐藤衣子 歌碑	49
長木谷梅子 歌碑	50
工藤仙二 歌碑	50
山口青邨 句碑	51
11. 室蘭の坂	52 ~ 55
ムロラン地名発祥の坂と室蘭村	52
問屋の坂	52
西小路の坂	53
日本一の坂	53
八幡坂	54
幕西の坂	54
仏坂	54
ラッパ森	54
牛太郎坂	55
他にもある名前の付いた坂	55
・東小路の坂または丸井さんの坂	・栗林の坂
・ウスイの坂	・病院坂
12. 神社	56
絵鞆神社	
室蘭八幡宮	
中嶋神社	
幡守神社	
崎守神社	
13. シンボル彫刻像（入江運動公園プロムナード内 14点）	57 ~ 59
14. さわやかトイレ	60 ~ 61
15. 市内の施設	63 ~ 77
室蘭港エンルムマリーナ	63
B & G 海洋センター	63
絵鞆臨海公園	63
祝津公園グラウンド	63
テニスコート（祝津・高砂・崎守）	63
室蘭水族館	64
白鳥大橋記念館みたら（道の駅「みたら室蘭」）	64
白鳥大橋パークゴルフ場	64
室蘭港フェリーターミナルビル	64
フェリー埠頭	65
中央埠頭旅客船バース	65
入江耐震岸壁	65
旧室蘭駅舎	65
入江運動公園	66
入江運動公園陸上競技場	66
入江運動公園温水プール	66
入江運動公園子供の広場	66
入江臨海公園	66
市民活動センター	66
むろらん広域センタービル	67
港の文学館	67
電信浜児童遊泳場	67
北海道立総合研究機構栽培水産試験場	67

室蘭市役所	68
文化センター	68
市民美術館	68
武揚体育館	68
常盤保育所子育て支援センターらんらん	68
図書館	69
・ふくろう文庫	69
青少年科学館	70
・今に残るSL	70
市立室蘭総合病院	70
子ども発達支援センター（あいくる）	71
JESCO 北海道PCB廃棄物処理施設	71
シルバー人材センター	71
青少年研修センター	71
市民会館	71
室蘭・登別保健センター	72
・臨床検査センター（1階）	72
・室蘭・登別総合健診センター（2階）	72
・室蘭市保健センター（3・4階）	72
・つどいの広場（サンキッズ）（5階）	72
イタンキ浜海水浴場	72
イタンキ生活館	72
中小企業センター	73
室蘭テクノセンター	73
胆振地方男女平等参画センター（ミンクール）	73
公設地方卸売市場	73
東室蘭自由通路（わたれーる）	73
障害者福祉総合センター（ぴあ216）	73
国際コミュニティセンター	73
中島公園	74
体育館	74
中島公園野球場	74
室蘭市弓道場	74
子育て相談ふれあいセンター	74
中島スポーツセンター	74
サンライフ室蘭	74
移動式水素ステーション	74
総合福祉センター	75
・陶芸の家	75
民俗資料館（とんてん館）	75
少年野球場	75
崎守臨海公園野球場	75
白鳥の湯	75
室蘭岳山麓総合公園（だんパラ公園）	76
室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設（サンパワー380）	76
だんパラスキー場	76
・山の駅ロッジだんパラ	76
白鳥ヒュッテ	76
西いぶり広域連合最終処分場	77
エコロパ西いぶり	77
・西胆振地域廃棄物広域処理施設（メルトタワー21）	77
・西いぶり広域連合リサイクルプラザ	77
・西いぶり広域連合げんき館ペトトル	77
・キッズパーク	77
チマイベツ浄水場	77
地域交流センター	77

16. 室蘭市内の大学、専門学校	78 ~ 79
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション室蘭臨海実験所	78
室蘭工業大学	78
・ものづくり基盤センター（CREMO）	
・ロボットアリーナ	
・テクノアゴラ	
市立室蘭看護専門学校	78
日鋼記念看護学校	79
北海道福祉教育専門学校	79
北斗文化学園インターナショナル調理技術専門学校	79
北海道立室蘭高等技術専門学校	79
17. 室蘭市の主な企業	80 ~ 81
新日鐵住金(株)棒線事業部室蘭製鐵所	80
(株)日本製鋼所室蘭製作所	80
JXエネルギー(株)室蘭製造所	80
日鉄住金セメント(株)	81
函館どつく(株)室蘭製作所	81
(株)栗林商会	81
ナラサキ産業(株)	81
(株)檜崎製作所	81
香川工業用地	81
(株)北海道高度情報技術センター（HiTEX）	81
18. その他	82 ~ 83
室蘭駅	82
蕙山苑	82
碧の彫刻像	82
FURAI（鉄の造形作品）	82
風力発電施設	82
瑞泉閣	83
瑞泉鍛刀所	83
知利別会館	83
ポルタ工房	83
輪西八条アトリエ	83
FMびゅー	83
第4章 室蘭市の伝説	84 ~ 86
1. アイヌ語の地名とその意味	84
2. 銀屏風とムイ岩の伝説	85
3. ニラス岩とムカルソの伝説	85
4. イタンキ浜の伝説	86
5. トッカリシヨの伝説	86
第5章 おはなしむろらん	87 ~ 91
1. 室蘭屯田兵ものがたり	87
2. 春を告げる室蘭岳のニシンの雪型	89
第6章 室蘭の主なまつり・イベント	92 ~ 93
第7章 室蘭の知って得するミニ情報	94 ~ 100
・ 室蘭やきとり ・ 室蘭カレーラーメン ・ クロソイ	
・ 室蘭活ホタテ「蘭扇」 ・ ポルト人形ポルタ	

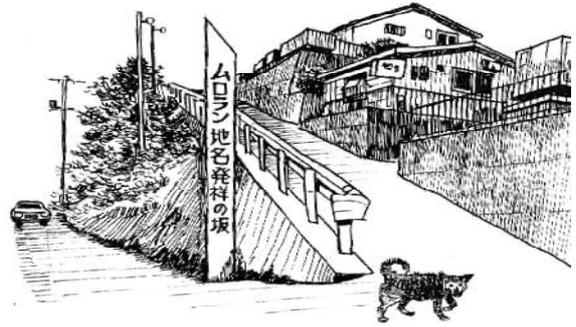
その他、たくさんの情報が掲載されています。

室蘭市マスコット「くじらん」の誕生

第1章 室蘭の概要

室蘭の語源

アイヌ語の「モ・ルエラニ」から転化したもので「小さな・下り路」という意味です。崎守町仙海寺(せんかいじ)前の坂が、ゆかりの地とされています。



おいたち

天然の良港である室蘭のあゆみは、縄文早期末(約7千年前)にまでさかのぼることができます。室蘭は、貝塚をはじめとする遺跡が全道的にも非常に多い土地として知られ、縄文の各時期、その後の続縄文や擦文、アイヌ文化に至るまで、当時の暮らしを示す多くの遺跡や遺物が確認されています。

慶長年間(1600年ころ)には、松前藩がアイヌの人たちと交易をするため、絵鞆場所を開きました。これも船で往来する当時において、交通の要衝であったことから、幕末には外国船から港を守るため、江戸幕府の命令により南部藩が駐留しました。(南部陣屋...10ページ参照)

開港(開基)

明治5年、室蘭村(崎守町)に室蘭海関所(かいせきしょ)が設置されるとともに、北海道開拓計画の第一歩として、函館～森～室蘭～札幌を結ぶ札幌本道の開削が始まりました。以来、室蘭～森間の定期航路開設や炭鉱鉄道会社による室蘭～岩見沢間の鉄道敷設、日本郵船による室蘭～函館～青森を結ぶ定期船の就航などにより、港は本州と北海道を結ぶ海陸交通の要衝として発展してきました。

市制施行

大正11年(1922)8月1日に市制が施行されました。当時の人口は52,158人、戸数は10,700戸でした。

市紋章(昭和11年(1936)4月13日制定)

室蘭市の紋章は、カタカナの「ロ」を6個で円周をつくり「ムロ」とし、「蘭の花」を図案化して、中に入れました。5枚の花びらの下方2枚は、どっしりと大地をつかみ、市の安定を願っています。



市民憲章(昭和47年8月1日、開港100年・市制施行50年記念事業で制定)

わたしたちは、白鳥湾の美しい自然の中で、たくましく発展している港湾と商工業のまち、室蘭の市民です。わたしたちは、このまちを愛し、市民であることに、誇りと、責任をもち、さらに、豊かな未来をめざし、ここに、市民憲章を定めます。

- 1 健康で働き、明るく楽しい家庭をつくります。
- 1 老人をうやまい、子どもの夢をはぐくみ、あたたかい心のかようまちをつくります。
- 1 自然を愛し、環境をととのえ、緑豊かなまちをつくります。
- 1 のびゆく港と、産業を育て、未来を開く希望のまちをつくります。
- 1 決まりを守り、教養を深め、文化のかおりあふれるまちをつくります。

市の宣言（制定順）

スポーツ都市宣言（昭和57年10月10日、開港110年・市制施行60年記念事業で制定）

わたしたち室蘭市民は、スポーツをとおして、ゆたかな心とたくましいからだをつくり、健康で明るいまちを築くため、ここに「スポーツ都市」を宣言します。

- 1 みんな、そろって、スポーツに親しみましょう。
- 1 みんなで、楽しい、スポーツの場をつくりましょう。
- 1 みんなで、仲良く、スポーツあふれるまちにしましょう。

室蘭市いきいき明るい福祉都市宣言（平成6年3月31日制定）

わたしたちは、心身ともに健康でやすらぎのある生活をおくれるまちが願いです。市民一人ひとり、すすんで自らの健康を保ち、明るくうおいのある家庭をつくり、互いに尊重し思いやりのある心をもち積極的に社会参加をし、ふれあいとあたたかい地域社会をめざして、だれもが安心して暮らせる生きがいのあるまちづくりにつとめます。ここに、室蘭市を「いきいき明るい福祉都市」とすることを宣言します。

平和都市宣言（平成11年2月26日制定）

平和で安全な暮らしは、みんなの願いです。

世界で初めての被爆国である日本は、核兵器を「もたず、つくり、もちこませず」の三原則を守り、平和の尊さを世界に伝え、核兵器をなくしていかなければなりません。

恵まれた自然を守り、平和で幸せな未来を子どもたちに引きつぐことは、戦争で多くの大切な命を失った室蘭市民のつとめです。

ここに、私たち室蘭市民は、戦争のない平和な世界を願い、明るく住みよいやすらぎのある市民生活を守るため、平和都市を宣言します。

「ものづくりのマチ」宣言（平成14年7月26日制定）

アピール：「ものづくりのマチ」へ向けて

私たちのまち室蘭には、優れた技術・技能と人材が集まり、たゆまぬ努力により、北海道における工業の拠点として、その発展をリードしてきた「ものづくり」の歴史があります。

私たちの夢や願いを形にする「ものづくり」はいつの時代にも大切な役割を担っています。

先人から受け継ぎ、育んできた「ものづくり」に対する熱い思いを市民の誇りとして、常に新たな技術・技能に挑戦し、新しいものづくりを追求するとともに、次代を担う若者や子供たちに、しっかりと引き継いでいくことが大切です。

私たちは、これまで築き上げてきた港や工場群、技術・技能、歴史や文化といった貴重な財産を新たな視点から見つめ直し、新しい価値を創り出していきます。

私たちは、開港130年市制施行80年を記念し、21世紀にふさわしい「ものづくりのマチ」へ向けて進むことを、ここに宣言します。

安全安心都市宣言（平成19年10月9日制定）

安全で安心した生活をおくることは、わたしたちみんなの願いです。

わたしたちは、地域の人たちと互いに手をたずさえて、自らが行動し、身近におこるさまざまな犯罪・事故・災害から、かけがえのない生命や生活を守り、安全で安心なまちづくりにつとめます。

ここに、わたしたちは、ふるさと室蘭を、いつまでも明るい笑顔の絶えることがない安全で安心な都市とすることを宣言します。

位置・地勢

室蘭市は北海道の南西部の噴火湾に面し、北東は登別市、北西は伊達市に接しています。南側は太平洋に突き出た絵鞆半島により形成され、外洋側は 100m前後の断崖絶壁が 14 km も連なる風光明媚(ふうこうめいび)な景勝地になっています。

東	経	(東)	1 4 1 ° 03	東西に約 1 2 km
		(西)	1 4 0 ° 54	
北	緯	(南)	4 2 ° 18	南北に約 1 5 km
		(北)	4 2 ° 26	

面積

市域は、80.88 km²と道内 35 市では、歌志内市、砂川市に次いで 3 番目に狭い (平成 26 年 10 月 1 日現在)ですが、人口密度は、札幌市に次いで第 2 位(平成 27 年 1 月 1 日現在)です。
(北海道市町村課のページより)

気象

室蘭市は、冬期間噴火湾内の海流の影響などから比較的温暖な地域に属しています。

日最高気温	3 2 . 8	(昭和 4 年 8 月 8 日)
日最低気温	- 1 3 . 4	(昭和36年 1 月12日)
日降水量の最大	1 7 0 . 0 mm	(昭和50年11月 7日)
日降雪量の最大	4 7 cm	(昭和59年 4 月 6日)
積雪量の最深	6 8 cm	(昭和33年 2 月13日)
日最大風速	南 3 7 . 2 m/s	(昭和29年 9 月26日)
最大瞬間風速	南 5 5 . 0 m/s	(昭和29年 9 月26日)
日最低海面気圧	9 6 2 . 0 hPa	(昭和 9 年 3 月21日)
年降雪量の最大	2 4 8 cm	(平成17年8月～18年7月) 寒降年の定義による寒降期。
初冠雪	最も早い	(昭和59年10月 5日)
初冠雪	最も遅い	(平成15年11月17日)

「初冠雪」とは夏が終わった後、山麓などの気象官署から見て山頂付近が初めて積雪などで白く見えることで、本市は鷲別岳で観測しています。「初雪」とは、期間内で最初に降る雪のことを言います。

人口

本市の人口は、昭和 45 年ころまで順調に伸びてきましたが、その後の急激な社会情勢の変化で減少傾向を示し、住民基本台帳人口では、平成 17 年 3 月末で 99,113 人(日本人のみ)となり、10 万人を割りました。

国勢調査	人口	国勢調査	人口
大正 9 年 (1920)	56,082 人	昭和 4 5 年 (1970)	162,059 人
大正 1 4 年 (1925)	50,040 人	昭和 5 0 年 (1975)	158,715 人
昭和 5 年 (1930)	55,855 人	昭和 5 5 年 (1980)	150,199 人
昭和 1 0 年 (1935)	65,095 人	昭和 6 0 年 (1985)	136,208 人
昭和 1 5 年 (1940)	107,628 人	平成 2 年 (1990)	117,855 人
昭和 2 2 年 (1947)	96,722 人	平成 7 年 (1995)	109,766 人
昭和 2 5 年 (1950)	110,443 人	平成 1 2 年 (2000)	103,278 人
昭和 3 0 年 (1955)	123,533 人	平成 1 7 年 (2005)	98,372 人
昭和 3 5 年 (1960)	145,679 人	平成 2 2 年 (2010)	94,535 人
昭和 4 0 年 (1965)	161,252 人	平成 2 7 年 (2015)	88,564 人

平成 28 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳人口は、87,883 人(外国人を含む)です
なお、住民基本台帳による最大人口は、昭和 44 年 7 月の 183,605 人でした。

現 況

明治40年(1907)に現在の(株)日本製鋼所室蘭製作所の、同42年には新日鐵住金(株)棒線事業部室蘭製鐵所の前身が設立され「鉄のまち」として発展してきましたが、第2次世界大戦の際、空襲と艦砲射撃(昭和20年7月14・15日、15ページ参照)により大きな損害を受けるとともに、約400人の死者を出しています。

しかし、終戦後は軍需(ぐんじゅ)から民需(みんじゅ)へといち早く転換したことなどにより、著しく復興が進み、大手の新日鐵住金や日本製鋼所、函館どつく、檜崎造船などの重工業部門と日鉄住金セメント、JXエネルギーなどの近代工業の進出により東北・北海道を代表する重化学工業・港湾都市として、北海道総合開発の推進に大きく寄与しています。

事 業 所(2014年(平成26年)経済センサス - 基礎調査)

総 数	事業所	4,428 力所	従業者	47,415 人
第1次産業	"	1 "	"	24 人
第2次産業	"	683 "	"	12,540 人
第3次産業	"	3,739 "	"	34,851 人

農 水 産 業

農 業(2015年(平成27年)農林業センサス)

農 家 数	23 戸 (専 業...10 戸)
農業従事者数	41 人 (専従者...23 人)
経営耕地面積	265.50 ha

水 産 業(2013年(平成25年)漁業センサス)

漁業経営体	56 力所 (法人...2 力所、個人...54 力所)
世帯員数	170 人

製 造 業(2012年(平成24年)工業統計調査)

事業所数	132 事業所
従業者数	7,723 人
製造品出荷額等	1兆2,982 億円

商 業(2014年(平成26年)経済センサス - 基礎調査)

	卸 売 業	小 売 業	総 数
事業所数	205 事業所	662 事業所	867 事業所
従業者数	1,293 人	4,561 人	5,854 人
商品販売額	1,166 億円	965 億円	2,131 億円

室 蘭 港

明治5年(1872)に室蘭～森間の定期航路を開設したのが室蘭港の始まりであり、第1船として就航したのは、開拓使付属船「稲川丸(いながわまる)」(15t)でした。

現在は臨海部に北からJXエネルギー、日鉄住金セメント、新日鐵住金、日本製鋼所、函館どつくなど重化学工業部門が占めています。

昭和40年に特定重要港湾に指定されており、港湾区域面積は約16.1km²(東京ドームの約362倍)で、貨物取扱量は平成26年で2,320万tとなっています。

平成19年には、耐震強化岸壁が整備されました。平成23年に、港湾法施行令の改正により、特定重要港湾から国際拠点港湾になりました。

主要取扱貨物(2014年(平成26年)実績、総数 2,320万 t)

石油製品	394万t	鉄 鉱 石	376万t	石 炭	261万t
重 油	228万t	原 油	226万t	鋼 材	184万t
石 灰 石	173万t	石 材	107万t	木材チップ	94万t
セメント	79万t				

入港船舶数

平成22年	5,751 隻	22,564,318 総t
平成23年	6,232 隻	25,730,172 総t
平成24年	6,026 隻	27,218,534 総t
平成25年	6,592 隻	27,867,067 総t
平成26年	5,760 隻	22,294,037 総t

入港大型船5 隻(船籍)

総t数

BRIGHT HARMONY (パナマ)	160,226 t
YAFUSAN (パナマ)	160,216 t
TOKISU MARU (日本)	159,963 t
BRIGHT PINOEEER (パナマ)	159,828 t
NIPPON (パナマ)	159,613 t

入港大型客船5 隻(平成6年以降、平成28年10月31日現在、入港時の総t数)

	船 名	船 籍	初入港日	入港回数	総t数
外国船籍	クァンタム・オブ・ザ・シーズ	バハマ	2016. 6.24	1 回	168,666 t
	マリナー・オブ・ザ・シーズ	バハマ	2015. 9.12	2 回	138,279 t
	ボイジャー・オブ・ザ・シーズ	バハマ	2013. 9.11	3 回	138,194 t
	サファイア・プリンセス	バミューダ	2005. 4.30	3 回	116,000 t
	ダイヤモンド・プリンセス	バミューダ	2005.10. 7	12 回	116,000 t
日本船籍	飛鳥	日 本	2006. 7.18	12 回	50,142 t
	飛鳥	日 本	1994. 8. 1	17 回	28,717 t
	ぱしふいっくびいなす	日 本	1998.10.27	8 回	26,518 t
	にっぽん丸	日 本	1998. 9.18	7 回	21,903 t
	ふじ丸	日 本	2001. 9.24	6 回	23,235 t

大型けい船岸壁

公 共 岸 壁 (水深 4.5m ~ 14.0m)	4 2バ - ス	延長	6,109 m
専 用 岸 壁 (水深 4.5m ~ 16.5m)	6 2バ - ス	延長	7,821 m

客船の来航

平成28年(2016)6月に、道内に寄港する客船としては最大の16万tを超える大型客船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」が大型客船の入港に対応するため、同年3月に岸壁の改修を完了した室蘭港崎守埠頭に初入港しました。

また、9月には、「飛鳥」と「ぱしふいっくびいなす」が、スワンフェスタに併せ同時に寄港しました。

姉妹都市

・静岡市（静岡県）

平成15年4月1日に清水市と静岡市が合併し、新たに「静岡市」が誕生しました。本市は昭和51年12月24日に清水市と姉妹都市提携を行い、これまで市民ぐるみの交流を続けて来ています。

静岡市は、人口約70万2千人、面積1,411.90 km²で、県の中央部に位置し、北は南アルプスから南は駿河湾にまで広がる広大な市域です。三方を山に囲まれ、気候は温暖で、お茶・ミカン・イチゴなどの栽培のほか、駿河湾で捕れる桜エビやシラス、清水港に水揚げされる遠洋マグロなど水産業も盛んです。市内には、標高307mの丘陵地「日本平」や5万4千本の松が茂る「三保の松原」などの景勝地や駿府城址、弥生時代の登呂遺跡などの名所旧跡が数多くあります。

・上越市（新潟県）

平成17年1月1日に周辺の13町村と合併し、新たに「上越市」が誕生しました。本市とは、平成2年に室蘭・直江津間にフェリーが就航して以来、相互のまちで物産展などの交流を続け、平成7年10月22日に姉妹都市として提携し、現在までお互いの市の発展を願って、経済・文化交流などが活発に行われています。

上越市は、人口約19万7千人、面積は973.61 km²で、県の南西部、日本海に面し、古くから交通の要衝として栄えてきました。平野部、山間部、海岸部と変化に富んだ地形を有し、佐渡弥彦米山（さどやひこよねやま）国定公園、久比岐（くひき）県立自然公園、米山福浦（よねやまふくうら）八景県立自然公園などに代表される美しい景観や多様な自然に恵まれ、高田公園の桜も日本3大夜桜で有名です。市の中央部には、関川、保倉川などが流れ、この地域に広がる高田平野は日本でも有数の穀倉地帯となっており、酒どころとして有名です。冬期には日本海を渡ってくる大陸からの季節風の影響により、海岸部を除いた地域は豪雪地帯で、スキーの発祥地としても名高い市です。

・ノックスビル市（アメリカ合衆国テネシー州）

本市とは、昭和63年（1988）8月、アメリカ合衆国の広報宣伝のため、全国的に展開された「アメリカン・トレイン」が来蘭した際、同行していたノックスビル市長代理と商工会議所代表が姉妹都市締結の強い要望を持って市内の各界を訪問し、交流が始まりました。以来、ノックスビル市への中学生派遣や、両市の市民の相互訪問などを通して、親善交流を深め、平成3年1月16日に国際姉妹都市として提携しました。以来、今日に至るまで積極的な交流を進めてきています。

Knoxville
Tennessee, USA



City Seal(市章)

ノックスビル市は、人口約18万4千人、アメリカ合衆国南東部テネシー州東部のグレート・バレー盆地の中央に位置する中心都市で、市面積は約269.8 km²です。1791年の開基以来200年以上の歴史を刻み、米国南部開発の政治・経済・文化の中心地として発展して来ました。古くは、チェロキーインディアンの狩猟地で、1786年、のちのノックスビル市創始者ジェームス・ホワイトが砦や入植者用住宅を築いたのが始まりです。市内にはテネシー川が流れ、その流域を古くから開発し、米国経済の復興の礎としたTVA（テネシー川流域開発公社）の本部があり、主要産業はこれまで金属・木材・窯業・織物・食品加工などが盛んでしたが、最近では、約2万7千人の学生数を誇るテネシー州立大学を中心とした産学共同による新技術の研究開発や新分野展開が目覚しく、ハイテク応用、バイオ、人工知能、宇宙科学等の企業や学術研究施設も集積しています。また、この地方には、アパラチア山脈などの山々に囲まれた雄大なグレート・スモーキーマウンテン国立公園があり、アメリカでも最も人気のある国立公園として、四季を通して年間約1千万人の観光客が訪れています。

「アメリカン・トレイン」とは、昭和63年に日米友好親善活動の一環として、国鉄民営化後のJRが、外装にアメリカをイメージした星条旗風のデザインで全国を巡業・公開した電車車両のことです。

友好都市

・日照市（中国山東省）

本市とは、平成8年(1996)に中国対外友好合作サービスセンター顧問らが来蘭した際に、日照市との交流を勧められたのがきっかけです。その後、経済などの交流や、訪問を通して親善交流を深めて来ました。これらの交流の機運の高まりから、平成14年7月26日、室蘭市開港130年・市制施行80年記念式典に先立ち、友好都市締結の調印式が行われ、友好都市として積極的な交流を進めています。

平成22年10月には、西胆振観光訪問団として室蘭市長をはじめとする3市3町の首長、観光協会、胆振総合振興局長らの総勢30人が日照市を訪れ、西胆振圏の魅力と医療連携の発展について話し合いました。また本市との経済と文化、観光や医療、学生相互訪問などの各分野で、連携を深める交流調印が行われました。

また、平成28年7月には、室蘭市長、市議会議長、日照市と友好の会訪問団一行6人が日照市を訪問し、行政、経済貿易、教育や文化、観光、医療、高齢福祉などの分野で、日照市長と確認書を取り交わしました。

日照市は、人口約285万人、面積5,310 km²、中国黄海に臨み、山東半島の南にあり、海を隔てて日本・朝鮮半島と向き合っている新興の沿岸港湾都市です。年平均気温が12.7度で四季がはっきりしています。(東京都とほぼ同緯度、管轄区域は室蘭市の約66倍)

歴史は古く、中華文明の重要な発祥地の一つといわれ5千年の歴史があり、数々の遺構や遺跡が発見される中、中国で一番古い象形文字が発見されました。また、国の宝と称されている「日照黒陶」の発祥の地でもあります。市名は「太陽の光を最も先に浴びる場所」として、名付けられました。

昭和60年(1989)に市制施行、平成3年(1991)に国からの特別開発区の指定を受け、港(日照港・嵐山港)を中心とした工業都市として発展して来ました。また、農産物の生産地でもあり、小麦・トウモロコシ・水稻・落花生・綿花・煙草・蚕・お茶などを生産しており、特にお茶の生産量は山東省で最大の生産地です。さらに、車エビ・ホタテ貝・ハマグリ・ナマコなどの海産物の種類も豊富です。一方、海岸線は100 kmもあり、その間きれいな砂浜が64 kmも延々と続き、海水浴場や森林公園などの施設が整い、リゾート地として市民の憩いの場となっています。浮来山には、樹齢3500年もの天下一銀杏があります。

交流都市

・宮古島市（沖縄県）

平成17年10月1日に、平良市が近隣の4町村と合併し、新たに「宮古島市」が誕生しました。本市とは、200年以上前に日本を訪れた英国の探検船プロビデンス号が室蘭市へ寄港し、その翌年プロビデンス号が宮古島市(旧平良市)沖で座礁したという歴史的な出来事を共有している縁で交流が始まりました。平成10年8月3日に、「海とロマンが結ぶ交流都市」として提携し、小学生の交流訪問をはじめ、物産展など市民レベルでの活発な交流を行っています。

宮古島市は、人口約5万4千人、面積は204 km²で、沖縄本島から南西約310 kmの距離に位置し、南海に浮かぶ宮古島を中心に大小6つの島々(宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島)からなっています。これらの島々は、サンゴ礁に囲まれ、全体がおおむね平坦で大きな河川や湖沼もなく、生活用水等はほとんど地下水に頼っています。その現状と合わせ、宮古島では地下水を守ることで環境作りのため、「エコアイランド宮古島」を宣言しています。

年平均気温は23.3度、年平均湿度は79%、降水量の年平均値は2,019 mmで、四方の海から吹く風で熱さがやわらぎ、1年を通して寒暖の差が少なく穏やかな気候です。コーラルサンド(サンゴ粒砂)とも呼ばれる白く美しい砂浜や巨大なサンゴ礁群の八重干瀬(ヤビジ)が有名です。

第2章 室蘭市の歴史

主に「室蘭市史」から抜粋しています。

1. はじめに

かつて蝦夷地(えぞち)と呼ばれた北海道は、長い間アイヌの人たちの土地で、室蘭に和人が住み着いたのは、今からおよそ400年程前の慶長年間(1600年頃)に、アイヌの人たちとの商取引引きのために「絵鞆場所」が設けられてからです。そのころ、本州では豊臣秀吉が没し、政権は徳川家康に移った時代でした。

アイヌ文化の歴史が刻まれた自然が破壊されず残っている北海道は、本州から来る観光客にとって、それが何のものにも代えられない魅力になっています。私たちは、それを大いに誇りにし、自慢できるのです。とりわけ、私たちの住む室蘭市は、絵鞆半島という天然の地の利を得て、工場群や住宅地と背中合わせに豊かな自然が広がるすばらしい地形になっており、地球岬をはじめトッカリシヨ、マスイチ、鳴砂のイタンキ浜など、アイヌ文化が地名として息づく他に例のないすばらしい景勝地などがあり、これらを知れば知るほどふるさと室蘭の良さが分かってくるのです。

2. 室蘭の先史時代

北海道に人類が現れたのは、おそらく数万年前といわれていますが、室蘭地方に先住民が住み始めるのは、その生活跡から、約7千年から6千年前頃とみられ、縄文時代早期の土器が絵鞆遺跡から出土しています。この絵鞆遺跡を含め、市内では、37カ所の埋蔵文化財包蔵地(ほうそうち)が確認されています。

・輪西遺跡から出土した土偶(国の重要文化財)

大正7年に縄文時代晩期(約3~2千年前)の土偶が、輪西村北海道製鉄の社宅用地から、ほとんど完全な形で出土したと報じられました。現在、東京国立博物館(上野公園内)に重要文化財として収蔵されています。

・「続縄文」提唱の地

水稲稲作が普及した本州以南に対し、北海道内では狩猟採集・漁労による生活が続きました。本州以南の弥生・古墳時代を道内では、「続縄文(ぞくじょうもん)」と呼びますが、この由来となったのが室蘭の本輪西です。大正末年、この辺りの遺跡の調査により、本州とは異なる道内の歴史があきらかになったのです。

・先史時代人の復顔

今から約2千年前の先史時代人(続縄文時代人)の頭蓋骨が、昭和38年に絵鞆遺跡から発掘されました。このお墓に残されていた頭蓋骨は、昭和55年に法医学的方法で複顔が行われ、民俗資料館に展示されています。

3. 松前藩と絵鞆場所の開設

松前藩が絵鞆場所を開いたのは、今からおよそ400年前の慶長年間(1600年頃)といわれていますが、はっきりした年代は分かっていません。

エンルム(絵鞆岬)の丘の上に、和人とアイヌの人たちが、商取引をする運上屋(うんじょうや)が建てられ、和人はアイヌの人たちが必要とする米・たばこ・酒・塩・衣類などを贈り、その返礼として海産物(ニシン・サケ・コンブなど)・クマ・シカの毛皮などを受け取っていました。(当時は、米1俵とサケ100尾の交換が相場といわれています)

最初のころは、取引引きも正常に行われていましたが、後には目に余る不正取引引きやアイヌの人たちからの搾取(さくしゅ)が横行するようになりました。この絵鞆運上屋は、後に場所が幕府直轄となり、モロラン(今の崎守町)に移されるまで、約200年もの間続き、絵鞆場所は蝦夷地の上陸地点として交通の要路となり、弁財船(べんざいせん=江戸時代の商船)の出入りも盛んでした。

・場所制度

豊臣政権以降、蝦夷地(北海道)支配は松前藩に任されました。松前藩は、蝦夷地を数十場所に分割して、アイヌの人たちと交易をするため、主だった家臣に知行地(支配地)として分け与えました。場所は、おおよそアイヌの人たちの共同漁猟場の範囲を基に定めており、室蘭地方は総称して「モロラン場所」と呼ばれました。

4. プロビデンス号の来航

外国船が日本近海に姿を見せ始めたのは、ろうそくの原料となるクジラの捕獲や金・銀の探索のためでした。特にコロンブスのアメリカ大陸発見(1492)以来、東洋を訪れる船も多くなり、マルコ・ポーロの『東方見聞録(とうほうけんぶんろく)』の中に「日本という大きな島は、黄金が無尽蔵なまでに埋蔵されている」と書かれたため、外国船が次第にその数を増やしました。

「黄金の島ジパング」に夢を広げ、太平洋に残り少なくなった未開拓地と交易航路を求めて、嘉永6年(1853)のペリーの黒船艦隊来航より50年以上も前の寛政8年(1796)に、ウィリアム・ロバート・プロトン船長が率いるイギリス海軍の探検船プロビデンス号(バーク型帆船)が松前藩領下の絵鞆に来航しました。このとき、デンマーク生まれの水兵ハンス・オルソンが作業中の事故で死亡、その遺体を大黒島に葬ったことから、この島をオルソン島と名付けました。

プロビデンス号は、その後、宮古島沖で沈没しましたが、スクナー型帆船のプロビデンス号として翌年の寛政9年(1797)にも来航してアイヌの人たちとも交流し、港内の測量を行いました。プロトン船長は、故国に帰ってからその著書『北太平洋探検の航海』で、北海道に「エンデルモ(エトモ)・ハーバー」という天然の良港ありと、室蘭港の良さを広めるとともに、有珠山や駒ヶ岳などの火山群を見て、この湾を「ボルケイノ・ベイ」(噴火湾)と名付け、1804年に初めて世界に紹介しました。(大黒島...17ページ、プロビデンス号の来航記念碑...37ページ、交流都市・宮古島市...7ページ、プロビデンス号知ろう館...97ページ、各参照)

- ・ 民俗資料館に、プロビデンス号の模型が展示されています。昭和36年(1961)に、イギリス海軍ブラックプール号が室蘭に入港したのがきっかけで、次のような経緯で作られました。同号のミッシェル・ステッシー艦長は、水族館内のプロビデンス号来航記念碑と大黒島にある水兵だったハンス・オルソンの慰霊碑を訪れ、大いに感謝して帰国。その後、艦長が、英海事博物館でプロビデンス号の設計図を発見し、室蘭市に送ってくれました。市が、当時の檜崎造船所(現在は函館どつくと合併)に、設計図を基にした同号の模型製作を依頼して完成しました。
- ・ 市民団体の(一財)室蘭ルネッサンス(電話0143-23-6600)が、平成16年3月にプロビデンス号来航の史実と秘話をもとに「室蘭の夜明け」というビデオを制作し、貸し出しを行っています。

5. 交通の要路モロラン

寛政11年(1799)幕府は、松前藩に北辺の警備能力が無いこと、場所請負人が搾取、不正、私利私欲をむさぼるため、場所を幕府直轄とし、同時に運上屋を「会所(かいしょ)」と改め役人を置くようになりました。さらに文化2年(1805)頃、向かい側のモロラン(今の崎守町)に会所が移されましたが、その会所は、間口16間(1間=1.8m)、奥行き4間と、64坪もある大きな建物で、新たに通行屋も設けられました。

蝦夷地を直轄とすると幕府は道路の開削も行い、崎守は蝦夷地警備における兵力移動の敏速化という軍事面と、奥地場所への交通の要路として、重要な役割を果たすようになり、明治5年札幌本道の開削までの約70年間、室蘭地方最大の部落を形作るまでに発展しました。

当時の交通路は、伊達方面から崎守町仙海寺の坂(室蘭の語源となった坂)を下り、崎守町からペケレオタ(陣屋町)を通り、ここから山に入り、知利別を経由して鷲別に抜けましたが、7つの山を越えなければならず「7段坂」と呼ばれる険しい道でした。(室蘭の坂...52ページ参照)

6. 南部陣屋

日本近海に外国船の出没が頻繁になり、幕府は北辺警備のため室蘭に出張陣屋(でばりじんや)を建てることになりました。

安政2年(1855)幕府は、南部藩(盛岡藩)に函館から幌別までの警備を命じ、勘定奉行の新渡戸(にとべ)十次郎が構築計画を担当しました。

室蘭の警備は、オйнаウシ(追直)に見張所を設置し、ポロシレト(崎守神社の上側)と対岸のエトモ岬に砲台場を設け、ペケレオタ(陣屋町)に出張陣屋を築き、各2門ずつの砲台から一斉砲撃により三方から挟み撃ちで、港内に侵入しようとする外国船を追い払うという布陣でした。

出張陣屋は翌安政3年(1856)にわずか半年ほどで完成し、背後に丘陵を背負い、二重の土塁と壕を巡らしています。陣屋跡に今も残る杉林は、当時植えられたもので、約160年の歴史を今にしのばせています。

陣屋には、常時 350人ほどの兵や村夫で警備に当たっていましたが、外国船との戦闘は一度もなく、明治維新のとき新政府への引き渡しを拒んで、陣屋は焼き払われ、13年間室蘭を守り続けてきた藩士たちは、故郷の盛岡へ引き上げました。

この陣屋跡は、昭和47年(1972)に平面復元工事を行っており、建物の礎石や石畳は当時のまま残されています。

7. 開拓の先駆者たち

明治新政府が、北海道の開拓に当たって拠点を札幌に決めたのは、それなりの理由がありました。幕末以来、函館は奉行所や裁判所の所在地として、また開港場として、行政・経済上の中心都市でした。しかし、北海道全土にわたって開拓を推し進めるためには、軍事的面からも、南端の函館では不適当なことから、北海道の中心部の札幌府に決定しました。

しかし、無一文から出発した新政府は、莫大な経費を必要とする開拓事業の実施に際し、分割支配(北海道を11カ国86郡に分割)による開拓方法をとることになりました。

胆振国室蘭郡の支配を命じられたのは、旧仙台藩角田領(現在の宮城県角田市付近)領主の石川邦光でした。

明治3年(1870)3月16日、故郷仙台の角田村を後にした、藩主石川邦光の重臣、添田竜吉と弟の泉麟太郎が率いる第一陣の移住者44戸51人(男46人、女5人、家族4戸)が、第2の故郷となる北の国、室蘭に着いたのは、早春の風がまだ肌寒い14月6日でした。

入植はチマイベツ(石川町・香川町)に27戸、本輪西・幌萌・知利別に17戸で、一行は、とりあえず雨露をしのぐ程度の掘っ立て小屋を組んで身を伏せ、翌日には、長旅の疲れを癒す暇もなく、さっそく大地に鍬(くわ)を振り下ろしました。

刀を鍬に変えての慣れない百姓仕事に加え、うっそうと生い茂った木と石混じりのやせた土地で手にできたマメは破れ、五体をさいなむ難作業に歯を食いしばっての忍耐の毎日が始まりました。重労働の毎日にもかかわらず、不運にも収穫皆無に等しい年もあり、泉麟太郎は、さし当たっての窮状をなんとか切り抜けようと、元気な若者10人を選んで札幌に出稼ぎに行ったりもしました。その日その日の生活を支えるため、苫小牧や日高に出かけて鹿を捕り、肉は食糧に、毛皮は函館まで運んで売りさばいたりもしました。

事業としては、石川町や本輪西町で養蚕や、現在の本輪西駅前付近で鋳物場を建て、日用家庭器具の製造も行っていました。最も成功した事業は、輪西氷と呼ばれたもので、現在のホームストア港北店裏あたりに、コイカクシ川から水を引いて貯水場を作り、夏はコイ・ヤマメ・ウナギを養殖し、12月からは水を凍結させ大阪方面に出荷しました。良質なため暑い関西では、大変重宝がられ好評を博しました。

明治6年(1873)、13歳の旧藩主石川邦光の弟、石川光親が3戸の同志を伴って移住、さらに同14年には61戸211人が移住してきました。後に農地が狭いなどの理由から、泉麟太郎など7戸24人が夕張郡アノ口に移り、現在の栗山町の前身を築きました。

・胆振という地名の由来

「日本書紀」によれば、斉明天皇(在位655～661年)の代、阿部臣(おみ)が北征した時に胆振鉏(いふりさへ)の蝦夷人を宴会に招待しました。古くは新井白石が胆振鉏とは北海道の勇払(いぶつ)地域のことではないかと物の本に書いています。

明治初年(1868)、松浦武四郎が、北海道の国郡名について「噴火湾の山越内から沙流境までを一国にしたい。その中で、勇払は大場所アイヌも多いから、中心地としたらよい」とし、その国名としては「日本書記の胆振に気が付いたので、“胆振”でいかがでしょうか」と北海道開拓使長官に明治2年に建議したことから、胆振という国名ができました。

(『北海道大百科事典』より)

8．札幌本道の開削と室蘭の開港

明治5年(1872)の春、トキカラモイ(海岸町と緑町の境界付近)に、室蘭の夜明けを告げる建設のつち音が高らかに響き始まりました。

道都札幌への道(函館～森 - <海路> - 室蘭～札幌)、札幌本道の築造工事が始まったのです。この道路は、マカダム式舗装(砂利敷)による長距離道路として、日本で最初に作られた車馬道でした。(本州にも立派な道路はたくさんありましたが、一雨降る度に泥濘(ぬかるみ)がひどくなる道路で、本格的な砂利敷道路ではありませんでした。)

開拓使の陸地測量兼道路築造長のワーフィールドが、このあたり一帯の地形を見渡せるホシケサンベ(測量山)の山頂に登って、三角測量の基点を定めて測量を行ったことから、後にこの山を測量山と呼ぶようになりました。

工事は最初のうち180人前後で始められましたが、函館～森間の工事が終わった7月ころには総勢 5,082人と本格的な工事に入り、8月にはトキカラモイから鷲別までの山道開削を終え、9月には樽前まで進むスピード工事でした。工事に従事していた人たちは、外国人教師の仮住居のほかは、開拓使の役人はもちろん、職工・人夫らがいくつかの組に分かれ、テント張りの掘って小屋で生活をしていたため、病人が続出しました。

明治5年10月、開拓使は、トキカラモイ付近を「新室蘭」とし、室蘭村(崎守町)を旧室蘭と改めました。現在の崎守町は、その後「元室蘭」と呼ばれましたが、地元住民は元の室蘭ではなく本当の室蘭だということから「本室蘭」に改め、現在でもこの地名が学校の名前に残っています。この新室蘭の発展と共に、会所が建てられて以来、約70年もの間、交通の要路として栄えた崎守町は、急速に衰えていくことになりました。

開拓地の常として、ここで働く人々は、いずれも粗暴であり、普通のやり方では統率できないため、組頭は帯刀を許されており、中にはいつも日本刀を抜き身で持ったまま指揮にあたる者もいました。

人夫などの労働者に対する規則は厳しく、印鑑を紛失すると賃金カット、病気をしても無届けで欠勤すると5日分の賃金を半分に減らされるなど、苛酷(かこく)なものでした。そして死亡者が出れば切り開かれた山上に葬られたため、そのそばの坂を「仏坂」と呼ぶようになりました。この名を忌み嫌って、昭和7年、現在のNHK付近に市役所があったことから「市役所通り」と改められましたが、今なお仏坂の名で呼ばれています。(室蘭の坂...52ページ参照)

本道の工事は、10月に札幌本府の直前まで進みましたが、指導者のワーフィールドが酒乱のため解任され、また寒さのため工事が難航したこともあって、工事をいったん打ち切り、多くの人たちが新室蘭で越冬することになりました。このため、幕西は、酒と賭博に明け暮れた荒くれ者のけんかが絶えず殺人事件が多発したため、幕西坂は「人殺し坂」とも呼ばれていました。

札幌本道工事と並行して行われていたトキカラモイの棧橋工事は、長さ47m、幅2mの木造埠頭として築かれ、明治5年7月に完成しました。棧橋完成とともに、室蘭・森間の定期航路の第1船として就航したのは、開拓使の付属船「稲川丸」(15t、25馬力、乗員11人)で、この明治5年(1872)が、室蘭港開港の年とされています。

9 . 明治天皇室蘭へ

開拓使による北海道開拓10カ年計画は、明治14年(1881)で終わることになりますが、黒田清隆開拓長官は、開拓使の廃止を前に、北海道開拓事業の進行状況や民情をつぶさに見てもらうため、明治天皇を北海道に迎え入れました。

天皇は、明治14年8月30日小樽に入港し、9月4日に室蘭に入りました。驚別から室蘭までの約8kmの道は、旧仙台藩角田領の移住者・添田竜吉ら数百人が整備したもので、その時道路の地ならしに使った石のローラーは、現在も民俗資料館前庭に展示されています。

天皇を乗せた車引きは、旧仙台藩角田領の移住者の中から選ばれた40人の若者が奉仕しましたが、この時指揮に当たった添田竜吉の弟、泉麟太郎は、天皇の車に背を向けるのはおそれおおいと後ろ向きに歩いて指揮をしたといひます。

室蘭に入った明治天皇は、まずベシボッケの上(現在のみゆき町、潮見公園内に大砲の弾のような形をした「明治天皇御野立所(めいじてんのうおんのだてしょ)」の記念碑があります)の休所でお休みになり、午後5時ころ母恋小休所(現在の御傘山神社前)に着きました。

そのころベシボッケにしても御傘山神社付近にしても、民家はほとんどなく、一望の中、波静かな水面に白鳥の舞う室蘭港が見られました。

長旅の道中に、喉が渇いた天皇は、水を所望(しょう)されましたが、ちょうど近くにこんこんと湧き出る清水があったので、これを天皇に差し上げたところことのほか満足されました。これが後に、天沢泉(てんたくせん)と名付けられ、今も御傘山神社の一角に記念碑が残っています。また、大正11年(1922)の町名改正のとき、御膳水にちなみ、このあたり一帯を御前水町と名付けました。(碑および史跡...37ページ)

その日は、山中旅館(旧室蘭駅前階段を上り切った右側にあった)にお泊りになりましたが、ここからも港内が一望でき、アイヌの人たちは100隻あまりの小舟を出し、イルカを追いつめる実演などをして見せました。

当時の室蘭には、132戸の住家しかなく、300人からの皇族や政府高官、あるいは天皇陛下を拜もうとする近在からの宿泊に、どの家でも3人から5人の泊まり客があり、開港以来の重大事だったといひます。

10 . 屯田兵の入植

明治20年(1887)、当時の輪西村(蘭北・蘭東一帯)に、鳥取県51戸、愛媛県43戸、兵庫県16戸の計110戸、528人が室蘭屯田兵中隊の第1陣として移住してきました。

屯田兵の移民の最大の問題は、土地の給与にありました。移住者の生計に最大の影響を与えるのは、その土地の土壌の良否であり、土地の肥えた所に入植できれば良いものの、条件の悪い所に入植した人たちは悲惨でした。

屯田兵村の土地選定には、軍事上の要地 開墾上の拠点 農耕適地 広大な面積が必要条件でしたが、室蘭の場合は、交通の要衝として軍事上の観点を優先して選定したため、農耕地としては最悪の条件下にあったにもかかわらず入植しなければならず、屯田兵たちは大変な苦勞をすることになりました。

明治22年(1889)には第2陣として、福岡県60戸、佐賀県30戸、石川県20戸の計110戸581人が移住してきましたが、明治34年に解隊されたときには、わずか10数戸に減っており、その厳しさがうかがえます。

室蘭屯田兵の中隊本部は、現在の中嶋神社の所に建てられました。当時この辺り一帯は低湿地帯で、ここだけが葦(あし・よし)原に浮かぶ中島のようなことから、中島台と名付けたといわれています。

室蘭に入植してきた屯田兵たちには、1戸あたり3千坪の給与地と17.5坪の兵屋が与えられ開墾に汗を流しました。

朝4時に、中隊本部の中島台から起床ラッパが鳴り、すぐ掃除をして朝食をとり、それから作業にかかるためのラッパが再び鳴りました。戸主は兵隊でもあるため、午前中は訓練で、中には3時半頃から農作業にとりかかる家もありました。しかし、湿地・荒地、さらに天候不良の中での重労働は大変なもので、入植後、半年もしないうちに逃亡する者も出てきました。

作物は、ジャガイモ・ダイズ・アズキ・アワ・キビのような物で、稲作も知利別周辺で何度か試みていますが、ことごとく失敗しています。そのため、食卓は毎日じゃがいもを中心にした代用食ばかりで、ほかの住民から「いも屯田」と笑われたりもしました。

楽しみは、日曜日の潮干狩りで、現在の新日鐵住金あたりの浜は、ずっと遠浅になっていてウニ・コンブ・アサリなどがいくらでも採れました。

中隊本部のあった中嶋神社の境内には、屯田兵記念碑(市指定文化財)のほか当時の火薬庫(市指定文化財)がそのまま残っています。(市の指定文化財...34ページ)

・屯田兵制度

明治6年(1873)、明治政府が、移住者の保護 国防上からの北辺警備 北海道の開拓 窮乏士族に対する授産 のために採用された制度で、同37年に廃止されました。

屯田兵の義務は、兵事訓練 開墾 警備 有事の際戦列に参加 することでした。4月から9月までは、午前4時起床、午前6時から午後6時までの労働、10月から3月までは午前5時起床、午前7時から午後5時までの労働と、士族として育った者にとっては苦しい労働でした。

11. 三港定期航路

明治5年(1872)に、札幌本道開削とともに室蘭 - 森間の定期航路が開設されました。定期船は小型の古船であったため、しばしば欠航しましたが、明治18年(1885)この航路は、日本郵船会社に経営を引き継ぎ、室蘭丸(52t)が正確な発着時間の運行を行い、以前の悪評を解消しました。

しかし、森に上陸し、函館まで11里(44km)の陸路は、馬車で9時間もかかり非効率的だったため、郵船会社は明治26年(1893)、21年間続いた同航路(室蘭 - 森航路は、明治37年再び開かれましたが、やがて長万部 - 室蘭間の鉄道開通によってその役目を終えました)を廃止し、室蘭・函館・青森を結ぶ三港定期航路を新設しました。

このとき、郵船の取り次ぎ店の指定に成功した酒屋の栗林五朔(くりばやしごさく)が、これをきっかけに、室蘭から海運業界に飛躍的な発展を遂げることになりました。

12. 鉄道の開設と石炭の積み出し

明治25年(1892)、夕張鉄道が全通するとともに、北海道炭礦鉄道会社(以下北炭)が石炭積み出しのため、岩見沢・室蘭(輪西)間に鉄道を敷設し、現在の新日鐵住金の一門付近に室蘭停車場を開設して、一般旅客の取り扱いを開始しました。それと同時に、イトツケレップ(現在の御崎駅付近)に貨物専用駅を設置し、木造栈橋では、石炭の積み出しも開始され、この年は、室蘭が大きく飛躍する記念すべき年となりました。

さらに明治27年(1894)、室蘭港が特別輸出港に指定され、石炭・米・麦粉・硫黄に限って海外直輸出が出来るようになってからは、北炭が小樽港を国内向け石炭の供給地とし、太平洋の玄関口を占める室蘭港を外国向け石炭輸出港としたことにより、室蘭港は石炭積み出し港として飛躍的に発展し、小樽港とその地位が逆転するようになりました。

明治30年(1897)には、輪西から仏坂下まで線路を敷設、停車場を新設して「室蘭停車場」とし、従来の室蘭停車場は「輪西停車場」としました。その後、港の埋め立て工事の完成に伴い、明治36年、仏坂下の停車場を現在の室蘭駅裏手に新設、さらに、明治45年に現在の旧室蘭駅舎のある場所に室蘭駅を移転新築しました。

この旧室蘭駅舎は、多少の改造があったものの、札幌の時計台と同じ「寄せ棟造り」で、明治の面影を今に残す貴重な建物です。(旧室蘭駅舎...65ページ参照)

鉄道開設当初の室蘭側の終点が、イトツケレップ(御崎町)で止まったのは、明治26年、室蘭を軍港に指定した経過からも分かるように、現在の母恋や日本製鋼所付近が、軍事上の活用予定から許可されないためでした。

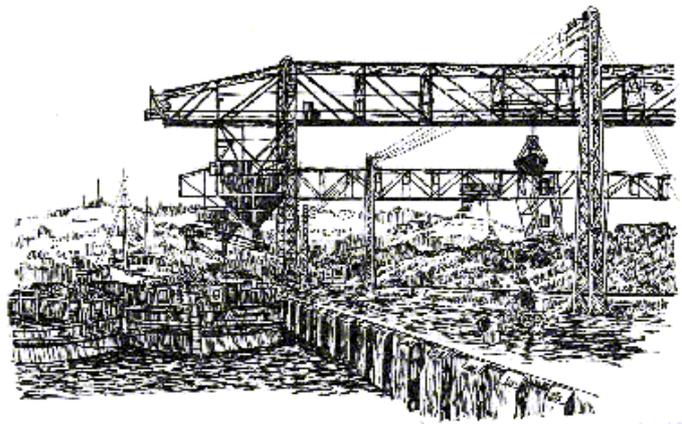
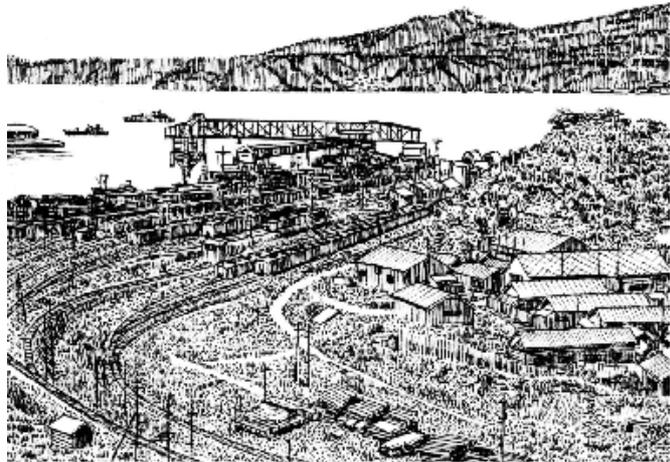
また、イトツケレップと室蘭に分かれる御崎付近の分岐点に、菱形の転轍器(てんてつき)が取り付けられたことから、この付近一帯を「ダイヤモンド」と呼ぶようになったといわれています。

明治39年(1906)、鉄道が国有化され、鉄道院が同44年、茶津(現在のフェリー埠頭)に石炭積み込み用の高架栈橋(高さは海面上平均18.6m、延長は水面部355m、陸上部218m)

を完成させてからは、一昼夜に6,600tの石炭荷役が可能になり、大正3年(1914)から5年にかけて、第1次世界大戦の影響で石炭の集散は、さらに増加して最も盛んになりましたが、大戦終了後は世界的な不況のあおりを受けて減少しました。

北炭は、鉄道の国有化に伴い、国に売却した資金で、明治40年、日本製鋼所を発足させ、室蘭に工場と本社、東京に出張所を置きました。(大正4年(1915)に本社を東京に移す)。

さらに、明治42年に輪西製鐵場を建設し、自社の石炭を使用して、砂鉄と鉄鉱石との混合による日本最初の製鉄を開始しました。この輪西製鐵場は、輪西製鐵所、日本製鐵株、富士製鐵株、新日本製鐵株などの変遷(へんせん)を経て、現在は新日鐵住金株となっています。



13. 戦時下の室蘭

第2次世界大戦(昭和6年の満州事変～昭和16年の太平洋戦争～昭和20年の終戦)の戦線拡大とともに、室蘭の軍需工場は重要であるため政府の管理下に置かれ、機密保持のため徹底的に管理されました。重兵器はもとより、銃弾などの消耗兵器と、それに要する鉄鋼は、質・量ともに戦力増強の要(かなめ)であり、製鐵・製鋼所は増産に次ぐ増産を続け、工場の機械は24時間うなり続け、主要な作業は昼夜二交替制で行われ、1日当たり12時間から15時間ほどの労働を強制されました。

日本製鋼所は、国内でも高度の技術陣を持ち、日本最大の巨大な1万トンプレスが鍛えた鉄鋼は、戦艦陸奥(むつ)や長門(ながと)などの砲塔・砲身や巨大戦艦大和(やまと)の装甲板となるなど、世界の四大民間兵器メーカーとして力を発揮していました。

こうした中で、食糧増産や戦力増強などのため、市民の勤労働員が盛んに行われました。代表的なのは、八丁平の飛行場作りで、軍の指導のもとに町内会に勤労奉仕が強制的に割り当てられ、慣れない重労働に駆り出されました。

一方、朝鮮人や中国人が強制連行され、戦争は悲惨な禍根を残すことにもなりました。朝鮮人の強制連行は、昭和14年(1939)から始まり、同20年までに、約113万人が日本各地に連行され、敗戦時には、日本製鐵輪西製鐵所(現在の新日鐵住金株)に2,248人の朝鮮人労働者がいたといわれ、苛酷な労働条件を強いられていました。また、中国人も同様で、北海道には1万5千人、室蘭には昭和19年から同20年にかけて1,855人が配置され、港湾荷役などの重労働に就かせたうえ、食糧・衣服など待遇は劣悪を極めました。

14. 幻の飛行場「八丁平」

昭和10年(1935)3月18日、室蘭市議会は「市営飛行場」の建設提案を可決しました。これは、帝国飛行協会の呼び掛けで、札幌・東京間の定期航空路の要衝としての役割を果たすためのものでした。

同年7月1日、八丁平の市有牧場内に、延長300m、幅11.5mの飛行場の造成に着工、9月30日、地ならしをただけの粗末な滑走路が誕生しました。

しかし、1機も飛ばないうちに太平洋戦争に突入。今度は軍用飛行場として、市民の勤労奉仕による建設作業が始まりました。老人、主婦、旧制中学校の生徒も総動員しての作業で、昭和初期以前に生まれた人であれば、ほとんどの人が有事の際には、ここから勇ましい飛行機が飛び立つのを夢見ながら、重労働に耐えたのでしょう。

昭和18年(1943)、飛行第63戦隊の「九七戦」の一部が室蘭防空のため、駐屯したことがありますが、昭和20年(1945)7月14・15日の空襲・艦砲射撃のときには、この飛行場からは1機の飛行機も飛び立つことはありませんでした。

今は、区画整理事業で宅地化され、住宅地として生まれ変わっています。

15. 空襲と艦砲射撃

昭和20年(1945)7月14日の土曜日の夜明け、本道沖合にあったアメリカ軍の空母などから、グラマンF6Fなどが次々と本道上空に飛び立ち、室蘭上空には30機から40機が飛来、午前と午後の2回にわたって船舶や埠頭・灯台・鉄道・市街地に銃爆撃が加えられました。港の内外では20隻近くの船が沈められ、工場も大きな被害を受けました。午後4時過ぎに空襲警報がようやく解除され、長かった1日が終わりました。

しかし、翌日の日曜日朝から警戒警報と空襲警報がたて続けに鳴り響き、市民は防空壕などに避難しました。午前9時30分、戦艦3隻による日本製鋼所室蘭製作所・日本製鐵輪西製鐵所の二大軍需工場に狙いをつけた、約1時間にわたる艦砲射撃の開始でした。艦砲射撃は、軍需工場ばかりでなく、市街地や社宅街にも撃ち込まれ、特に御前水や中島社宅街は目を覆うよう

な惨状で、一瞬のうちに地獄と化した中島社宅街では、路上に死体がころがり、五体満足のものはなく、首・胴体・手足だけという惨状でした。砲撃は約1時間にわたり、3隻の戦艦の16インチ砲から1トンの砲弾が合計860発打ち込まれました。壕の中で「今にもこの壕に命中するのでは…」と生きた心地もせず恐怖に身を縮ませていた市民にとっては、実に長い1時間でした。

これらの攻撃の際、市民は室蘭防衛部隊からの反撃を今か今かと待っていましたが、あれほど精鋭を誇ったはずの陸軍の砲火は14日の空襲には応戦したものの、艦砲射撃の前にはなすすべもなく、ついに火を吹かずじまいでした。そして、市民の勤労奉仕で築かれた八丁平飛行場からは、とうとう1機の飛行機も飛び立ちませんでした。

この2日間の室蘭における被害は、戦後、経済安定部が発表したところによると14日は、死者6人、重傷者2人、15日は、死者387人、重傷者105人、行方不明者15人となっていますが、その人数の根拠となる資料がはっきりしていないことや、この数字には、軍関係者の数は含まれていないため、正確な死傷者数は分かっていません。(慰霊碑...39・40ページ、戦跡...42ページ参照)

16. 戦後の室蘭

終戦後の室蘭は、文字どおり火の消えたような状態でした。軍需工場は閉鎖、室蘭港内には空襲で撃沈された船があちこちに沈み、港内は機雷の危険があるとして封鎖されるなど、室蘭港は、まさに死の港となっていました。

戦争で大きな痛手を受け、市民には苦しい日々が続きましたが、時の公選による初代の熊谷綾雄市長を先頭に港の再開陳情を重ね、昭和22年(1947)に港の封鎖が解かれました。これを契機に沈滞ムードを一掃するため、室蘭商工会議所が主体となって、市・港湾関係・商工業者団体・報道機関などの協力を得て、海の日(7月20日)を中心に第1回「復興港まつり」を1週間にわたり盛大に開催しました。これが今に続く港まつりの始まりです。

室蘭市は、天然の良港を背景にいち早く平和産業に転換し、重工業地帯として復興の道を歩みはじめ、昭和31年に富士セメント(現 日鉄住金セメント株)、翌年には、日本石油精製(現 JXエネルギー株)と大型企業が相次いで立地し、人口も終戦時の91,178人から昭和45年には162,059人まで急増しました。

この間、昭和29年の日鋼争議、昭和40年(1965)のノルウェーのタンカー「ヘイムバード号」の爆発火災などの事件があり、また、昭和48年と同52年には、二度にわたりオイルショックによる経済不況、そして市内大手の企業である新日本製鐵株(現 新日鐵住金株)の高炉休止と、次々と襲う合理化の波など、室蘭市民は多くの試練に立たされてきました。

しかし、一方では、官民一体となった地域づくりへの取り組みや、既存企業の新規事業への展開、三菱製鋼室蘭特殊鋼株を始めとする企業誘致の成果のほか、豊かな自然を生かした観光都市への脱皮など、さまざまな面で室蘭活性化への道を歩み続けています。

第3章 室蘭市内案内

1.景勝地

室蘭八景（昭和45年(1970)に市民投票などにより選定）

- ・室蘭港の夜景（24ページ参照）
- ・地球岬の絶景（20ページ参照）
- ・測量山の展望（19ページ参照）
- ・絵鞆岬の景観（同ページ参照）
- ・金屏風、銀屏風の断崖絶壁（20ページ参照）
- ・黒百合咲く大黒島（同ページ参照）
- ・マスイチ浜の外海展望（同ページ参照）
- ・トッカリシヨの奇勝（20ページ参照）

絵鞆岬（室蘭駅から5.0km）

絵鞆半島の先端にあるこの岬は、噴火湾を中心として昭和山や有珠山、羊蹄山などが眺望できる代表的な景観地として室蘭八景の一つになっています。また、絵鞆の地名は、語源となるアイヌ語の「エンルム」（岬）から転化したものです。（展望台...26ページ参照）

マスイチ浜（室蘭駅から6.2km）

語源はアイヌ語で「マス・チセ」（ウミネコの家）といい、ウミネコの巣が多かったことからこのような名がついています。付近には、ローソク岩や仲よく並んだカモメ岩、通称“象岩”と呼ばれるゾウが寝そべった形そっくりの岩があり、また、噴火湾を隔てた駒ヶ岳などの眺望はパノラマを見るようで、室蘭八景の一つになっています。



昭和34年(1959)には、この浜からアイヌの人たちの遺跡が発見され、この入江を舞台におおらかな狩猟生活を送っていたのがうかがい知れます。（名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸...35ページ参照）

大黒島（絵鞆岬から海上約1km）

アイヌ語ではボロモシリ(親である島)といい、室蘭港の入り口に浮かぶ、周囲約700m、標高35m、面積2.4haの小さな島です（公共渡し船はありません）。



天保9年(1837)から7年間、この地域の場所請負人をしていた岡田半兵衛が、安全祈願のため島内に大黒天を祭ったことから「大黒島」と呼ばれました。

昭和30年室蘭ロータリークラブによって、島の頂上にハンス・オルソンの慰霊碑が建立されました。平成8年(1996)に室蘭ルネッサンスによってプロビデンス号来航二百年祭が開催され、英国大使サー・デビット・ライト夫妻が招かれ、この慰霊碑に献花しました。（ハンス・オルソンの慰霊碑、プロビデンス来航記念日碑...37ページ）

海事関係者の間では、「オルソン島」の名で、世界的に知られています。（プロビデンス号の来航...9ページ、ハンス・オルソンの慰霊碑...37ページ参照）

mini情報 大黒島と黒ユリ

寛政8年(1796)英国船プロビデンス号が来航し、このとき倒木により事故死したデンマーク人水兵ハンス・オルソンがこの島に葬られたところから、島には黒百合が咲き始めたという伝説があります。

昭和45年(1970)制定の「室蘭八景」でも“黒百合咲く大黒島”というキャッチフレーズが付いており、昔は黒百合が多かったようです。しかし、心ない乱獲者のせいなどで幻の花となりかけましたが、平成11年(1999)から市民の手によって植栽が続けられています。

旧室蘭灯台 (大黒島)

明治24年(1891)4月に建設され、同年11月1日に初点灯した道内17番目の灯台です。同37年(1904)4月1日に霧信号所が併設されてから、昭和52年(1977)までの長い年月、室蘭港の道しるべとして航海の安全を守ってきました。

昭和49年(1974)11月、外防波堤に新しく灯台が設置されたため、大黒島の灯台は消灯しました。同53年(1978)7月には霧信号所も廃止されたので、同年8月から市が大黒島の管理委託を受けています。

灯台は、初点灯日を設置年月日とし、順番はそれによるものです。(室蘭海上保安部による)

白鳥大橋

昭和30年(1955)に、時の北海道開発局室蘭開発建設部長が、港をひとまたぎする大橋を提唱しました。当時は、夢の大橋とさえいわれたこの橋ですが、室蘭地域の経済の成長に伴い、その必要性が強く叫ばれ、官民一体の運動が実を結び、同56年に事業化が決定、同60年に工事が着工、平成10年(1998)6月13日に開通しました。

橋は全長1,380m、中央径間が720mあり、日本で10番目、東日本では最大の吊り橋です。本市の交通体系の確立、港湾機能の充実、流通の合理化のほか、地域開発が促進されるなど本市をはじめ、広域的にも非常に大きな意義を持つものです。通行料は暫定無料。また、日本で初めて、風力発電を利用して、橋にライトアップとイルミネーションが施されました。

橋のもとには、これまでの工事の歩みや貴重な資料などを展示する「白鳥大橋記念館」が建てられ、観光客でにぎわい、道の駅としても利用されています。(道の駅「みたら室蘭」...65ページ参照)
「概要」 路線名：一般国道37号 種別：第1種第3級(設計速度60km/h)2車線

白鳥大橋ビューポイント(4カ所、市が進める「橋のまち顔づくり事業」で選定)

- ・祝津公園展望台(祝津町)・・・ 広い展望台から白鳥大橋を眺める人気のスポット。日中は、大黒島や絵鞆臨海公園、マリーナなどを一望できる。
- ・潮見公園展望台(みゆき町)・・・ イタンキ浜を望む高台から白鳥大橋を望む展望台。「鉄のまち室蘭」を象徴する新日鐵住金(株)室蘭製鐵所の工場群と、その手前に住宅と商店が立ち並び輪西町の街並みも一望できる。
- ・八丁平展望台(八丁平)・・・ 住宅街の片隅にあり、白鳥大橋を真横から眺める小さな展望台
- ・白鳥湾展望台(崎守町)・・・ 白鳥大橋と工場群が美しいコラボレーションを見せる展望台

mini情報 ほかにもある白鳥大橋ビューポイント

市で選定した以外のポイント

- ・測量山展望台(清水町) ... 晴れて空気が澄んでいる日中は、大橋と工場群の向こうに昭和新山と羊蹄山が重なる
- ・白鳥大橋展望台(祝津町) ... 橋を最も間近で、眺めることができる展望スペース

隠れたビューポイント

- ・鍋島山(函館どつく前の山)の山頂 ... みなと小学校グラウンドの上から登るのが最良だが、険しい道
- ・望洋台霊園から白鳥台方面への道道 ... 絵鞆半島全景と室蘭市全体が見渡せ、室蘭市が馬蹄型に見える道

内浦湾(噴火湾)

寛政8年(1796)、英国船プロビデンス号が内浦湾に来航したとき、駒ヶ岳や有珠山、樽前山などが盛んに噴煙をあげているのを見て、同船のプロトン船長が「ボルケイノ・ベイ」(噴火湾)と命名してヨーロッパ諸国に紹介したので、この名が有名になりました。

駒ヶ岳の噴火	1640年		1856年		1920年				
有珠山の噴火	1663年	噴火年不詳	1769年	1822年	1853年	1910年	1944年	1977年	2000年
樽前山の噴火	1667年	1739年	1804年	1874年	1909年				

測量山（室蘭駅から4.0km）

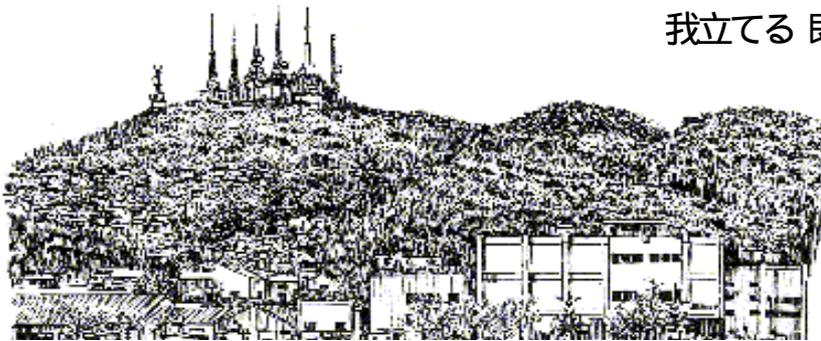
測量山は標高199.6mと、あまり高い山ではありませんが、明治5年(1872)、札幌本道造るときに、当時、陸地測量兼道路建築長の米国人ワーフィールドが、この山に登り道路計画などの見当を付けたことから「見当山」と呼ばれていたのを、後に「測量山」と改めました。アイヌ語ではホシケサンペ〔先に出てくる者〕といい、半島側で一番高い山で目印にされていたことが分かります。測量山を含む周辺一帯は、都市計画“測量山緑地”として市民に親しまれ、また、野鳥の宝庫としても知られています。

面積は119.5haあり、緑地内には植物が約500種、動物は野鳥類のほか、昆虫類が豊富で青少年の自然観察の場となっています。市街地の近くに、このような緑地が保存されているところは、全国でもあまり多くありませんので、今後とも自然環境の保全に努めなければならない地域です。

山頂の展望台のほか、唐松平には野外ステージ、さわやかトイレなどが周辺の自然にマッチするように整備されています。(さわやかトイレ...60・61ページ参照)

山頂展望台からの360度は大パノラマで、昭和6年6月この地を訪れた歌人、与謝野鉄幹(1873-1935)・晶子(1878-1942)夫妻は、来蘭した翌日、この山に登り次のように歌っています。

(この時の天候は霧で、室蘭では二人で13首詠んだそうです)



我立てる 即涼山の頂の
草のみ青き 霧の上かな
鉄幹
灯台の
霧笛ひびきて
淋しけれ
即涼山の
木の下路
晶子

測量山鉄塔ライトアップ

昭和63年(1988年)の港まつり期間中に、北海道電力(株)が測量山山頂のテレビ塔6基のライトアップを試験的に実施したところ、希望の灯として継続を望む市民の声が高まり、市民団体「室蘭ルネッサンス」の運営により、同年11月28日から継続されています。

平成6年(1994)4月26日には、民放局の中継塔が1基加わって7基のライトアップとなり、灯し続けて20年目に当たる同20年(2008)1月27日に連続点灯7,000日、そして、同28年(2016)4月14日には、ついに連続点灯1万日を迎えました。

個人の記念日などに点灯を申し込み、灯された明かりは、室蘭市民の心のシンボルとして親しまれています。それぞれの思いが託された毎夜輝く光の柱は、室蘭夜景に彩りを添え、今なお灯され続けています。(室蘭夜景...24ページ参照)

申込方法

点灯希望日までに、一回(日没から午前0時まで、冬季10月から翌年3月は午後11時まで)4,000円(電気料や維持管理費など)と簡単なメッセージを添えて下記に申し込み。

メッセージは、新聞には毎週火曜日朝刊(当日火~金曜日分)と土曜日朝刊(当日土~翌週月曜日分)に掲載。コミュニティ放送「FMびゅう」でも月曜から金曜まで、17時からの番組内で紹介しています。また、点灯日にホームページでメッセージを表示しています。

申込先

(一般財団法人)室蘭ルネッサンス事務局
(10時~16時)

〒051-0011 室蘭市中央町2-8-10

電話・FAX 0143 23 6600

定休日 土・日曜日

ホームページ <http://muroran-renaissance.or.jp/>

チキウ岬 (母恋駅から3km)

語源の「ポロ・チケップ」(親である断崖)が、チケウエチキウ チキウと転化して岬の名前となり、名称などには「地球」という当て字が使われました。いつから、だれが、この字を使い始めたのかははっきりしていません。

昭和60年(1985)の21世紀に残したい「北海道の自然100選」(朝日新聞ほか2団体)、同61年の「あなたが選ぶ北海道景勝地」(北海道郵政局)、同62年の全国規模で実施された「新日本観光地百選



ヤングカップル部門」(読売新聞)で、それぞれ第1位になりました。

ここには地球岬展望台(27ページ参照)が整備され、快晴の日には遠く恵山岬や下北半島を眺望でき、元旦には大勢の人々が海に昇る初日の出をみようとする足運びをします。

平成24年1月に、名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸に指定されました。

チキウ岬灯台 (同岬の突端、金屏風から0.7km)

大正9年(1920)4月1日に点灯されたチキウ岬灯台は、海拔130mの断崖の上であり、59万カンデラの光は、海上24海里(約44km)の遠方まで届き、沿岸を航行する船舶の目標として重要な役割を果たしています。平成3年4月に完全自動化になり、翌年無線方位信号所を廃止しました。平成10年には「日本の灯台50選」にも選ばれました。

毎年、「海の日」の祝日などに、一般公開されています。

mini情報 一般的に灯台は冬の雪と判別するため、外壁には赤や黒の色が混じっており、チキウ岬灯台のような全体が白色の灯台は珍しい。上から見下ろせる灯台や、下部が八角形の灯台も珍しい。

地球岬散策路 (地球岬～ユースホテル)

地球岬からイタンキ浜の上にあるユースホテルまでの約4kmの散策路で、観光道路からは見ることができない景観が、次から次と展開され、本当にここが東北以北最大の工業都市室蘭かと思わせます。背の低いササの中に、けもの道があり、片側には工場群と市街地、片側は広がる草原と100m前後の断崖絶壁が続く、夏にはエゾカンゾウなど各種の花が咲きます。

金屏風 (地球岬から0.7km)

地球岬とトッカリシヨの間にあるこの一帯は、約100mの直立した断崖が連なり、赤褐色を帯びた崖面に朝日が映えると、あたかも金の屏風を立て連ねたように見えることからこの名で呼ばれるようになりました。銀屏風と一対で室蘭八景の一つとなっています。

銀屏風 (絵鞆岬から0.5km)

アイヌ語でチヌイエピラ(彫刻のある崖)といわれており、ハルカラモイと恵比須島の中の崖面一帯をいい、この崖に夕日が映えて銀色に輝くところから、この名で呼ばれるようになりました。トッカリシヨ側にある金屏風と一対で室蘭八景の一つとなっています。

トッカリシヨ (金屏風から0.6km)

語源はアイヌ語の「トゥカル・イシヨ」(アザラシの岩)で、金屏風とイタンキ浜の間にありません。緑のベルトと奇岩で峻なす絶壁の荒々しい景観と、イタンキ浜を左手に見ての海原の静寂さが奇妙な対照をつくり、本市を代表する景勝地として室蘭八景の一つに、また、平成24年1月には、名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸に指定されました。ここには、トッカリシヨの伝説が残っています。(名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸...35ページ、トッカリシヨの伝説...86ページ参照)

トキカラモイ（緑町、白川米穀店向かい付近、室蘭駅から1.5km）

明治5年、ここに木造の仮棧橋が造られたのが、室蘭港の開港でした。

語源はアイヌ語の「トキカル・モイ」（チカの多い入江）で、現在の海岸町3丁目付近がまだ海だった時代、この入江にはチカがたくさん生息していたので、このような名が付いていました。

ハルカラモイ（室蘭駅から6.2km）

測量山観光コースにあるこの地域は、銀屏風と一連の断崖になっています。ハルカラモイの語源はアイヌ語の「ハル・カル・モイ」（食料を採る入江）で、魚が多い入江の意味です。平成24年1月に、名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸に指定されました。

・アフルパロ（ハルカラモイ付近）

銀屏風からハルカラモイにかけての海岸線は起伏に富み、そそり立つ崖が壮大な自然美を造っていますが、その崖の中腹にはいくつもの洞窟が不気味に口を開いています。

アフルパロとはアイヌ語で「入道の口」という意味で、一度足を踏み入れたら二度と帰れないあの世への道だったのでしょう。誰も知らない室蘭のアフルパロをあなたも探してみませんか。

チャラツナイと蓬萊門^{ほうらいもん}（母恋駅から3.3km）

語源はアイヌ語の「チャラシナイ」（滝をなしてサラサラ流れ下る小川）で、山手町から地球岬までの海岸沿いの中間にあります。

この海岸付近には、大小いくつもの奇岩が点在し、室蘭の外海の中でも一風変わった、神秘的な景観を醸し出しています。一番大きい岩は、ムカルソ（アイヌ語で、オノ、マサカリの意）と呼ばれ、満潮時には小舟が通れるほどの空洞（陸からは見えません）があることから、和人は「窓岩」と呼んでいましたが、東向きに穴が開いていることから、蓬萊山（中国の伝説で、東海中にあり、仙人が住み、不老不死の地とされる霊山）に通じる道ということで、この名が付きました。

ここには、天地創造の神オキクルミが、室蘭半島を造ったときに使った道具類を捨てたというアイヌの人たちの伝説が残っています。

イタンキ浜（東室蘭駅から2.5km）

語源はアイヌ語の「イタンキ」（椀）。昔、飢饉に遭った日高地方のアイヌの人たちが絵鞆に食料を求めて来る途中、フンペシュマ（鯨岩：蘭東下水処理場前の海の波間に見え隠れする岩）をクジラと思い、クジラが岸に流れ着くのを寒さに耐えながら待つうち、薪が尽きてしまい、最後に残った自分のお椀まで燃やしてしまいました。岩が寄ってくるわけもなく、ついには、全員が餓死してしまったという悲しい伝説（イタンキ浜の伝説...86ページ参照）から、この地名で呼ばれるようになったといわれています。また、平成5年（1993）、この辺りで、ツメタガイという巻き貝が産卵のために砂で作るお椀状のものが、たくさん見つかりました。これをアイヌ語で「ヲタ・イタンキ」といったことから、この地名が付いたのでは、という新説も生まれ、今のところ、どちらが本当の由来か定かではありません。

・鳴^{なり}砂^{すな}（イタンキ浜）

アイヌの人たちがつけた地名「ハワノタ」（声ある砂浜）が元となり、イタンキ浜一帯の砂浜を昭和61年（1986）に調査したところ、日本でも有数の“鳴砂”であることが実証されました。

“鳴砂”とは、砂同士の摩擦で、「キュッキュッ」と澄んだ音ができるもので、

その条件は、砂に長石やガラスの材料となる石英の粒が多い

石英の粒に丸みと艶がある

砂の中に含まれる石英の粒が適度の大きさでそろっている

さらに、最も大事なことは、油やゴミなどで汚染されていないきれいな砂であることです。

イタンキ浜は、浜全体が“鳴砂”海岸ですが、汚れなどで自然の状態で音が出る場所はかなり限定されています。なかでも、トッカリシヨ側の白っぽく乾いた砂の条件が良いようです。

音の出し方は、足で強く擦るように歩くか、手で強く擦ると良いでしょう。また、ワイングラスなど、底の丸いグラスに砂を入れ、棒などで突くと可愛い音を出します。

鳴砂は、石英(ガラスの材料となる鉱物)の粒によって鳴ります。石英の粒は十分に洗浄されると、表面の摩擦が極端に大きくなります。それをこすったり踏んだりして砂に大きな力がかかると砂が動き、砂同士が擦れ合って音を出します。これは新雪などを踏んだ時に「ギュッギュツ」と鳴る音と同じ現象です。イタンキ浜のように都市の中に有る鳴砂は非常に珍しく、さらに大きな工場や市街と隣接している海岸に鳴砂があるのは、ここだけです。

ほかの地域の鳴砂は、石英が50～80%(一般的に石英が多いほど鳴りやすいとされている)含まれていますが、イタンキ浜の鳴砂には石英が7%しか含んでいないにもかかわらず、砂が鳴るのです。さらにほかの鳴砂より石英の粒が小さく、高い音(音階は「シ」)で鳴ります。また、「高温石英」という生まれたての石英(火山活動中の溶岩が空中に飛び散ったときに急に冷えて固まったもの)で、別名「天使の涙」と呼ばれるものが含まれているのも特徴です。このほかにもイタンキ浜の砂には、大量の砂鉄が含まれていますが、鳴砂が有るところでは、砂鉄はとても重いので地中に沈み、石英は軽いので地表を覆っています。また、石英の粒は、風や波の動きで常に移動し、トッカリシヨ側の特定の場所に集まりやすいようです。環境に左右されて鳴らなくなることがある鳴砂は、「環境のバロメーター」といわれています。

平成9年3月に市民団体「イタンキ浜鳴り砂を守る会」が発足し、砂浜の清掃など保護活動を行っています。

・すこやかロード 鳴砂の浜コース

イタンキ浜付近から潮見公園を往復するコースです。負荷をかけたいときは、鳴砂海岸からイタンキ浜に戻り潮見公園へ向かうこともできるので、目的に合わせたウォーキングが可能です。高台からは港や工場群、太平洋を一緒に眺めることができ、ハマナスなどの花々、磯の香り、鳴砂の音、潮風を満喫しながら、アップダウンのあるコースを歩くことができます。

・ビオトープ・イタンキ

イタンキ浜に隣接する、みゆき町の潮見公園内で、「失われた湿地を復元し、子どもたちが生き物と触れ合える場を作ろう」と自然保護と再生を目指し、平成18年から5年間かけて、市民の手によるビオトープの造成が、行われてきました。湿地の復元は順調に進み、池に放した室蘭在来の淡水魚トミヨが順調に繁殖し、これを狙って、近頃、室蘭で見かけることもなかったカワセミが姿を見せるようになりました。

室蘭には至る所にいたと言われるホタルの復活も目標で、平成18・19年に、近隣の虎杖浜地区の野生のヘイケボタルの幼虫を放流し、順調に繁殖、今では、全てがイタンキ生まれとなりました。ビオトープは「失われた室蘭の湿原」をモデルにしているため、もともと室蘭にいない種類の魚やカメなどの生き物の放流はしていません。

平成23年5月の造成工事完了を機に、これまで活動を行ってきた「NPO法人ビオトープ・イタンキin室蘭」から市に寄贈され、彼らの思いと復元された自然が、後世へと引き継がれていくよう、ビオトープ憲章が制定されました。

室蘭市ビオトープ憲章(平成23年8月1日制定)

ビオトープ・イタンキが、未来を担う子どもたちによって、ふるさと室蘭の自然を学ぶ場として活用され、また、自然を愛する市民によって、後世に未永く引き継がれることを願い、ここに室蘭市ビオトープ憲章を制定します。

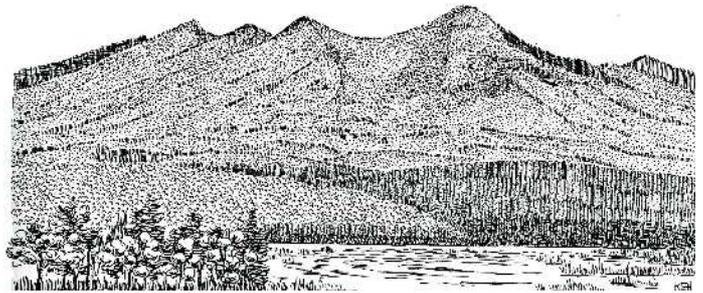
1. ビオトープ・イタンキは、「獲物のあるビオトープ」として、子どもたちがじかに生き物に触れ、体感し、自然の恵みや命の大切さ、ふるさとの自然と環境について学ぶ場です。
2. ビオトープ・イタンキは、かつて私たちの身近にあって、今は失われた「室蘭の湿原」をモデルとして、自然再生を図る場です。
3. ビオトープ・イタンキは、室蘭市の公園として、市民と行政の協働によって、大切に維持・管理されます。

ビオトープとは、直訳すると「生き物 島・楽園」。もともと生物学の用語ですが、再生された自然を意味する言葉として一般化しました。

室蘭岳（正式名称：鷲別岳、標高911m）

室蘭で一番高い室蘭岳への登山は、中腹(450m)にある白鳥ヒュッテ（市営、30人収容）が起点となります。また、標高911mにちなみ、9月11日を室蘭岳の日と定めています。（白鳥ヒュッテ...76ページ参照）

ヒュッテから少し登ると水神社があり、夏場はさらに坂を登ってガンバリ岩で左折します。尾根上になだらかな一本道が続き、ダケカンバの林を抜けると頂上は間近です。



頂上へは、もう一本、ヒュッテの水飲み場からペトル川に下りる新道「西尾根コース」があります。始めは、深い林の中の小道をたどりますが、そこを抜けるとジグザグの急な坂になり、この辺りからは室蘭岳が三角形の端正な形を見せ、特に美しく見えます。

山頂の看板は昭和63年(1988)に室蘭ロッククライミングクラブと市民団体「室蘭岳に看板を立てる会」により、室蘭営林署の許可を得て、同年10月にカツラ材の一枚板(180cm×75cm)で設置しました。

経年の風雨により一部欠けるなどで傷みが進んでいましたが、補修を北海道山岳連盟に相談された室蘭民報社により、平成27年(2015)の創刊70周年を記念し地域貢献事業の一環として補修作業が行われ、同年8月にリニューアルされました。

ここからは、噴火湾を一望出来るほか、駒ヶ岳、羊蹄山の山並み、洞爺湖も眺望できます。また、昔アイヌの人たちが山腹にニシンの形の残雪(雪形)が現れると、ニシン漁に出たことから、この山をヘロキ・ウパシ(ニシン雪)山とも呼んでいたそうです。(図書館でまとめた伝説に『春を告げる室蘭岳のニシンの雪形』のお話があります。89ページ参照)

山麓には、道内一の太さともいわれるミズナラの大木があります。幹回りが7.29mもあり、樹齢は推定で数百年、樹木の高さは約35mです。

・水神社

昭和30年(1955)、室蘭市が室蘭岳夏道コース5合目付近のペトル川支流の湧水口に「室蘭市民の生活水となる室蘭岳を水源とする湾録の取水口の湧水や事故防止」を祈願して建立した水神社が、平成2年(1990)冬の雪崩により崩壊。その後、鳥居とともに市によって撤去され、政教分離の原則に基づき、再建は見送られました。

平成6年(1994)、室蘭ハイキングクラブが中心となって「水神社再建準備会」(のちに「水神社保存会」となる)を発足。3年かけて本殿、鳥居が再建されました。

社には、日本最古と言われる奈良県吉野の丹生川上神社のお札(昭和16年(1941)にもらい受け、チマイベツ浄水場内に祀ったお札)が納められています。

・白鳥の鐘

頂上には、昭和53年(1978)室蘭ハイキングクラブ会員・茶道方円流総師範の千葉和子さんが設置した白鳥の鐘があります。設置から35年以上経過していますが、同クラブの会員らによって毎年手入れされ、今なお、心地よい音色を保ち続けています。

保存林・樹木

5月中旬、樹齢およそ210年、樹高約16m、幹周り4.3m、おそらく桜では室蘭一の大木と思われるエゾヤマザクラが花を咲かせると、新しい山が誕生したような気がします。

このサクラは、幌萌町70番地にあり、昭和53年3月、室蘭市の保存樹木に指定されました。(桜の名所・花の名所...32ページ参照)

室蘭市には、このほか、高砂町(3-12-1)のシンジュ(屯田兵入植記念保存樹木)の2本が指定されています。また、保存樹林としては、現在市内で9カ所が指定され、本輪西3丁目から5丁目にかけて集中しており、ほとんどは開拓の先祖がさまざまな思いを込めて植えたものです。

2. 室蘭の夜景 - 輝く光の宝石箱 -

室蘭の夜景は、以前から知る人ぞ知る穴場で、「室蘭港の夜景」として室蘭八景にも選ばれ、測量山鉄塔ライトアップや白鳥大橋のイルミネーションも加わり、さらに輝きを増しています。

平成 21 年 9 月に「広報むろらん」でカラー特集して以来、この港町ならではの美しい明かりとともに、さらに注目を集めたのが工場群の夜景です。

この年、市で毎年 1 回開催している市民見学会を「夜景見学」として募集したところ、定員の 5 倍以上の申し込みとなり、急きょ 2 回目を開催しました。これらをきっかけに、市民の夜景への関心と相まって、夜景観光に対するさまざまな取り組みが始まりました。(白鳥大橋...18 ページ、測量山鉄塔ライトアップ...19 ページ参照)

室蘭港の夜景（室蘭八景）

工場群の明かりと海辺から高台にのびる民家の灯が港内の海面に映えて美しく、見る人にあふれるロマンを感じさせ、室蘭八景の一つにも選ばれています。室蘭各所の展望台などからさまざまな表情を見せ、秋は気温が下がり、空気が澄むため遠くまでくっきりと見渡せるとともに、漁業の盛んな室蘭ならではの夜景であるイカ釣り漁船の漁火が水平線に並ぶなど、室蘭の夜景を鑑賞する上で適している季節です。

夜景観光と日本工場夜景

室蘭市は、北海道を代表する工業都市として発展してきた「ものづくりのまち」です。周囲を海が取り囲み、地球岬をはじめ、美しい海岸線が続いています。また、港内には東日本最大のつり橋である白鳥大橋が、優雅な白い姿で架かっています。

平成 21 年 9 月の「広報むろらん」での特集「輝く夜の宝石箱」は、この港町ならではの美しい明かりと工場群の夜景が注目を集めるきっかけとなりました。白鳥大橋のライトアップや、湾岸沿いの工場群の明かりなど、室蘭の夜をたくさんの光が演出。まるで宝石箱の中にあるような情景は、今、新しい室蘭の魅力となっています。この夜景を新たな観光資源として活用する動きが活発になり、同年 12 月には、夜景を始めとする観光資源の魅力発信に向けて、市・商工会議所・観光協会が「室蘭観光推進連絡会議」を発足。同会議ではさまざまな観光資源を組み合わせた魅力発信に努めるため、「夜景・ものづくり観光ワーキンググループ」と「食の観光ワーキンググループ」が設置されました。そして、バスガイドとの夜景勉強会や、市内の公共施設・ホテルなどでの夜景移動写真展、全国各地でのプロモーションを行い、これらの取り組みが新聞やテレビなどで紹介されると、室蘭夜景が全国的に広まる中、民間事業者の動きにもつながっていました。

平成 22 年には、郵便局(株)北海道支社で、同会議の協力を得て、胆振管内の郵便局などで室蘭夜景をテーマにしたご当地フレーム切手を期間限定発売。急きょ増刷するほどの人気でした。夜景スポットを巡る夜景バスツアーも好評で、地元バス会社や大手旅行代理店が注目しています。また、港町室蘭ならではの楽しみ方をさせてくれるのは、同年 4 月から始まった室蘭夜景ナイトクルージング。室蘭港を縁取る工場の明かりを、普段は見られない海上から眺める迫力は、室蘭夜景の新たな魅力を伝えてくれます。

平成 23 年 2 月、川崎市(神奈川県)で全国工場夜景サミットが開催され、室蘭からは、同会議が出席しました。サミットでは、室蘭市・川崎市(神奈川県)・四日市市(三重県)・北九州市(福岡県)による「日本四大工場夜景エリア」共同宣言を行い、各市がナイトクルーズやバスツアーなど、工場夜景観光に取り組む中、これからの工場夜景観光を一過性にしないための連携を模索しています。

平成 24 年 11 月には、室蘭市が開港 140 年・市制施行 90 年の節目の年でもあることから、本市において「全国工場夜景サミット」の第 3 回を開催。雑誌じゃらんやインターネットサービス「美人時計」での事前告知、現在の J X エネルギー(株)室蘭製造所、北海道開発局室蘭開発建設部

の協力のもと、全国初となる夜間の工場構内夜景鑑賞ツアーなどで室蘭を大きくPRしました。

現在は、周南市(山口県)と尼崎市(兵庫県)、富士市(静岡県)、千葉市(千葉県)が仲間入りし、「日本八大工場夜景」を宣言しています。

室蘭夜景の魅力(夜景ビューポイントの詳細は、展望台...26 ページ参照)

夜景のバリエーションの多さと適度な距離感

- ・丘陵が港を囲む室蘭の地形は、沢ごとに発達した町の明かりが、そのまま沢に連なる夜景となっている。そのため高台から港を望むと、いろいろな夜景の姿に出会える。
- ・高低差のある地形により、見上げる夜景や見る人の目線で眺める夜景も美しい。
- ・市内で一番高い測量山展望台でも標高 199.6mのため、その近くまで広がる住宅街の明かりによって、夜景が身近に感じられる。

「ものづくりのまち」ならではの灯(あかり)

北海道でも有数の工業都市である室蘭市は、「鉄のまち」「ものづくりのまち」として発展し、道内の工業を支えてきました。明治期から天然の良港は石炭積み出し港として栄え、近代製鉄業として100年の歴史を持つ新日鐵住金、日本製鋼所の鉄鋼業をはじめ、化学工業、さらに関連の中小企業が港を囲むように林立しています。立ち並ぶ工場群の明かりは、ライトアップのための点灯ではなく、工場の安全を守る保安灯です。その輝きは「ものづくりのまち室蘭」独特の風景として、人々の心をつかんで離しません。

魅惑の夜景を違った角度から楽しめる夜景ナイトクルージング

普段の見慣れた地上からのアングルとは一味違う、洋上から見上げる迫力の夜景です。新しい発見、新しい驚き、そして新しい楽しみに出会えるかもしれません。

夜景ナイトクルージング

申込先	スターマリンKK	電話	0143-27-2870
	KKエルム	電話	0143-27-1822

mini情報 ここに注目、夜景鑑賞スポット

- ・室蘭インターチェンジから白鳥大橋に向かう道道127号線から見える
JXエネルギー(株)室蘭製造所
高速道路で室蘭を訪れた人は、インターチェンジから白鳥大橋に向かう途中で見える製造所の夜景に注目。
- ・国道36号と37号は工場夜景の宝庫
国道に加えて道道や市道を走行して市内を一周できる室蘭は、その車窓から、常に工場夜景をさまざまな角度から間近で移動しながら鑑賞できる。
- ・製造所と製鉄所の煙突から噴き出す迫力の炎
製造所と製鉄所の煙突から噴き出す青やオレンジの炎「フレアスタック」は必見。
- ・水平線上の明かり
空気が澄んでいる日は、水平線上にも注目。噴火湾(内浦湾)対岸や苫小牧市のまち明かりがくっきりと見える。また、秋には、水平線上に明るく輝く漁船の明かりにも注目。
- ・港には大小さまざまな船
白鳥大橋通過中など、港が見渡せる場所では、湾内からも目が離せない。海上の大小さまざまな船の明かりも夜景の一部。岸壁沿いや、高台からは、入港が多い大型客船の明かりも室蘭ならではの、入港情報は、市ホームページ「港湾」で確認を。



「ボルトとナットで工場づくり体験」
(ボルト工房...83ページ、ボルトタ...95ページ参照)

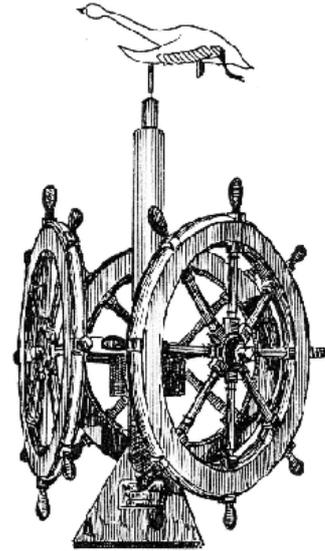
3. 展望台（展望台と臨海公園）

馬蹄型の室蘭市は、丘陵が天然の港を囲む地形で沢ごとに発達した町と、港内を縁取るように工場群が隣接しています。

また、高台から外海を望むと、天候に恵まれた時には、登別市、伊達市をはじめ、対岸の函館方面まで見渡すことができます。

そのため、昼の景観と夜の景観は多様で、どちらも楽しめるスポットが多く、特に夜は、観る場所によって、さまざまに織りなす夜景が美しいです。

また、近年は夜景とともに、その各所から眺める月の美しさにも注目が集まっています。



絵鞆岬展望台モニュメント「操舵輪」

展 望 台		駐車場	バスの 駐車	トイレ
絵鞆岬展望台	<p>絵鞆岬の景観は、室蘭八景のひとつ。帆船の船首をイメージした絵鞆岬展望台は、平成5年2月に整備が完了。操舵輪のモニュメントは、ナラサキ産業(株)の創立90周年を記念して(株)檜崎製作所が製作所し設置された。JR室蘭駅から5km。展望台の高台には、先住民慰霊碑がある。（先住民慰霊碑...37ページ参照）</p> <p>夜景ビューポイント 夕焼けに染まる西の空が美しく、天候により目前の大黒島の向こうに有珠山や羊蹄山(蝦夷富士)も姿をみせることもある。</p>		(大型可)	
祝津公園展望台	<p>水族館近くの高台にある展望台。白鳥大橋や大黒島、絵鞆臨海公園、マリーナなどを一望でき、室蘭に入出港する船がみえる。JR室蘭駅から4.6km。</p> <p>夜景ビューポイント 広い展望台から白鳥大橋を眺める人気のスポット。白鳥大橋が祝津ランプから陣屋町へ伸びる躍動感あふれる景色は、白鳥が羽を広げたように目の前に広がる。橋の左右には、J エネルギー(株)室蘭製造所の工場群が展開し、夜間は約13,000個の保安灯が明るく輝いている。</p>		(大型可)	
測量山展望台	<p>360度の展望は、室蘭市内とその外海を一望できる。展望台に続く階段には、フットライトが整備されている。JR室蘭駅から4.0km。</p> <p>夜景ビューポイント 標高199.6mの山頂から、白鳥大橋をはじめ、室蘭港の夜景を一望できるスポット。条件が良ければ、隣接する登別市や伊達市、また噴火湾を挟んで対岸の森町や函館市(旧南茅部町)のまち明かりまで見ることができる。</p>		(山頂下公園のみ)	(山頂下公園のみ)
白鳥湾展望台	<p>白鳥大橋と工場が美しいコラボレーションを見せる展望台。間近にJ Xエネルギー(株)室蘭製造所があり、その向こうに港が広がる展望。JR東室蘭駅から9.7km。</p> <p>夜景ビューポイント ライトアップされた白鳥大橋と保安灯で照らされたJ Xエネルギー(株)室蘭製造所をはじめとする工場群が、目前で美しいコラボレーションを見せる。保安灯は、24時間稼働する工場で、夜間も安全に操業するための明かり。いつもは白い白鳥大橋が、夕暮れ時に赤く染まる姿も美しい。</p>		(大型可)	

展 望 台		駐車場	バスの 駐 車	トイレ
地球岬展望台	<p>昭和63年に完成した太平洋を一望できるチキウ岬に立つ展望台。三つの円形の広場を組み合わせた展望台には、幸せの鐘がある。展望台に続く階段には、フットライトが整備されている。</p> <p>平成28年12月に、灯台の色に合わせた白を基調にリニューアルし、カメラスタンドも設置されました。JR母恋駅から2.6km（チキウ岬、チキウ岬灯台...20ページ参照）</p> <p>夜景ビューポイント 日没後、辺りが暗くなると、海拔130mもの断崖絶壁にそびえるチキウ岬灯台が輝きはじめる。秋から冬にかけては、水平線上に室蘭近海で盛んなイカ漁による漁火（イカを集めるために灯される）が並ぶ。満月のころは、空に輝く月と海に映る月の光が浮かぶ。</p>		(大型可)	
トッカリシヨ展望台	<p>室蘭八景の一つにもなっているトッカリシヨの展望台。JR母恋駅から2.6km。</p> <p>夜景ビューポイント 月明かりに照らされた高さ100m級の断崖絶壁は、幻想的な美しさを演出。地球岬展望台と同様、漁火が鑑賞できる。</p>			
潮見公園展望台	<p>外海側にイタンキ浜が、港側には新日鐵住金(株)の工場群と輪西町が一望でき、イタンキ浜を望む高台から白鳥大橋を望む展望台。JR東室蘭駅から2.8km。</p> <p>夜景ビューポイント 「鉄のまち室蘭」を象徴する新日鐵住金(株)室蘭製鐵所の工場群と、その手前に住宅と商店が立ち並ぶ輪西町の街並みも一望できる。24時間稼働する工場には、働く人の安全を守る保安灯があちらこちらにともる。煙突から噴き出す水蒸気は、鉄のまち室蘭の息吹を感じさせ、時折煙突からみられる青やオレンジの炎のフレアスタックは、製鉄の過程で排出されるガスを燃焼させて無害な状態で大気に放出させるもので、その様は圧巻。</p>		(大型可)	
八丁平展望台	<p>八丁平の住宅街の片隅にある小さな展望台。本輪西町や港北町が見下ろせる。JR室蘭駅から4.6km。</p> <p>夜景ビューポイント 住宅街の片隅にあり、白鳥大橋を真横から眺める小さな展望台。西の空がオレンジ色に染まる夕暮れ時は、白鳥大橋のシルエットが美しく、日没からは、ふもとに本輪西町や港北町のまち明りが広がる。国道沿いにはプロビデンス号を模した本輪西汚水中継ポンプ場の建物がライトアップされ、白い姿が一層輝きを増す。（プロビデンス号...9ページ、63ページ、97ページ参照）</p>			
白鳥大橋展望台	<p>白鳥大橋の祝津ランプ入口の右側にあり、白鳥大橋に最も近い展望台。JR室蘭駅から3.6km。</p> <p>夜景ビューポイント 全長1,380mの白鳥大橋。中央径間720mは東日本最大のつり橋。美しいイルミネーションを目線と同じ高さで見ることができ、「カップルで白鳥大橋を渡ると結ばれる」というハッピーな縁結びの噂もある。</p>		(大型可)	
絵鞆臨海公園	<p>道の駅「みたら室蘭」に隣接する海沿いの公園。</p> <p>JR室蘭駅から4km。（市内の施設...63ページ参照）</p> <p>夜景ビューポイント 夕方、夕日を背に大黒島のシルエットが浮かびあがる様子は、時折打ち寄せる波の音とともにロマンチック。防波堤で囲まれ波が立ちにくい海面には、公園にともる電灯とライトアップされた白鳥大橋が映り込み、美しい。</p>		(大型可)	
入江臨海公園	<p>港内の岸壁沿いにある噴水のある公園。遊具もあり、日中は親子連れなどが訪れる。JR室蘭駅から0.8km。（市内の施設...66ページ）</p> <p>夜景ビューポイント ライトアップされる測量山山頂の鉄塔の撮影スポットとして人気。</p>			

4.むろらの森と散策路

住宅街のすぐ目の前に広がる森。足を踏み入ると、そこには木々の間を通る散策路が続いています。森は、木漏れ日が差し込み、新鮮な空気と木の香りで満ちている癒しの空間。景色を楽しみ、鳥のさえずりを聞きながら、室蘭の森の散策路を歩いてみましょう。

風景は日々印象が変わる 四季折々、その日の天気などで、風景の印象は変わります。歩いていると景色がゆっくりと流れ、いろいろな物をじっくりと観察することができます。草花の色、空気の匂いなど、その都度、新しい発見があるはずです。「歩く」という日常的な動きには、身近な風景の変化を発見できる魅力があります。

見渡せば森がいっぱいのまち 市内に点在する展望台などからまちを見渡せば、工場が港沿いに建ち並び、工場を取り囲むように商業地と住宅地が密集し、周囲には緑いっぱいの森が広がっています。室蘭は工業都市として発展してきた一方で、山が多く、貴重な自然が多く残されているまちです。

森の中には散策路が続いている 室蘭の観光スポットとして、全国的にも有名なチキウ岬。その周囲に広がる森の中には、木々の間を通る散策路が続いています。森の中は別世界。大小さまざまな樹木の間から木漏れ日が差し込み、新鮮な空気と木の香り、そして心地良い鳥がさえずり、五感を満たしてくれます。地球岬周辺のほかにも、市内にはいくつかの散策路があり、「すこやかロード」には、「地球岬コース」と「鳴砂の浜コース」が認定されています。森の散策で、自然の魅力をたっぷり満喫してください。

mini情報 すこやかロードとは

財団法人北海道健康づくり財団と、北海道が認定した、身近で気軽に楽しくウォーキングを行うためのコースのことです。自然豊かな環境や、コースの整備などの認定基準があり、室蘭市では、平成24年9月に「鳴砂の浜コース」と「地球岬コース」が基準を満たし、認定されました。（「鳴砂の浜コース」...22ページ参照）

地球岬緑地

チキウ岬から西側のチャラツナイの間にある地域一帯は、都市計画による50haの緑地です。

春には、カタクリやエゾカワラナデシコ、オオバキスミレなどの花が目を楽しませ、ハヤブサやキツツキなど四季折々に各種の野鳥も観察できるため、市民探鳥会も行われています。

また、緑地のほぼ中心部に位置する水路は、エゾサンショウウオの繁殖地となっており、観察することができる貴重な場所でもあります。緑地内には、「地球岬散策路」が整備されています。

(地球岬散策路...20ページ参照)

- ・地球岬策路・森林浴コース（地球岬～チャラツナイ、約2.1km）

“地球岬緑地”にある、草花に囲まれた自然道の散策路です。ミズナラ、イタヤカエデ、ウダイカンバ、ホオノキを主体とした、原始のたたずまいを思わせる巨木をはじめ、大小さまざまな樹木が立ち並び、景色よりも森林の中で自然を楽しむコースとなっています。それと対症的なエゾカワラナデシコやオオバキスミレなどの可憐な花々や、木漏れ日の中、ハヤブサやキツツキなどの野鳥も観察でき、地球岬の裏側の絶景も楽しめる、快適な森林浴コースになっています。

- ・すこやかロード「地球岬コース」(チャラツナイ→チキウ岬→トッカリシヨ、4.3km)

地球岬展望台を始点に観光道路を歩くコースです。整備されている道路がとても歩きやすいコースなので、普段運動をしない人でも無理なくウォーキングを楽しめます。コース内の各展望台で、美しい海原を眺めながら休憩できます。高さ100m前後の断崖絶壁が約14km続く外海岸は、景勝地が連なり、地球岬コースの「チキウ岬」と「トッカリシヨ」は「名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸」の一部として、国の名勝に指定されています。（名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸...35ページ参照）

測量山緑地

標高199.6mの測量山を含む、内浦湾に面した119.5haの緑地です。緑地内は、ミズナラやカシワ、イタヤカエデなど、約500種の植物が自生するとともに、小動物も多く見られ、野鳥の宝庫でもあります。春の繁殖期には鳥の数も多く、特にハヤブサの営巣地として全国的にも有名です。秋には渡り鳥が大群で飛んでいるのを目にすることもできます。また、市民団体による植樹により、桜も楽しめます。

海岸線を見渡せる道では、銀屏風やハルカラモイ、マスイチ浜などに見られる奇岩の断崖絶壁が連続。変化に富んだ海岸線を形成し、随所に素晴らしい景色を見ることができます。

測量山周辺は、散策や自然観察など、散策路に限らず多くの人がウォーキングを楽しんでいます。(測量山...19ページ、ハヤブサ...30ページ、測量山桜ロード...32ページ参照)

ふるさとの森 2 1 公園

戦前から戦中にかけて燃料などの確保のため樹木が伐採されたため、ササ地が大半を占めるようになった母恋、御前水地区の丘陵地の緑を復元し、後世に引き継ぐことを目的に「21世紀に豊かな森に育てて欲しい」と願いを込めて、植栽や散策路が整備された公園です。

母恋富士周辺の39.7haの森林に散策路が整備され、「いこいの森」「港の見える森」「元気もり森」「学びの森」の4つのゾーンに区分されています。それぞれの森は、傾斜の変化に富んだ散策路で結ばれ、展望広場やあずま屋などから室蘭を一望できる眺望は、市内の散策路随一です。

散策路への入り口は、母恋北町や御前水、観光道路など数カ所あり、旧御前水中学校に登る途中にある遊歩道入り口には、駐車場とトイレも整備されていますので、車で行く場合はこちらから登ると便利です。なお、遊歩道沿いは触れると皮膚がかぶれやすいウルシが多いので、気を付けてください。

知利別公園

蘭東地区のほぼ中央部に位置する楽山の大部分を占め、南北に細長い丘陵地です。公園内に散策路が張り巡らされ、周囲には住宅街が広がり、親子連れでの散歩姿もよく見かけられます。

頂上の展望広場からは蘭東地区の町並みや測量山、白鳥大橋を眺めることができます。春に咲くコブシの花が美しく、大きな樹木の少ない公園でしたが、近年、市民による植樹が行われたため、今後、ますます自然豊かな公園に育っていくのが楽しみです。

だんバラ公園（室蘭岳山麓総合公園）

面積23.5haの、キャンプ場や宿泊研修施設、各種スポーツに対応できる屋外施設などがそろい、自然との触れ合いや心身の休憩の場として楽しめる総合公園です。

公園の南にシラカバ林の間を縫うように整備され、2カ所にあるあずま屋で休憩しながらウォーキングできる、森林浴に最適な高原の散策路となっています。

また、ウォーキングというよりも登山になりますが、室蘭岳の登山道もおすすめです。標高911mの山頂からの眺めは、室蘭港を眼下に噴火湾を一望できる絶景です。(室蘭岳...23ページ、室蘭岳山麓総合公園...76ページ参照)

地球岬街道 夢の森

かつて、地球岬の観光道路沿いの一角に、市のごみ処分場がありました。17年間使用されたこの処分場は、用途廃止後30余年を経過する中で雑草が繁茂する荒地となり、景観を損ねていました。

そこで平成21年に有志が集まり、住民の手で、森を再生しようと準備会を結成しました。同年9月、近隣の10町会と自然環境整備に関心のある5団体で地球岬街道「夢の森づくりの会」を設立しました。夢の森づくりの会では、この森の下草刈りや遊歩道などの環境整備を行う中で、サクラやモミジなど約千本の植樹をしてきました。また、森の中には噴火湾や対岸の駒ヶ岳の眺望を楽しむ憩いの展望広場や駐車場(約40台)も整備されています。市民が参画して、豊かな森に育てていく森で、毎年植樹会や観察会も実施しています。

5 . ネーチャーウォッチング

バードウォッチング

アイヌの人たちは、測量山をホシケサンペ（「先に出てくるもの」という意味）と呼び、漁に出て帰るときの目印にしていました。しかし、野鳥たちは、それよりはるか昔から渡りの中継地としていたのです。

北や南に渡る鳥たちの中継地、そして繁殖地である測量山では、これまで200種類もの野鳥が観察されており、市街地に残る貴重な自然です。

散策路が縦横に走る女測量山からマスイチ浜にかけての一带が探鳥会のコースとしてよく利用され、1年中見られるシジュウカラやアカゲラをはじめ、春はウグイス、オオルリ、コルリ、キビタキ、クロツグミなどの野鳥を見たり、声を聞いたりして楽しむことができます。また、秋にはホオジロ、メジロ、ヒヨドリなどの群れで賑わい、冬は、上空にオジロワシの勇姿を見ることも珍しくはありません。まれにクマガラも訪れます。

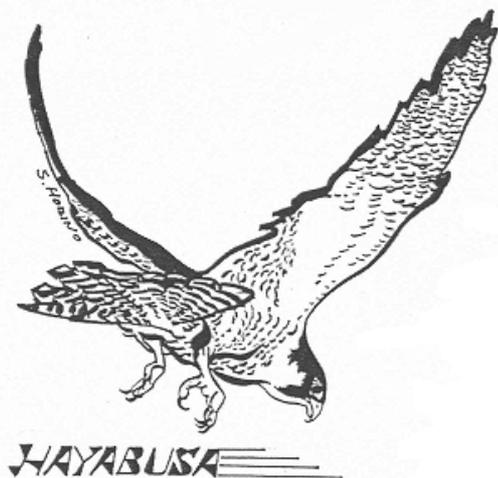
ハヤブサ

ハヤブサは、測量山で繁殖する唯一のタカで、断崖沿いに営巣しており、1年中見ることができます。国内では、わずか300羽ほどの生息を確認されている絶滅危惧種でもあります。

その名の通り、時速200kmを超えるスピードで急降下し、獲物に襲いかかります。

測量山は、渡り鳥のコースになっており、エサになる小鳥が多いこと、人を寄せ付けない険しい断崖で安全な営巣ができることなどにより、全国的に大変貴重な繁殖地となっています。しかし、その数はわずか8つがい(1つがいの縄張りが約2kmといわれています)程度です。

室蘭のハヤブサの雄姿はテレビなどで何度も紹介され、今では全国的な人気を集めています。



イルカ・クジラウオッチング

室蘭ルネッサンスが提唱

地球史上最大の動物であるクジラは、つい最近まで食の対象でしかありませんでしたが、近年は、胃を満たすものから、心を満たすものへと、その価値観が変わりつつあります。

世界で最初にウオッチングを事業化したのは、1975年にアメリカの東海岸にあるプロビンスタウンです。人口わずか4,000人の町ですが、今では夏休みの期間中だけでも、多くの観光客が滞在しています。

現在、世界で事業化しているところは、アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランドなどで、国内では、東京(小笠原・御蔵島)、千葉(銚子)、和歌山(那智勝浦)、鹿児島(笠沙)、高知(高知、室戸、大方)、沖縄(座間味)など、北海道では、室蘭市と標津町、羅臼町だけです。

北海道で最初にウオッチングを提唱したのは、10億円の基金を集め、それを元に室蘭の再活性化を目指す市民団体「(一財)室蘭ルネッサンス」でした。コンセプトは、人と海と生物の触れ合いを通じて新しい文化価値を創造し、それを新しい観光資源として作り出して、まちの活性化につなげようというものです。

クジラと縁の深い室蘭

最近でも漁業関係者などに目撃されているクジラ。その昔はどうだったのでしょうか。今から200年ほど前の北海道探検記録によると「噴火湾で潮を吹く多くのクジラを見て、まるで絵を見ているようだ」という記録が残っています。

室蘭八幡宮は、浜に打ち上げられたクジラを売った代金を造営費に充てたことから、「鯨八幡」の愛称があります。(室蘭八幡宮...56ページ参照)

また、室蘭には、明治末期から昭和25年(1950)まで、現在の水族館の場所に捕鯨会社があり、活発な捕鯨活動が行われていました。

資源調査を開始

こうしたことから、室蘭でのクジラウオッチングの可能性を探るため、室蘭ルネッサンスが、平成2年(1990)2月に専門家3人を招いてシンポジウムを開催し、同年には15回(3月29日から8月26日まで)のクルーザーなどによるテストウオッチングで資源調査を実施しました。その結果は次の通りです。

- ・ 5月上旬までの5回は、オットセイ、イルカのみ確認。
- ・ 5月下旬から8月までの10回では、クジラが7回、イルカは毎回確認。特に、イルカについては、しばしば数千頭単位の群れに出会った。
- ・ クジラの種類は、ミンクを主体にイワシ、シャチ、ゴンドウ、ナガスなども見られることがある。しかし、ハワイや小笠原で見られる豪快なジャンプをするザトウクジラは確認できなかった。室蘭は、シャチを除き比較のおとなしいクジラが多いようだ。

これらのことから、渡り鳥や風光明媚な外海などを組み合わせた複合的なネーチャーウオッチングとして、新たな観光資源に十分なり得ることが、分かってきました。

平成3年には、民間会社が、これまでのクルーザーによる定期外海遊覧を「外海遊覧とイルカ・クジラウオッチング」に変更し、イルカ・クジラウオッチングの第一歩が始まりました。

平成9年7月には、カマイルカの完全なアルビノ(白体)がみられ、そのニュースはその日の内に全国へと報道されました。

イルカ・クジラウオッチング

申込先 (事前に予約が必要)

K Kエルム

電話 0143-27-1822

スターマリンK K

電話 0143-27-2870

6. 桜の名所・花の名所

母恋富士下サクラ並木

昭和38年(1963)、横山広見、桜博士の異名をとる伊藤広造、元日鋼社員の水上武夫らが、ここに桜の名所をつくろうと同好会を発足させました。以来長年にわたり、地域の人たちが手塩にかけて育て、最初は小指ほどの太さだった苗木も、今では幹回り1m以上にも成長し、約29種、130本余りのソメイヨシノやカンザンなどが5月上旬から6月上旬にかけて、咲きほこり花吹雪を演出しています。

中でも、宮城県塩竈市の鹽竈(しおがま)神社に3年がかりで足を運んだ末、許可を得た門外不出の「鹽竈桜」は、昭和57年に移植され、一味違った花びらを楽しませてくれています。その他、京都御所の「御車返し」や兼六園の「菊桜」などがあります。

昭和56年(1981)、伊藤は、日本さくらの会を通じて富士下の桜の種3万粒をアメリカに送りました。ワシントン市ポトマック公園では、海を渡った富士下の桜が、今も春を彩っています。

平成14年(2002)、桜の樹木の状態がテングス病により悪化したため、以前のように咲き誇る桜並木にしようと地域住民で「富士下サクラ並木の会」を発足し、同会の皆さんが保全活動を行っています。開花時にはお花見スペースも用意されています。

鹽竈桜：八重。平安時代から愛でられており、鹽竈神社では国の天然記念物にも指定されていた古木。鹽竈神社以外では、北海道神宮、白老神社、母恋富士下のみで観ることができる。

御車返し：ピンクの八重。江戸時代初期、御水尾(ごみずのお)天皇が、その花の余りの美しさに御車を引き返して観られたという桜。

菊桜：八重。金沢の兼六園で生まれた桜で、花弁が多い。

染井吉野：一重。緑の若葉が出る前に、木全体を花で覆ったように花が咲く。国内はもとより海外にまで広がっている。

関山：八重。セキヤマともいう。昔から全国で見られる品種で広く栽培されている。厚ぼったく、大輪の華やかな花が特徴。

mini情報 サクラの開花

室蘭のサクラ開花日は、平年値5月6日で、開花の基準となる標本木は、室蘭八幡宮境内のソメイヨシノ。標本木に5～6輪以上の花が開いた日に、气象台が開花宣言し、開花してから満開になるまでは、数日から1週間程度かかる。また、ヤエザクラは開花が遅く、例年5月下旬に見ごろを迎える。

崎守町の一本桜 (私有地につき、立ち入り禁止)

道央道室蘭インターチェンジから伊達方向に向かう途中の道道室蘭環状線沿いの牧草地(崎守町)に、ポツンと一本、樹齢100年以上、高さ10mほどの見事なエゾヤマザクラがあります。

幌萌町のエゾヤマザクラ (保存林・樹木...23ページ参照)

樹齢約210年の胆振地方最大級のエゾヤマザクラで、室蘭市の保存樹木に指定されています。威風堂々とした高さ16m、幹回り4.3mのこのサクラは、寿命をはるかに超えており、防風雪などで幹の損傷が進んだため、樹木医等により修復されています。開花の時期には、市民有志の手により、夜間はライトアップされています。

測量山桜ロード

市民団体の室蘭昭和会が中心となって、「子供達に自然を通して郷土を愛する心を」「測量山に自然豊かな憩いの場を創ろう」を合言葉に、測量山を桜でいっぱいにと、平成13年に「測量山桜ロード実行委員会」を設立しました。翌年から毎年植樹に取り組み、平成18年には100本を超え、今では350本を超えるまでになりました。

市民に1本3,500円の苗木協賛金を「就職や進学などの記念として、桜の測量山づくりに協力していただく」趣旨で提供してもらい、一緒に植樹した後は提供者の名前が刻まれたプレートが木に掲げられます。また、同会の有志が毎年、この桜ロードや測量山から唐松平付近の桜の手入れを行って、保全に努めており、毎年植樹者との育成の集いも開催されています。

問い合わせ先 測量山桜ロード実行委員会事務局 電話 0143-46-4881
FAX 0143-46-4885

アジサイロード（白鳥大橋記念館「みたら」(道の駅「みたら室蘭」)前の通り)

室蘭商工会議所がまちのイメージアップのために、市民公募した「地域活性化論文コンテスト」の「室蘭をアジサイでいっぱい」という提言を受け、平成9年から「市民一株運動」で市民から株を募り、白鳥大橋記念館「みたら」の前の通りに植栽しました。埋立地で風も強く育成を心配しましたが、一年目から花を咲かせ、今ではアジサイロードの名にふさわしい景観となりました。一人の市民の提言が、多くの市民の協力で実現したアジサイロードです。

祝津臨海公園の桜並木

祝津会館裏手の幅約20m、長さ約300mにわたって、祝津町会が毎年ヤエザクラを中心に植樹し、400本にもなります。海沿いで風が強いので高く成長しない木は、花見に向けています。平成21年の祝津商店会55周年を節目に、桜祭りの開催を始め、現在はこのお祭りで毎年数本の記念植樹を行っています。

地球岬アジサイロード

「地球岬を勝手に広める会」と「アジサイの会」が協力して、地球岬に至る観光道路をアジサイでいっぱいにとしようと、市民に苗の提供を呼び掛け、植栽を続けています。平成19年には600株を超え、7月中旬から下旬にかけて道路両脇に並んだアジサイが見事な花を咲かせています。毎年植栽と手入れを両会の皆さんが行っています。

中島1丁目1条通線の桜並木と季節の花々

JR室蘭本線と並行している中島1丁目1条通線沿いに、あすなろ町会の皆さんが、昭和53年から植樹しているサクラ250本と、その向かいの歩道にチューリップをはじめマーガレットやアヤメなど季節に応じた花を植えて、手入れをしています。彩りも豊かなサクラと花々は、JR乗客や通線を通る人たちに喜ばれています。

知利別川沿い桜並木とアヤメ

中島町を流れる知利別川兩岸に桜を植樹しています。花の頃には、桜を観ながら街中にある川岸の遊歩道として楽しめます。また、川岸には「むろらんあやめ会」により、植えられたアヤメが、7月初めから中旬にかけて見ごろで、彩りを添えています。

鷺別川沿い桜並木とコスモス

室蘭市と登別市の境を流れる鷺別川沿いに、毎年春になると、高砂町から水元町までの1.5kmを見事な桜並木が飾ります。付近の町会の人たちが、昭和50年から4年間かけて植樹したヤエザクラ500本が、立派に育っています。毎年開花の時期には、「桜まつり」が開催されます。

今では、毎年桜の花の季節が終わる頃に、地元の有志が集まって毎年コツコツと種を植えたコスモスが花をつけ始め、夏から秋にかけて色も鮮やかに咲き揃います。

コスモスロード

平成14年に八丁平連合町会が中心となり、市民有志で「グリーンボランティアクラブ」を発足し、八丁平地区の道道を「コスモスロード」とするために活動を始めました。種まきや花壇の整備などを行って、地域の景観と緑化のために活動を続けています。

白鳥台北公園

「白鳥台北公園に桜を咲かせる会」が、平成12年から住民総参加で植樹をスタートし、今では約400本となりました。毎年「桜まつり」が行われています。

臨港道路陣屋崎守線沿道のサクラ

道外在住の地主自らが植樹し、毎年1、2度来蘭して手入れをしています。臨港道路沿いに立ち並ぶサクラは、通行する人達の目を楽しませています。

7.文化財

国の指定・登録文化財

区分	名称	指定年月日	摘要
重要文化財	輪西遺跡出土土偶	昭和37. 6. 21	縄文晩期の中空土偶。大正期に現在の大沢町から出土し、東京国立博物館(台東区)に所蔵されている。
史跡	東蝦夷地南部藩陣屋跡 モロラン陣屋跡 台場・勤番所跡	昭和 9. 5. 1 昭和49. 8. 22	安政3年(1856)、幕府の命によって、南部藩により築かれた方形の二重土塁や壕からなる出張陣屋。当時藩士らが植えた杉林や、藩士の墓などが現存している。 崎守町にある台場・勤番所跡は、モロラン陣屋に付随し、湾内を警備した。
名勝	ピリカノカ絵鞆半島 外海岸(35 ページ参照)	平成24. 1. 24	アイヌ語地名と、その由来となる地形がよく残る4景勝地(ハルカラモイ、増市浜、地球岬、トッカリシヨ浜)。
登録有形文化財	室蘭市 旧室蘭駅舎 (65 ページ参照)	平成11. 7. 8	明治45年(1912)、室蘭本線の終着駅として造られた木造2階建て、煙突付きの駅舎。現存する道内最古の木造駅舎であり、平成22年(2010)10月には、JR北海道より準鉄道記念物に指定。建築面積686㎡。

市の指定文化財

種別 有形：有形文化財、民俗：民俗文化財、天然：天然記念物

指定番号・名称(所在地)	種別	指定年月日	摘要
第1号 輪西屯田兵記念碑(中嶋神社)	有形	昭和47. 3. 23	屯田兵中隊本部の記念碑。明治42年(1909年)建立。
第2号 輪西屯田兵旧火薬庫(中嶋神社)	有形	昭和47. 3. 23	明治19年(1886)、第一回屯田兵村の建設時に、中隊本部とともに建てられた火薬庫。
第3号 輪西屯田兵関係資料(中嶋神社)	民俗	昭和47. 3. 23	屯田兵中隊本部で使用していた印鑑、軍服等。
第4号 仙台藩角田領添田家関係資料(民俗資料館、図書館)	民俗	昭和47. 3. 23 昭和48. 3. 27	明治3年(1870)、仙台藩角田領(現宮城県角田市)から入植した添田龍吉らが、開拓の事業に当たった時に持参した刀・陣羽織などや、室蘭開拓の経緯等を記した古文書。
第5号 室蘭 ^{かくら} 神楽(室蘭神楽保存会)	民俗	平成10. 5. 7	明治34年(1901)、新潟県の三条神楽が室蘭八幡宮に奉納され、今日まで伝承されている。昭和初期には、ご当地神楽「鯨神の舞」が創作された。(36ページ参照)
第6号 御供 ^{おともししまい} 獅子舞(香川町郷土芸能存会)	民俗	平成10. 5. 7	明治25年(1892)、香川県から入植した開拓者によって始められ、今日まで受け継がれている。(36ページ参照)
第7号 日本製鋼所室蘭製作所製造複葉機エンジン「室0号」(日本製鋼所室蘭製作所)	有形	平成11. 9. 2	国産第1号の航空機エンジンで、室蘭の企業が、大正7年(1918)に完成させた。
第9号 瑞泉 ^{すいせんたんとしよ} 鍛冶 ^{ふいじ} 所の鞆(日本製鋼所室蘭製作所)	民俗	平成12. 11. 2	堀井家歴代の刀匠が用い、数々の名刀を生み出してきた工匠用具(83ページ参照)。
第10号 白鳥大橋海底部等出土の材化石及び貝化石の標本(白鳥大橋記念館、科学館)	天然	平成12. 11. 2	室蘭港がかつて湖であったことなど、3万9千年前以降における室蘭の地形の形成過程を示す化石類。
第11号 石川家不動明王像(石川町 77)	民俗	平成15. 1. 9	旧角田領主石川氏が奉じたものと伝えられ、同氏の室蘭郡への移住に伴いチリベツに移された石像。明治14年(1881)に、室蘭の天神山不動堂に安置されたが、同43年に神代町の地藏堂に客仏として奉安されることになった。高さ52.5cm(台座含む)、幅34.4cm、厚さ約20.0cm。
第12号 南部藩陣屋跡出土砲弾(民俗資料館)	有形	平成22. 3. 3	国指定史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡の内陣から出土した幕末の鉄製砲弾。
第13号 胆振 ^{いぶり} 国室蘭郡 ^{むらわんけんぜん} 全図(図書館)	有形	平成22. 3. 3	明治初期に作成されたと推測される絵図。当時の本市の開拓状況や地名、産物が記載されている。
第14号 友情人形(青い目の人形)(民俗資料館)	有形	平成22. 3. 3	昭和2年(1927)に、日米親善のため、アメリカより日本に寄贈された人形の中から、本市に贈られた12体のうち、唯一現存した絵鞆尋常高等小学校に贈られた1体。

市指定文化財第8号は、無形文化財「金工」で、その保持者に、刀匠 故 堀井胤次さん(平成14年10月3日逝去)が、認定されていました。

名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸

室蘭市の外海岸は、断崖絶壁が続く美しい海岸です。この海岸が「名勝ピリカノカ絵鞆半島外海岸」として国の指定文化財になりました。開港140年市制施行90年の記念の年である平成24年に、史跡「東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡」以来二つ目の国の指定文化財が誕生しました。

・名勝とは

名勝とは、一般的には景色が優れた土地を指す文化財の一種です。名勝として指定されるのは、優美な自然景観や庭園などで、和歌などの文芸作品に古くから登場する歴史的由緒がある風景や土地です。代表として、観光地・名所として名高い日本三景（安芸の宮島・京都の天橋立・宮城の松島）や京都の金閣寺庭園、福井の東尋坊、金沢の兼六園などが挙げられます。

・北海道の名勝「ピリカノカ」

北海道では、名勝はあまり例がありません。美しい景観は数多くありますが、これまで文芸作品の題材といった「歴史的由緒」の部分が乏しいと考えられていたからです。

しかし、明治開拓以前の古くから道内で生活していたアイヌの人たちは、文字こそありませんが、自然界の出来事や神話などを口承文芸として数多く残しており、この中にもさまざまな土地が登場します。また、道内各地に残されたアイヌ語の地名も、その地域での生活を示す貴重な歴史的資料なのです。

このため、道内各地に残るアイヌ文化に由来する景勝地を、ピリカノカ（アイヌ語で美しい・形）という名前で名勝として指定し、保護する取り組みが現在進められています。

平成24年1月24日に、ピリカノカの7カ所目として「絵鞆半島外海岸」が、新たに指定されました。（増市浜…17ページ、地球岬…20ページ、トッカリシヨ浜…20ページ、ハルカラモイ…21ページ参照）

mini情報 その他の指定地 名寄市の九度山(クタウンヌプリ)、石狩市の黄金山(ピンネタイオルシベ)、枝幸町・浜頓別町の神威岬(カムイエトウ)、えりも町の襟裳岬(オンネエンルム)、遠軽町の瞰望岩(インカールシ)、豊浦町のカムイチャシ、帯広市・中札内村の十勝幌尻岳(ポロシリ)、新冠町・平取町の幌尻岳(ポロシリ)、平取町のオキクルミのチャシおよびムイノカ。

・絵鞆半島外海岸

室蘭という市の名前もそうですが、市内にはアイヌ語に由来する地名が100以上あります。なかでも、10km以上にわたり断崖が続く絵鞆半島の外洋側では、たくさんのアイヌ語地名が、その由来となる自然環境と共にそのまま残されています。（景勝地…17ページ参照）

・名勝に指定されると

景色や地名などは、その土地に住む人にとっては当たり前のもので感じられることが多いのですが、国により名勝として指定されたことは、国民全体の貴重な財産であり、全国的にも貴重で保護すべき文化財として、広く認められたこととなります。

指定された場所は、これまでも「室蘭八景」などの形で観光スポットとして親しまれてきましたが、自然の景観だけではなく「アイヌ文化に由来する名勝」として注目される形になります。今後は、室蘭にある地域の宝物として、未永く保存し、まちづくりや観光の資源として活用していくことになります。

・アイヌ文化と室蘭

鉄鋼業を中心とした「ものづくりのまち」として知られる室蘭ですが、アイヌ語地名が全道と比較しても多く、古くから地名の研究がなされてきた土地です。

地名の多さについては、海岸線が入り組み、細かな地形の変化が多いこと、さらには、明治以前から港町として利用されていたため、行き交う人々により、それらが絵図や文書で記録に残されてきたことが挙げられます。

国語学者・言語学者として知られる金田一京助が、アイヌの口承文芸の調査研究を最初に行ったのは、この室蘭でした。また、金田一に師事し、言語学者として知られる登別出身の知里真志保(旧制室蘭中学校卒業)は、アイヌ語地名学者の山田秀三と共に、この地域のアイヌ語地名について詳細な研究を残しています。

室蘭神楽 (室蘭八幡宮...56ページ参照)

室蘭八幡宮や御傘山神社の例祭に奉納されている神楽(室蘭神楽)は、新潟県の三条市一円で行われている「三条神楽」(新潟県の無形文化財指定)の伝統を受け継ぐものです。

現在の記録では、大正14年(1925)、三条市西大崎の中山神社から伶人(れいじん:楽を司る人)2人を招き、松崎丑蔵(通称は徳一)、南谷初太郎をはじめ、地元の同好者に舞を仕込んで伝授されたことになっています。しかし、室蘭神楽保存会の調査によると、それより前の明治34年(1901)頃から、当時、神社に積極的な力を入れていた(株)栗林商会の創業者である栗林五朔(ごさく)が、生まれ故郷の西大崎の中山神社から伶人を招き、毎年、例祭に奉納していたのがそもそもの始まりだと言われています。大正10年(1921)12月7日には、正式に神楽講が発足しています。

舞33舞、囃12曲からなっており、舞は、御供獅子舞(下記)とは逆に拍子のゆったりとした静かな能舞に近いもので、舞手一人の「一人舞」と、舞手数人の「組舞(くみまい)」があります。現在の面や装束は、昭和15年(1940)の紀元2600年を記念して、栗林徳一(株)栗林商会2代目社長)から、2,600円(当時の100円は現在の19万円相当)の寄付によって備えられたものです。

この伝統保存のため、昭和49年2月に神楽講を改め、地元愛好者によって「室蘭神楽保存会」が結成され、「室蘭神楽」と呼称するようになりました。会員が保存に当たるとともに、現在も同好会の子供たちに継承するため、懸命な練習が続けられています。

・鯨神の舞

室蘭八幡宮は、明治7年(1874)、現在の崎守町から遷座(せんざ:神などの御座を移すこと)の際に、港に漂っていた鯨を捕獲し、北海道開拓使に買い上げを願い、その代金を、建築費用に充てたことから「鯨八幡」と呼ばれました。昭和の初め、昭和の御大典を記念して「室蘭神楽講」(室蘭神楽保存会の前身)の伶人たちにより「鯨八幡」の由緒を神楽に仕立て「鯨神の舞」を創作しましたが、極めて不評で上演されることもほとんどなく、鯨頭(くじらがしら)などの小道具類も、昭和6年(1931)12月の社殿火災の折りに焼失し、この舞は衰退してしまいました。

平成2年(1990)平成の御大典の記念事業として、「室蘭神楽保存会」では、「鯨神の舞」の復活を計画し、春先から鯨頭の製作に取り組み、「五穀撒(ごこくちらし)の舞」を基本に振り付けをし、同年8月14日、60年ぶりに復活上演を行いました。

舞は、鯨2人、漁師2人、大綿津見乃大神(おおわたつみのおおかみ)1人で、5人の伶人による組舞です。不漁で悩む実直な漁師の前に、大きな鯨が現れると同時に豊漁となります。それと同時に大綿津見乃大神が、漁師に「鯨八幡」の建立を命じます。海の幸として授けた鯨が実は龍神の化身であったという筋書きで、鯨の登場する神楽は、全国でも例がないといわれています。

御供獅子舞

明治25年(1892)2月20日、香川県三豊郡紀伊村(現 観音寺市)から、久保治平一族が、千舞籠村(現香川町)に入植し、その後同県からの移住者が増え、明治34年には15戸となりました。

御供獅子舞は、明治30年、同県出身者、政田茂次郎の指導で、コクワのつるで獅子頭をつくり、前田三次郎の納屋で故郷香川の獅子舞の練習を始めたのが最初です。明治37年(1904)、故郷の観音寺町から久保勇造(治平の義弟)を師匠に招き、青年たちに舞を伝授し、このときの型を青年団員が代々引き継いで現在の姿になりました。

しかし、社会の変動により若手の継承者が減り、存続が危ぶまれたため、昭和44年(1969)香川町住民らが中心となって「室蘭市香川町郷土芸能保存会」を設立し、厳しい開拓の困難に耐え抜いてきた先祖の意志を受け継いで、今でも伝統を守り続け、毎年9月15日の香川八幡神社のお祭りに披露しています。

平成8年(1996)11月、室蘭市生活文化伝承者表彰を受賞し、翌9年2月に獅子舞渡道100年を記念して、香川県観音寺市を訪問、本家百百(どうどう)獅子舞と交流し、合同舞を演じました。

獅子頭は、三豊郡大野原村から求めたもので、雌雄2頭の獅子に4人、鳴り物として太鼓が裏打1人、曲打3人、笛3人、すり鉦1人の計12人によって構成されています。

太鼓、笛、すり鉦に合わせて獅子2頭がゆっくりと歩み、続いて「カットントン・カットントン」と打つ太鼓のリズムに合わせて花笠をつけた子供3人(曲打)のまわりを勇壮果敢に所狭しと踊ります。その姿は暴れ獅子を想像させ、野性味あふれる豪壮さに特色があります。

8. 碑および史跡

絵鞆遺跡 (絵鞆岬展望台付近)

噴火湾を望む絵鞆岬の付近には、数多くの遺跡が残されています。エンルム・チャシと呼ばれるアイヌの人たちの祈りの場であるチャシの跡、縄文文化からアイヌ文化までの貝塚やお墓などが残されています。

先住民慰霊碑 (絵鞆岬展望台横)

絵鞆岬の高台にあるこの慰霊碑は、昭和37年(1962)9月にアイヌの人たちの祈りの場であるチャシがあったこの地に、開港90年・市制施行40年を記念して建立されました。

この碑は、アイヌ模様が碑面に施されており、吹く風が“ヒューヒュー”と鳴るように設計されています。



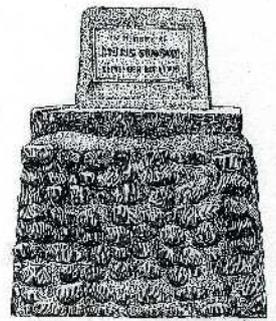
築港殉職碑 (祝津町・室蘭港湾事務所横)

大正7年(1918)着工の南・北防波堤工事(昭和2年に終了)では殉職者13人、昭和33年(1958)着工の外防波堤工事(昭和39年に終了)では殉職者12人と、25人ももの尊い犠牲者を出しています。室蘭の発展とともにあった港を築く際に殉職した方々の慰霊のため、昭和42年(1967)、室蘭港湾建設事務所が同所の裏に犠牲者25人の名を記した「殉職碑」を建立しました。

ハンス・オルソンの慰霊碑 (大黒島内)

寛政8年(1796)、英国船プロビデンス号が寄港の際、デンマーク人の水兵ハンス・オルソンが、作業中に倒れてきた木の下敷きになり亡くなったため、遺体をこの島に葬りました。

昭和30年(1955)、室蘭ロータリークラブの年次大会を記念して建立しました。



プロビデンス号来航記念碑 (水族館敷地内)

寛政8年(1796)、ヨーロッパ・アジア間の貿易路「北西航路」探検のため、南太平洋から北太平洋へ、蝦夷と樺太、千島の探検航海を続けていた、英国船プロビデンス号(ウィリアム・ロバート・ブロートン船長)が、天然の良港(現在の室蘭港)を発見しました。航海記『北太平洋探検の航海』に、「エンデルモ(エトモ)・ハーバー」と記載し、広くヨーロッパ諸国に紹介しました。

このことが今日の国際拠点港湾への出発点であったことを記念して、昭和30年(1955)9月、室蘭ロータリークラブが建立しました。(プロビデンス号の来航...9ページ参照)

ぎょらんかんのん
魚藍観音像 (水族館敷地内)

昭和33年(1958)、立雲寺住職の林瞬祥(しゅんしょう)や土木建設業者らが、水族館敷地内の旧防空壕跡に建立した観音像です。

ごしょうかんおんせいせき
明治天皇御乗艦御聖跡碑 (室蘭通船(株)横)

明治14年(1881)9月4日、明治天皇が北海道巡幸で室蘭に行幸(ぎょうこう)され、山中旅館に一泊後の翌日午前7時35分、諸艦の礼砲のこだまする中、天皇は波止場からお召し艦「迅鯨(じんげい)」に御乗船、一路対岸の森町へと向かわれました。

これを記念して、当時の波止場(現在の緑町、白川商店)向かいにあった旧国鉄管理部辺りの一角にこの碑が建立されましたが、後の道道拡張工事に伴い、現室蘭通船(株)横に移設されました。

きんじょう
今上天皇陛下御上陸記念碑 (室蘭開発(株)前)

昭和11年(1936)、陸軍大演習のため、昭和天皇が行幸の時に、この場所に上陸されたことを記念して、同12年に市が建立しました。

当時は、このあたりが波打ち際で陸棧橋があり、沖に停泊している船に渡り船などで、乗下船していた場所です。(当時の今上天皇陛下は昭和天皇)

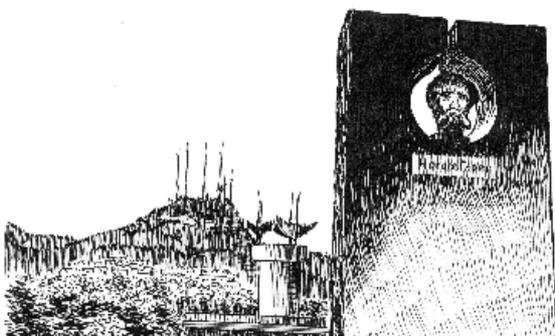
明治天皇聖跡碑 (入江臨海公園内)

明治14年(1881)9月4日、明治天皇が北海道巡幸で室蘭に行幸されました。このとき宿泊された山中旅館跡(旧室蘭駅舎向かいの階段を上った右側、現海岸町2丁目2)に、昭和5年に聖跡碑を建立しましたが、同57年入江臨海公園内に移設しました(道路から海に向かって左側)。

ホーレス・ケブロン顕彰碑 (入江臨海公園内)

ホーレス・ケブロン(1804 - 1885 米国)は、北海道開拓使の顧問で、明治5年(1872)から同7年に北海道を調査し、室蘭港が天然の良港であることを認め、港湾改修・道路開発・鉄道敷設を進言しました。

室蘭港の基盤を作ったともいえるケブロン
の功績を称え、期成会が中心となって碑を建
立し、平成3年(1991)7月、市が寄贈を受けまし
た。入江臨海公園の噴水のそばに、ブロンズ
像が埋め込まれた高さ2.1mの黒御影石(くろみ
かげいし)の碑が建っています。



艦砲射撃慰霊碑（室蘭八幡宮境内）

終戦間近の昭和20年(1945)7月14、15日の2日間、アメリカ太平洋艦隊第38機動部隊による室蘭空襲と艦砲射撃が行われ、戦後、経済安定部が発表したところによると、市民だけでも393人が犠牲になっています(アメリカ国立公文書館にある室蘭市提出の記録文書では、2日間で市民だけでも439人が犠牲)。ほかにも、軍関係者に相当な犠牲者が出ています。

この犠牲者を慰霊するため、昭和34年(1959)7月15日に市が建立しました。中島本町の公園内などには市民の手で建立された慰霊碑があります。(空襲と艦砲射撃...15ページ、艦砲射撃慰霊碑...41ページ参照)

忠魂碑（室蘭八幡宮境内）

日清戦争(1894～5)と日露戦争(1904～5)における本市出身者の戦没者慰霊碑として、明治44年(1911)、当時の帝国在郷軍人会室蘭町分会が有珠湾の自然石を使って建立しました。

ほんだあらたおうしょうとくひ
 本多新翁頌徳碑（文化センター前）

明治9年(1876)、小学校設立運動を起こし、中央町の旧北海道銀行室蘭支店辺りの民家を借り、20人余りの児童で開校したのが、室蘭市の教育の発祥であり、常盤小学校の始まりです。その後、何度か移転を繰り返し、明治31年(1898)、現在の文化センターが建っているところに、8学級464人で常盤小学校の新校舎が完成しました。

これらの偉業を称え、室蘭の教育の祖ともいえる本多新の碑が、昭和26年(1951)9月に建立されました。また、同氏は当時、北海道では数少ない民権運動家としても知られていました。

仏坂招魂碑（NHK横の崖上）

明治5年(1872)、室蘭の夜明けを告げる室蘭と札幌間の札幌本道開削工事が、つち音高らかに始まりました。しかし、岩盤質の山を崩して道を切り開く工事は難行を極め、多くの人夫が犠牲になり、この工事場付近に一時仮埋葬されました。このため、だれ言うとなか名付けられたのが「仏坂」でした。昭和7年(1932)「市役所通り」と改められましたが、今なお「仏坂」の名で呼ばれています。(仏坂...54ページ参照)

かつて「行こか幕西、帰るか母恋、ここが思案の仏坂」という歌がありました。これは、母恋に社宅があった日鋼社員が、自宅に帰ろうか、遊郭街のある幕西に行こうかと、鬼気もせまる仏坂の手前で迷う姿を冷やかしたものです。

明治43年(1910)、この工事の犠牲者と同40年から42年の日鋼の工場敷地の開削や工場建設の犠牲者の慰霊のため、仏坂を見下ろす丘に招魂碑を建立しました。

じゅんしよくしょうへい
 海軍殉職将兵者納骨塔と礼拝記念碑（モトマリ墓地内）

昭和10年(1935)9月、白老沖で発生した巡洋艦「足柄」の砲塔爆発事故で殉職した黒木大尉以下16名の乗組員および巡洋艦「那智」「最上」、駆逐艦「秋風」の乗組員の英霊を祭った納骨塔と、この納骨塔を軍艦「迅鯨」の乗組員が全員で礼拝したことを永久に記念して、同12年に礼拝記念碑が建立されています。

天沢泉と明治天皇御巡幸記念碑（御傘山神社境内、御前水公園内）

明治14年(1881)9月、明治天皇が北海道巡幸の際、この地で休息され、コンコンと湧き出る泉の水を召し上がったことを記念して、明治44年(1911)、この地を「天沢泉」と命名し、日本製鋼所が中心となって御傘山神社境内に記念碑を建立しました。

大正11年(1922)の町名改正の折り、御膳水にちなみ、この付近一帯を御前水としました。また、昭和11年(1936)に、同神社向かいにある御前水公園内に「明治天皇御巡幸記念碑」を市が建立しました。

艦砲射撃殉職者慰霊碑（御崎神社境内）

平成25年(2013)、御崎町会によって新しく建立された艦砲射撃殉職者の慰霊碑です。艦砲射撃で亡くなった同町会の人を慰霊するため、戦後間もなく個人が建立した慰霊碑が始まりで、昭和41年に建替え後、御崎神社境内に移され、同神社の祭典と合わせて慰霊祭が行われています。(空襲と艦砲射撃...15ページ参照)

明治天皇^{おんのだてしよ}御野立所記念碑（ユースホステル前 潮見公園内）

明治14年(1881)、明治天皇の北海道巡行のとき、室蘭入りした天皇は、まず、室蘭港を一望できるベシボッケ(崖下の所という意味)の上、現在のみゆき町、潮見公園駐車場付近で、お休みになりました。これを記念して昭和4年(1929)、在郷軍人輪西分会の発起で建立されました。(野立所とは、天皇の野外での休憩所のことです。)

宮沢少佐遭難記念碑（ユースホステル前 潮見公園内）

昭和6年(1931)6月、樺太調査のため飛行中の偵察機が、濃霧のため不時着に失敗しイタンキ浜に突入しました。このときに殉職した宮沢少佐を追悼するため、同12年、墜落した現場に碑を建立し、その後、同60年(1985)に、墜落した場所の見える現在地に移転しました。

中国人^{じゅんなんれっし}殉難烈士慰霊碑（汐見トンネル登別入り口上の海側）

第2次世界大戦中の昭和19年(1944)から同20年にかけて、多数の中国人を強制連行し、日本各地で労働をさせました。

本市には、1,855人が強制連行され、重労働であったことなどから、わずか半年あまりの間に564人が亡くなりました。昭和47年(1972)9月の日中国交回復を記念し、日中両国の永久的友好と永遠の平和の願いを込めて、同49年9月、イタンキ墓地にあった慰霊碑を市民の手により再建立したものです。

輪西屯田兵記念碑（中嶋神社境内）

明治新政府は、明治6年(1873)、土族救済と北海道の開拓・警備を目的に屯田兵制度を作りました。室蘭には、明治20年(1887)と同22年の2度にわたり、鳥取・愛媛・兵庫・福岡・佐賀・石川の各県から総数220戸、1,109人が当時の輪西村（現在の幌萌町～知利別町～輪西町）に入植し、未開の荒地や泥炭地であった蘭東地域の開墾に従事しました。現在のまち並みにも、当時の屯田兵による地割りが多く残されています。

兵村と練兵場のあった中嶋台地、現在の中嶋神社境内には、屯田兵たちの開拓の苦勞をしのび、明治42年(1909)屯田兵ゆかりの人達によって、高さ7.6mの青銅製鉾形(ほこがた)の詩情豊かな記念碑が建立されました。このブドウツルクサ図の浮彫りの碑は、後に芸術院会員

となった明治期工芸界の第一人者、香取秀真(かとりほずま)の鑄造で、碑文は、大正天皇に漢字を進講した小牧昌業(こまきまさなり)です。

また、境内には明治19年、中隊本部建設の際、建てられた木造平屋建て切妻(きりづま)造り、建坪3.2坪(約11㎡)の旧火薬庫がほぼ原形のまま残っているほか、神社社務所内には屯田兵着用の軍服・軍帽・食器・中隊ゆかりの印鑑などが展示されており、記念碑や火薬庫と共に、室蘭市指定文化財になっています。

艦砲射撃慰霊碑 (中島本町公園内)

昭和20年(1945)7月15日の艦砲射撃で犠牲となった方々の慰霊のため、中島社宅民和会が同34年(1959)3月31日に建立しました。毎年7月15日に慰霊祭を行っています。

輪西村開拓記念碑 (本輪西神社境内)

明治3年(1870)、仙台藩の一門である角田領主 石川邦光が、明治政府から室蘭郡の支配を命じられ、家臣など51人を移住させ開拓を行いました。今日の室蘭隆盛の基礎となったことを記念して、大正8年(1919)に旧家臣などにより本輪西神社境内に建立されました。

かん ひ いずみせんせい の ひ 閑斐泉先生碑 (崎守町)

閑斐泉先生とは、明治30年代から40年代にかけて室蘭の教育界に大きな足跡を残した、元室蘭小学校の初代校長 泉致広(いずみむねひろ)のことで、慶応元年(1865)に磐城国伊具郡角田町(宮城県角田市)に生まれ、明治2年(1869)室蘭に入植した仙台藩角田領・石川邦光の家老職だった泉忠広の長男です。父についてわずか4歳の幼少の身で室蘭開拓に加わりました。同23年(1890)に小学校教員の免状をとり、当時教育の外側にあったアイヌの子弟の教育に尽力し、これが内外に認められ、文部省選奨を受けています。

明治42年(1909)に45歳の若さで病没しました。

大正4年(1915)12月、村民や教え子らの手によって、かつての元室蘭小学校校庭跡の一角に碑が建立されました。碑文は風化していますが、致広の生涯とその業績が漢文で刻まれています。「人非麵包耳而生者焉(人はパンのみにて生きるに非ず)」は、致広が信条としていた言葉で、人柄を語るに最たるものです。

史跡 東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡 (陣屋町民俗資料館裏)

幕末の安政2年(1855)、江戸幕府は蝦夷地(北海道)の沿岸警備を東北地方の諸藩に命じ、函館恵山岬から幌別の間は南部藩の担当とされました。同3年、ペケレオタ(明るい砂浜の意味)と呼ばれていた陣屋町の現在地に、内外二重の土塁からなる長方形の出張陣屋(本陣屋は函館)が構築されました。

当時の室蘭地区は、エトモ場所やモロラン会所が置かれた要地で、追直に見張所を設置し、ポロシレト(崎守神社の上)と対岸のエトモ、そしてペケレオタに砲台場を設け、この出張陣屋と併せ、港内に侵入しようとする外国船を追い払うという布陣で警備が行われました。当時は、大砲方や鉄砲武者といった武士が駐屯していましたが、明治元年(1868)旧暦8月、明治維新の際、郷里の盛岡に引き上げました。

昭和9年(1934)、国の史跡として文化財指定され、同43年(1968)から47年にかけて、史跡公園として平面復元をはじめ整備が行われました。陣屋跡には、当時藩士らが植えたとされる杉や、藩士を葬った墓地などがあり、往時をしのぶことができます。

9. 戦 跡

室蘭は古くから北海道を代表する工業都市のため、太平洋戦争中に空襲と道内唯一の艦砲射撃により甚大な被害を受けました。市内には防空壕跡地や加農砲掩体跡等が残り、艦砲射撃等に関する当時の様子も多く語り継がれています。戦争の記憶が遠いものになってきていますが、室蘭の戦争に関する市民の証言や遺物などは、平和の大切さを今日に伝えています。
(空襲と艦砲射撃...15ページ参照)

十五糎加農砲掩体跡 (小橋内町)

昭和20年(1945)、噴火湾から侵入する敵の艦隊とその攻撃を想定し、それを迎撃するため、十五糎加農砲(砲身の口径が15cmの大砲)を収める掩体(コンクリート製の蔽い)2基(予定3基)が造られました。2基の掩体は山の斜面に対し、横向き上下に配置され、噴火湾(現在の森町)方面に向いています。現存するのは斜面下段の掩体です。

掩体は北部軍管区司令部稲木隊(工兵約300人)が、約4カ月かけて構築し、上に土をかぶせて完成させています。しかし、この掩体に砲を2門据え付けたかは不明です。

戦後、この掩体跡はかぶせた土を取り除き、内部を住居として改装し、住宅として昭和50年代まで使用されていました。

測量山の観測所跡 (清水町)

内陸部に据付けられた十五糎加農砲からは噴火湾や敵艦船を直接視認できないため、敵艦の位置などを知らせる目的で、噴火湾(現在の森町)を向いた測量山山頂付近に、上下2段の監視窓をもつ十五糎加農砲の観測所が構築されました(未完成という情報もあります)。

旧市立病院から旧料亭常盤への地下道跡と地下診療室跡 (常盤町、幕西町)

昭和18年(1943)頃、旧市立病院では入院患者の収容と医療業務の確保を目的に、市立病院の分院として買収されていた料亭常盤と裏山のトンネルで結ぶ計画がたてられ、海軍陸戦隊指揮のもと、地域住民の勤労奉仕により約50mのトンネルが同19年(1944)に完成しました。

このトンネルは、爆風による被害対策を考え、「くの字型」に掘られており、その通路には手術室や治療室など設けられていました。空襲の際には港内の艦船が攻撃され、多くの負傷兵がこの地下治療室等に運ばれ、治療が行われました。

昭和30年代までに両入口は閉鎖され、平成9年(1997)には市立病院が移転、平成11年(1999)には料亭常盤も解体されました。現在、入口のあった両斜面は防災工事が行われ、地下道の痕跡は残っていません。

華工収容所跡地 (海岸町ほか)

太平洋戦争末期、国内の労働力不足を補うため、中国や朝鮮半島から多数の人たちが連行されました。昭和19年(1944)、室蘭には約1,800人の中国人が連行されました。日本港運業会室蘭第一華工管理事務所(旧 港の文学館敷地)など5カ所の収容所に配置され、石炭や鉄鉱石、木材や木炭などの運搬労働を強いられました。室蘭の収容所では終戦までに約560人が亡くなりました。

防空壕跡（海岸町ほか）

市内には、昭和20年(1945)3月までに、16カ所（成徳国民学校前や輪西町日鉄診療所など）の公共防空壕（総延長748m）が造られました。その他にも町会や学校、民間などで造られた防空壕は、約450カ所に及びます。

海岸町1丁目にあった旧国鉄札幌鉄道管理部の壕跡（防災工事により消滅）は、4カ所の入り口と大きなホールがあり、他にも部屋がある大規模なものでした。

室蘭飛行場跡地と防衛司令部跡地（八丁平）

昭和10年(1935)、札幌 東京間定期航空路の要衝に位置するため、現在の八丁平に、長さ300m、幅11.5mの滑走路をもつ市営飛行場が造られました。同18年(1943)、陸軍は市民の勤労奉仕による拡張工事を始め、長さ550m、幅20mの滑走路に拡張されました。この飛行場には飛行第63戦隊の一部が駐屯後、第20飛行団飛行第54戦隊の分遣隊が駐屯していましたが、終戦時に飛べる戦闘機はほとんど無かったようです。また、飛行場近くには室蘭の各部隊をまとめる防衛司令部が地下に造られましたが、戦後、土地区画整理により軍事設備は解体されました。（幻の飛行場「八丁平」...15ページ参照）

栗山高射砲陣地跡地に残る掩体跡（八丁平）

市内に6カ所（高平、栗山、輪西、トッカリシヨ、チャラツナイ、絵鞆）にあった高射砲陣地のひとつで、栗山高射砲陣地跡に残る掩体です。

昭和18年(1943)、栗山（現在の八丁平の一部）に新設された高射砲陣地には、秋田県から独立高射砲第32中隊が移駐して、八八式七糎高射砲6門を備えた第7中隊として配備されました。その後再編し、同20年(1945)7月14日の空襲を迎えました。

この掩体は台座の固定部分等から、七糎高射砲用ではなく、高射算定具や測高機、高速測定機用の掩体と思われます。

がしどあんのん 我此土安穩の碑（大沢町）

昭和24年(1949)、輪西元町広場（現在の輪西公園）で横綱照国や横綱羽黒山による土俵入りが行われ、市内各寺院の僧侶や遺族も参列して戦災死没者五周忌追善供養が行われました。その際、立雲寺の林舜祥住職が供養の為に建立した碑と思われます。「我此土安穩」は法華経の一節で、題字揮毫と手形は、照国（横綱、秋田県出身、横綱在位：昭和18～28年）によるものです。

また、他にも昭和21年(1946)に、大関佐賀の花、大関琴錦など東京相撲一行（約80人）が来蘭し、市役所横の特設土俵で戦災戦没者追善供養の相撲が行われました。

このほかの慰霊碑は、碑および史跡...37ページ参照。

10. 文学碑

あべ いちろ

安部 一路 句碑 (昭和32年7月25日建立、祝津町 室蘭水族館構内)

じり ほうらい
海霧はれて 蓬萊の池 美しき

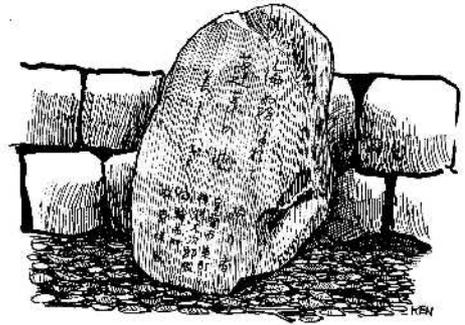
本名を安部一良といい、明治42年(1909)札幌郡で生まれました。昭和3年(1928)に札幌一中を卒業し、同19年に日鐵室蘭製鉄所(現新日鐵住金株)に入社。同社宅内の句会「水曜会」と、町の句会「いぶり」に参加しました。

昭和28年(1953)、道立として建設された水族館の構内が、まだ未整備で寂しかったことから、同32年に、2代目館長の谷口達三と、室蘭民芸協会会員で立雲寺住職の林瞬祥(はやししゅんしょう)らが、現在の売店と事務所の間に「蓬萊の池」を造りました。この池の名を広めるため、池の名を詠み込んだ句を「水曜会」に依頼したところ、一路の句が選ばれました。

碑の文字は、元室蘭市長で書家の長谷川遅牛(正治)の筆によるものです。

その後、池は埋め立てられ、碑はその時に現在地の事務所裏手にある防空壕跡の入り口に移されました。なお、現在水族館構内にある魚藍観音像と安部一路句碑は、林瞬祥によって、同時に建立されたものです。

室蘭民芸協会とは、益子焼をはじめとする陶芸作品などの愛好家の会のことです。



しんどう せんしょう

進藤 千晶 句碑 (昭和52年7月3日建立、増市町1丁目 進藤邸内)

本名を進藤千代といい、大正13年(1924)に山形県米沢市に生まれ、8歳の時に室蘭に移住しました。室蘭高等女学校(現清水丘高校)を卒業後、昭和17年(1942)から2年間、武揚国民学校で教鞭を執りました。



たまらぬ
思ひにしめる
ひとへ帯

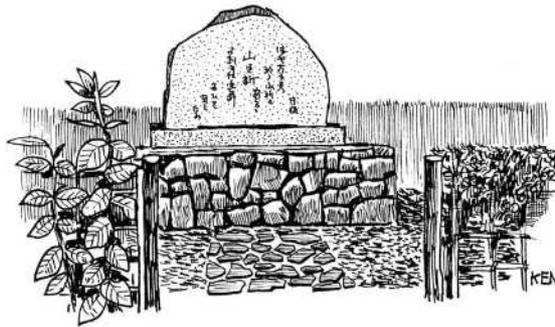
昭和25年、地元の「いぶり吟社」に入会して俳句を作り始めました。昭和34年(1959)には、住んでいた清水町の婦人部で「しみず俳句会」を発足、会報なども出し、活発な句作活動を続け、生涯を通しての作句は5千句を超えたともいわれ、昭和49年に第1回室蘭市民文芸奨励賞を受けています。

昭和51年(1976)11月、句会の帰りに自宅に向かう途中、脳いっ血で倒れ、52歳で他界。後に夫の進藤二郎らによって、遺句集『ひとへ帯』が発刊されました。

自宅の庭に建立された句碑は、俳句などに迷っていた時期の作品で、建立に当たっては、母亡き後、自らも俳句を作り始めた長女芙美子(雅号:芙蓉)と長男の良雄が、立ち寄った島根県松江市の小泉八雲旧邸の庭にある高浜虚子の小さな句碑にヒントを得たということです。

楕円形で肩の線がなだらかな日高沙流川の蛇紋岩に、遺筆の俳句が刻み込まれた高さ0.8mほどの句碑は、四季折々の花と家族や句友の愛情に見守られながら、ひっそりと座しています。

さちのや もりお

幸能舎 守雄 歌碑 (昭和61年4月19日建立、八幡神社境内)

はや万都美
ま つ み
 於久山祇も
お く や ま つ み
 安ら多世に
あ ら た よ
 よ利亭仕遍舞
り て つ か へ む
 色そ見え多類
いろ た る

本名 佐藤守雄は、安政2年(1855)山形県庄内藩鶴岡の城下で生まれました。幼少時代から英才ぶりを発揮しましたが、13歳で藩政革命運動に身を投じ、逮捕された際、左足の筋を切られ、歩行に支障を来しました。

明治12年(1879)に上京し、神道事務局に奉職。後に大社教に身を投じて北海道に渡りました。同27年(1894)に札幌の宿屋で、当時室蘭で旅館を営み、自由民権運動に参加していた本多新と知り合い意気投合。本多の勧めで同年、八幡神社初代社司として来蘭しました。

短歌をはじめ俳句、川柳、漢詩に通じ、書画、茶道などにも造詣が深く、生活が安定してくると、なお一層それらの趣味と教養を深めていきました。「幸能舎(さちのや)」と号して、特に短歌、俳句は北海道において指導者としても活躍し、その道に大きな功績を残しました。大正から昭和にかけては、日鋼俳壇の選者を務めています。昭和11年(1936)、御傘山神社で82歳の生涯を終えました。

自筆で書かれた碑文は、昭和3年(1928)の新年歌会始めに、北海道から初めて入選した詠進歌で、勅題は「山色新(やまいろあらた)」よ。この歌を作ったのは、昭和2年、昭和天皇即位の大典が行われた年で、「人里に近い山も、奥の山も、新しい昭和の御代に協力して仕えましょう」という内容です。碑石は、雨に濡れると苗色が浮き上がってくるという、埼玉県産の青葉小松を用い、守雄の孫である室蘭八幡宮司、奈良守房が亡父瑞穂の遺志を継いで建立しました。神社境内、手水舎の横に位置しています。

詠進歌とは、歌会始の儀に際して、和歌の詠草を進献することです。

本多新は、室蘭教育の祖とも呼ばれ、常盤小学校の開校に尽力しました。

苗(なえ)色は、稲の苗のような淡い緑色、伝統色名。

むなかた しこう ばんがひ

棟方 志功 版画碑 (昭和32年8月20日 水族館構内に建立、平成9年6月20日 海岸町旧「港の文学館」横に移設再建、平成25年11月1日「港の文学館」の移転に伴い、隣接地に移設)

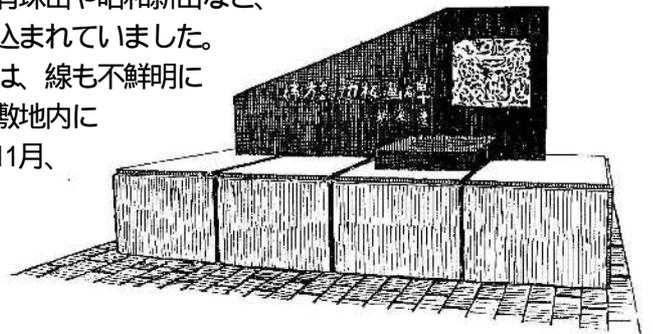
版画界の巨星といわれた青森県出身の棟方志功(明治36年生れ)は、室蘭民芸協会会員で立雲寺住職の林瞬祥らの招きで、昭和31年(1956)と翌32年に来蘭し、作品の実演や展示会を行いました。

昭和50年(1975)9月、72歳で亡くなった志功の偉業を後世に伝えようと、日本最初の版画碑を、青森県人会の神惣次郎会長が中心となって、昭和32年8月20日に水族館構内に建立しました。「室蘭版画の柵」と題された碑は、棟方志功全集に載っている有珠山や昭和新山など、噴火湾を囲む雄大な自然を描いた青銅の鋳型が埋め込まれていました。

海に近かったため塩害も加わり老朽化が進んだ碑は、線も不鮮明になったことから、平成9年(1997)6月に旧港の文学館敷地内に移され、新たな碑として建立されましたが、同25年11月、同文学館の移転に伴い、碑もその隣接地と一緒に移されました。

港の文学館には、志功にまつわる作品などが数多く展示されています。

碑は、変形五角形の黒御影石で、もっとも高い所で高さ0.8m、横1.8m、奥行0.2m、真ちゅう製の複製版画がはめ込まれています。揮毫は、元北海道知事の田中敏文です。



碑は、「版画碑」ではなく「**板画碑**」となっています。志功は「版」という板の半分を表現した字を使うよりも、その土台である板という字の力強さから、昭和17年(1942)頃の作品から「木版画」ではなく「**板画**」という字を好んで使いました。

やぎ よしのり
八木 義徳 文学碑 (昭和55年11月6日建立、清水町、測量山観光道路沿い)

明治44年(1911)、札幌通4丁目(現中央町1丁目)で、室蘭町立病院院長の庶子として生まれました。武揚小学校から旧制室蘭中学校(現 栄高校)に進み、剣道に熱中しました。文学に縁のない硬派でしたが、たまたま友人に薦められた有島武郎の小説『生まれ出づる悩み』『カインの末裔』を読み感動を受け、文学に目覚めました。外国航路の船乗りになるのが夢でしたが、視力が弱かったため断念します。やむなく海に関係のある北海道大学水産専門部に進学しました。

しかし、2年目あたりから学業に幻滅し、ドストエフスキー全集を読破。特に『カラマーゾフの兄弟』から甚大な感動を受けました。20歳の夏、級友と2人で樺太に放浪の旅をし、終点で不足した宿代を踏み倒したため、その代償として「ジャコ鹿(浮浪者)」として、約1カ月間の重労働を科せられています。この体験から左翼思想に入っていく、当局の左翼学生弾圧によって北大を自主退学させられました。

その秋、上京し、受講した夜間のロシア語講座の講師には、小林多喜二、宮本百合子、佐多稲子らがいました。左翼運動の仲間の一人が逮捕されたことから、満州に逃亡の果て、ハルピンで自殺未遂を起こしますが、同宿の軍の慰安婦2人に助けられます。その後、思想容疑者として室蘭に押送され、思想係検事の取り調べを受け、転向して釈放されました。留置場を出てからは、当時ほとんど訪れる人のいなかった測量山の山頂に座り込んで、ドストエフスキーを読みふけり、何度読んでも新鮮な感動を与えてくれる文学の力に魅せられ、自分でも小説を書きたいと思うようになりました。



この一百メートルほどの
高さをもった
小さな山の頂上は
中学時代の甲郎にとっては
もの思つ場所 だった
「海明け」より

昭和8年(1933)に早稲田大学仏文学科に入学、横光利一に師事します。昭和12年(1937)、「早稲田文学」に発表した樺太放浪時代を題材とした『海豹(アザラシ)』が、芥川賞の候補となりました。

昭和19年(1944)、中国人工員をモデルにした短編小説『劉廣福(りゅうかんふう)』で芥川賞を受賞。受賞通知は、軍務に就いていた中国で受け取りました。復員後、すでに前年の東京大空襲で妻子が亡くなっていたという悲運に遭遇しましたが、これを克服し、作家活動に専念。作風は、自らの人生を元に深い人生的思索と故郷や満州に題材を求めたものも多く、中央文壇に地位を確立しました。

昭和52年(1977)から北海道新聞に連載した『海明け』には、室蘭中学時代の様子が描かれています。同年、『風祭』で読売文学賞、同57年には室蘭市栄誉賞、同63年には道内文化関係者で初の日本芸術院賞恩賜賞、平成元年(1989)11月に北海道新聞文化賞、さらに翌年には、芸術文化では数少ない勲三等瑞宝章を授章し、国内トップの芸術家で功績顕著な人だけが選ばれる日本芸術院会員に決定。これら数々の功績を称え、平成2年1月、室蘭市名誉市民に選ばれ、同年に第38回菊池寛賞を受章しています。

“私の文学は、血と、土と、そして海風から生まれる”という八木文学の原風景の地、測量山の中腹に、旧制室蘭中学校の同窓会「白鳥会」によって昭和55年(1980)に碑を建立。同年11月6日の除幕式には、八木本人も正子夫人と共に出席しました。縦0.8m、横1.4mの黒御影石に『海明け』の一節が自筆で刻み込まれています。題字は、越谷潔です。

平成11年(1999)10月、港の文学館には、八木義徳記念室が新設され、生原稿、各賞の正賞など多くのゆかりの品が展示收藏されています。八木は、このオープンを見届けるかのように翌月の9日、肺炎のため88歳の生涯を閉じました。

有島武郎 (1888-1923、東京市出身) 作家。
ドストエフスキー (1821-1881、ロシア帝国生) 作家、思想家。
小林多喜二 (1903-1933、秋田県出身) 作家。
宮本百合子 (1899-1951、東京市出身) 作家、評論家。
佐田稲子 (1904-1998、東京市出身) 作家。

横光利一 (1898-1947、福島県出身) 作家、俳人。菊池寛に師事。新感覚派。
「海明け」とは、岸に張りついていた流氷が解けて、海面が現れて来ることです。
八木義徳は、室蘭出身の初の芥川賞作家で、平成23年に生誕100年を迎えました。八木の作品と生涯については、港の文学館発行の冊子『生誕100年八木義徳の世界 血と土と海風から』をご覧ください。

なみき ぼんべい

並木 凡平 歌碑 (昭和26年7月15日建立、常盤町 常盤公園の丘)

ここだけは 鐵の唸りも 聞えない
電信兵の 波のささやき

本名を篠原三郎といい、明治24年(1891)札幌郡元村で生まれました。大正末期から昭和初期にかけて、全道に口語短歌の全盛時代を築き、口語短歌の鬼才といわれました。室蘭の現代語短歌結社「炭かすの街詩社」を主宰する泉孝によると「おれは路傍の並木みたいな男といって、ペンネームを並木凡平と付けた」ということです。

「北海新聞」を振り出しに、実に42社もの新聞記者を経験した凡平は、昭和12年(1937)、それまで18年間勤めていた小樽新聞社から、突然退社を命ぜられ失業します。以来、自作の口語短歌を銚子やコップに刻み、全道を売り歩く生活をしていました。

昭和14年4月、室蘭で発刊する北海日々新聞(後の室蘭タイムス、同17年に北海道新聞社に統合)に入社するため、室蘭に移住しました。室蘭の短歌同人誌『炭かすの街』を二年半ですが監修しています。

凡平は小樽時代に主宰していた口語短歌誌『青空』の室蘭支部の門下生たちに歓迎され、週に一度、常盤町の自宅で歌会を開くなどして、室蘭の歌壇隆盛に大きく貢献しました。

「おみきのんべい」といわれたほどの酒好きで、生活は楽ではなく、そのためか生活を詠んだ歌が多いようです。

石炭の 切れたことまで 兎は知って
春まださむい 夕小雨ふる

色あせた 夏服出して 染直し
出来るかしらと 妻は呟く

仕事も順調で、編集局次長にまで昇進し、生活も安定してきた頃左手にけがをしました。化膿止めの注射を打ったところが、特異体質だったため血液凝固を起こし、それがもとで昭和16年(1941)9月29日、50歳の若さで帰らぬ人となりました。

室蘭時代の凡平の歌は、戦時下で活況を呈する工業都市の表情や、室蘭の風物を詠んだものが多いようです。

燃え上る 焔は火事と 見るばかり
夜空に高く そそる煙突

(輪西環鐵所)

重工業 都市の意欲を 吊り上げて
トランスポーターは けふも動くぞ

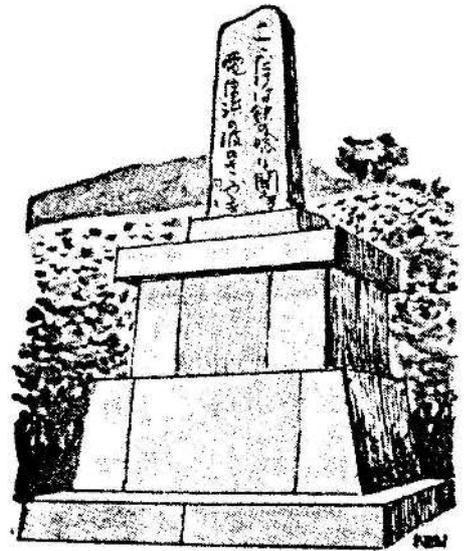
地球岬 見果てぬ夢の あるやうな
太平洋の 夕なぎのいろ

湯がへりの 素肌にしみる ガス深い
この室蘭に めぐる六月

若葉みち ただ一と筋に 友とゆく
地球岬は まだまだといひ

碑は、当時の新聞記者仲間の山本修平、工藤順蔵らにより、刻まれた歌にちなんで、電信浜そばのボンモイ岬に建てられましたが、昭和48年(1973)7月に、現在の常盤公園内に移設されました。歌は、凡平が室蘭日報編輯時代には作られました。

泉 孝 (1916-2007、釧路市出身) 歌人。現代口語短歌を宮柊二、並木凡平に師事。



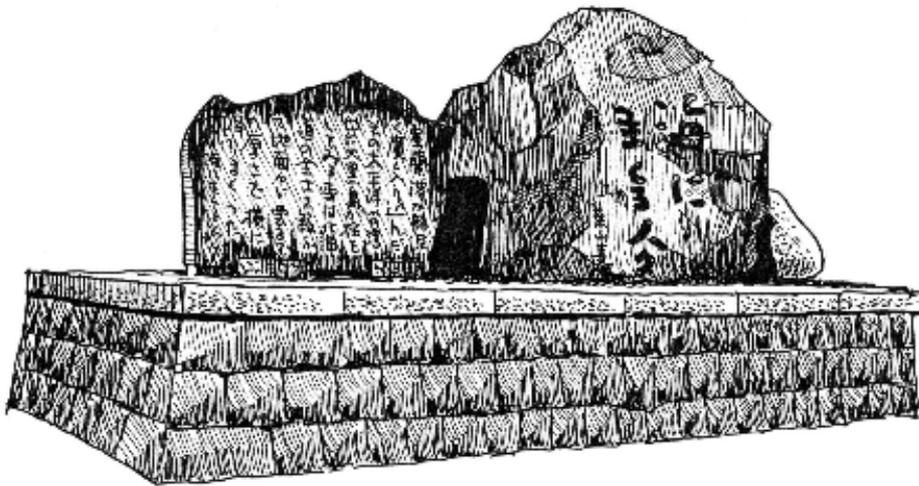
はやま よしき

葉山 嘉樹 文学碑 (昭和61年10月18日建立、入江町 入江臨海公園内)

(主碑)
海に生くる人々

(副碑)

室蘭港が奥深く
廣く入り込んだ
その太平洋への湾
口に大黒島が栓を
してゐる。雪は北海
道の全土を蔽ふ
て、地面から雲まで
の厚さで、横に
降りまくつた
「海に生くる人々」より



明治27年(1894)、福岡県生まれ。大正5年(1916)、室蘭 - 横浜間の石炭運搬船「万字丸」に下級船員として乗り込み、室蘭にやって来ました。その時の体験は、大正12年(1923)、治安容疑で服役中の名古屋の刑務所で毎日検問を受けながら書き上げられ、プロレタリア文学の名作『海に生くる人々』として後に世に出されました。

この小説には、平成13年(2001)6月まで中央町で営業していた菓子屋の東陽軒(明治21年創業、小説では東洋軒)をはじめ、当時の室蘭の港や町の様子が描かれています。そして、葉山がけがをして手当てを受けた町立病院の院長は、八木義徳(46ページ参照)の実父、田中好治でした。また、『鴨猟』では室蘭港を描いています。

幼少の頃から小樽で育った小林多喜二(1903-1933、秋田県出身)は、この『海に生くる人々』など葉山の作品から大きな影響を受け、『蟹工船』を書き上げたといわれています。

高さ1m、幅4m、奥行き2mの台座の上に、海を背にして高さ2m、幅3mの有珠山の安山岩の主碑と、高さ1.1m、幅1.4mの黒御影石の副碑、そして日高石の添え石の三つが、心地よい風に吹かれながら、入江臨海公園に建っています。

碑文は、『海に生くる人々』の有名な書き出しの一節で、元室蘭市長で書家の長谷川暹牛(49ページ参照)の筆によるものです。碑の建っている場所は、かつて石炭積み出しの船が出入りして栄えた港を埋め立てたところであり、この碑は単に文学碑であるだけでなく、室蘭港を開発した多くの先達の顕彰碑でもあるといえます。

碑は、建立期成会が中心となって、港を愛する多くの人々の善意によって建てられ、葉山の41回目の命日である昭和61年(1986)10月18日に、菊枝夫人と長女、出生地の福岡県豊津町の町長、室蘭出身の芥川賞作家 八木義徳らを招いて除幕式が行われました。

はせがわ まさはる

長谷川 正治 歌碑 (昭和32年11月25日建立、チャラツナイ展望台)

あめつち

天地の創世 まさに此處に見ゆ

ここ

大わたつみの 寄せて止まずも

大正2年(1913)、室蘭に生まれ、室蘭市長も務めた長谷川正治は、歌人であると同時に「遅牛」を号とする全国的にも有名な書家でもありました。旧制室蘭商業学校時代から歌を作り始め、小樽高等商業学校(現 小樽商科大学)に進んでからもその情熱はやまず、昭和6年、明星派を主宰する与謝野鉄幹・晶子夫妻の本道講演のきっかけを作ったのも正治らだったといわれています。

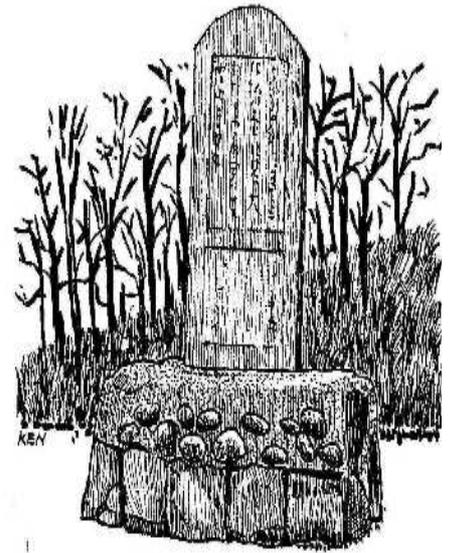
昭和9年(1934)、故郷室蘭に戻った正治は、(株)栗林商会に入社し、愛好家たちと短歌会「栗の花」を結成するなど、大いに活躍しました。

戦後は、社会党や室蘭地協の結成などに参画。政治活動(昭和46年5月～昭和54年4月室蘭市長を務める)に目覚ましい活躍をしながらも幅広い短歌活動を展開し、昭和54年(1979)に歌集『うつせみ』を発売しています。平成5年(1993)2月、80歳で亡くなりました。

碑は、昭和29年(1954)から3年間、失業対策事業として行われた地球岬観光道路の完工記念と、周辺のすばらしい景観を称えようと建立。失業労働者や全日本自由労働組合の組合員に依頼された正治が、歌を作り、自ら筆を執りました。碑は仙台石、高さ1.5m、横0.7mです。この碑は、もとは山側の雑木林を背負って建っていましたが、地球岬観光道路の拡幅に伴い、平成2年(1990)に現在地に移設されました。

歌は「昔アイヌの神々が、天地創造の時に使った道具をチャラツナイの浜に捨て、そのうちオノはあまりに重いため岩になってしまった」という『ニラス岩とムカルソ岩の伝説』(室蘭市の伝説...85ページ参照)を踏まえて作られています。

「ムカルソ」とは、アイヌ語で、オノの意。孔が開いているこの岩は、蓬莱門とも呼ばれている。



さとう きぬこ

佐藤 衣子 歌碑 (平成12年5月15日建立、宮の森町3丁目佐藤邸内)

とび ひょうびょう

見あぐれば 鳶縹渺の 輪をかきて

天に己の 位置をたしかむ

昭和5年(1930)、白老町に生まれ、同25年(1950)の20歳の頃から歌を作りはじめ、杉浦翠子に師事し、「短歌至上」で活躍しました。同43年(1968)「洞爺木賊(トクサ)の会」に入会し、室蘭支部長を務め、短歌のほか詩吟やパステル画などもたしなみました。

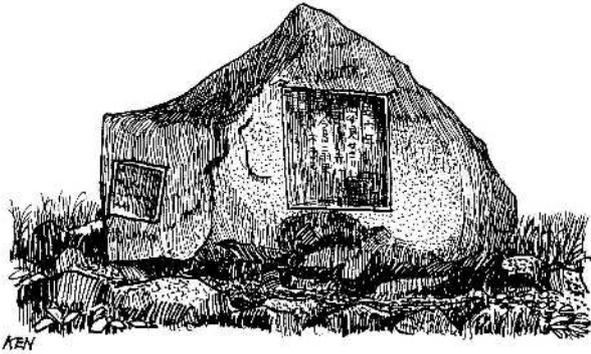
同46年に第一歌集『うみなり』、平成6年(1994)に『敷生川』を出版。詩吟の指導をしています。同7年に室蘭文芸奨励賞を受賞しました。

母 衣子にあこがれて始めた詩吟(岳風会室蘭支部あすなろ吟詠会所属)と書道で活躍する長女の渡部睦子(清風)が、衣子の短歌活動50年と古希の祝い兼ねて、平成12年(2000)5月、自宅の庭に睦子揮毫の歌碑を建てました。庭の花や石に囲まれた歌碑は、自然の中に溶け込んでいます。

杉浦翠子(1885-1960、埼玉県出身、旧姓 岩崎翠)歌人。北原白秋に入門、アララギ派入会、斎藤茂吉に師事。多摩帝国美術学校(現 多摩美術大学)の初代学長杉浦非水の妻で、夫妻は「モガ・モボ」として持て囃された。木賊とは、本州中部から北海道にかけての山間の湿地に自生する植物。観賞用などの目的で栽培されることも多く、表皮の細胞壁にケイ酸が蓄積して硬化し、砥石に似て茎でものを研ぐことができることから、砥草と呼ばれている。「木賊刈る」は、秋の季語。

ながきや うめこ

長木谷 梅子 歌碑 (昭和62年7月30日建立、本輪西町3丁目本輪西公園内)



五六年 姿見せさりし 赤けらの
今日は二羽来て 木立を叩く

明治34年(1901)、伊達市に生まれ、同43年に室蘭に転居しました。

昭和21年(1946)から本格的に作家活動に入り、岡本高樹に師事しました。

昭和27年(1952)、岡本高樹主宰の歌誌『いぶり路』創刊に参加し、高樹亡きあとは、その編集発行人

として、同37年(1962)から同誌が100号で廃刊する同39年まで、その任に当たりました。昭和41年(1966)むろらん歌会を結成、短歌誌『月間むろらん』を編集・発刊。

昭和49年(1974)、随筆集『ちいさな足跡』を、同58年(1983)に歌集『面影』を発行。昭和53年(1978)には、室蘭文化連盟から功労賞を受け、同60年には室蘭市教育文化功労賞も受賞しています。平成8年(1996)12月、94歳で亡くなりました。

碑は、この功績を称え、本輪西町会や室蘭短歌会が中心となって、木々の緑、小鳥の鳴き声が聞こえる本輪西公園内に建てられました。長木谷さんの自宅の庭にあった縦1.2m、横1.9mの石の中央の石板に、直筆で歌が刻まれています。

岡本高樹 (1903-1960、兵庫県出身) 室蘭工業大学工業専門学校の助教授、歌人。同人誌「潮音」を主催。

くどう せんじ

工藤 仙二 歌碑 (昭和41年4月19日建立、ホームストア港北店裏ふれあい公園内)

大正5年(1916)、炭坑病院長の次男として夕張市で生まれ、翌年室蘭に移ります。室蘭商業学校在学中に並木凡平が普及させた口語短歌の魅力に取りつかれ、工藤緑雨のペンネームで新聞に投稿するなど、歌作りに励みました。

昭和10年(1935)、小樽に凡平を訪ね、歌作りの意欲の高まる中で、同12年、口語歌誌『炭かすの街』を泉孝らと創刊。師と仰いだ並木凡平が、昭和16年(1941)に亡くなり、凡平の遺骨は長いこと常盤町の本教寺に安置されていました。

復員してきた仙二は、師の命日が来ると欠かさずお寺参りをして供養を続け、同32年、泉孝ら『炭かすの街』同人たちと凡平の17回忌を本教寺で執り行いました。それを契機に凡平の遺骨は、遺児の悦子に抱かれ、亡き妻キヨの待つ小樽へ帰ったのでした。

室蘭文芸界の発展に尽くした功績が認められ、昭和51年(1976)に室蘭文化連盟から功労賞が贈られています。翌52年、心筋梗塞のため60歳で急逝。その後、同60年遺歌集『工藤仙二歌集』が発行されています。

碑は、住んでいた新日鐵港北町社宅の庭から掘り出した石に、自分自身でタガネを振り1年がかりで歌を刻み上げたものです。当初は、自宅の庭にひっそりと建てるつもりでしたが、近所の人の要請で港北町ホームストア前に建立。その後社宅街撤去により、港北郵便局横の空き地に仮移設。

そして、平成2年(1990)の秋に関係者の尽力により、現在地のホームストア港北店裏のふれあい公園内に移設されました。句碑に刻まれた「愛の鐘」とは、当時の社宅街に自治会によって設置されていたスピーカーから、朝と夕方に流された鐘の音です。



愛の鐘 朝な夕なを
鳴りわたる
鐘にくらしを
あわす人たち

やまぐち せいそん

山口 青邨 句碑 (昭和34年6月14日建立、史跡 東蝦夷地南部藩陣跡モロラン陣屋跡内)

明治25年(1892)、旧南部藩の岩手県盛岡市の生まれで、本名は山口吉郎。鉱山学者、東京大学名誉教授。東京大学工学部で採鉱冶金学を専攻しましたが、同期だった芥川龍之介の影響で文学に興味を覚え、大正11年(1922)に高浜虚子が主宰する句誌『ホトトギス』に入門。山口誓子や水原秋桜子とともに東大俳句会の一員として活発な句作活動を行いました。昭和5年(1930)、俳句誌『夏草』を創刊、主宰しました。

昭和20年(1945)11月、ホトトギス系伝統俳句の拠点として、室蘭から発行された俳誌『いぶり』は、戦後北海道で発刊された文芸誌第1号です。創刊当初、『いぶり』の雑詠欄の選者は、旭川の石田雨圃子(いしだうほし)でしたが、昭和24年2月号から青邨が選者となり、それが縁で同34年までに4回来蘭しています。

幌萌の山から運んだ高さ1m、幅2.3mの句碑には、昭和33年に来蘭の際、南部陣屋史跡吟行の折りに詠んだ青邨自筆の句が刻み込まれています。この句碑は、いぶり吟社が中心となり、昭和34年に青邨が選者になり10年経たのを記念して建立しました。

南部藩士末裔の青邨の句碑が、この地に建つのも、歴史の奇縁といえます。昭和63年(1988)12月、96歳で亡くなりました。

芥川龍之介 (1903-1933、東京市出身) 作家。

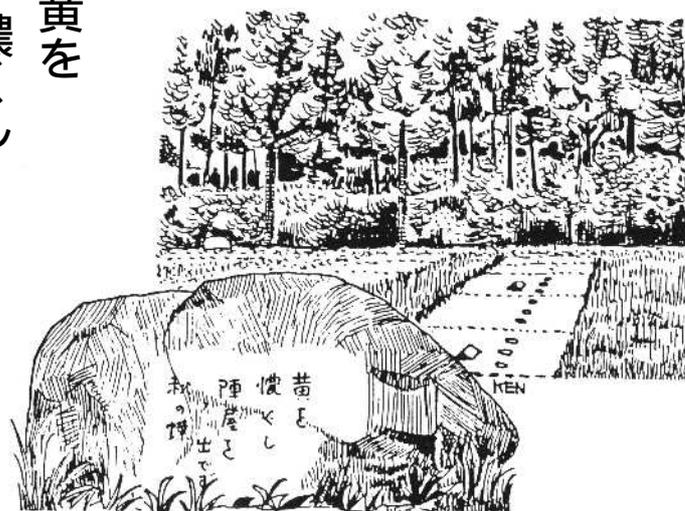
高浜虚子 (1874-1959、愛媛県出身 本名 高濱清) 俳人・小説家。句誌「ホトトギス」を主宰、ホトトギスの理念となる「客観写生」「花鳥諷詠」を提唱したことで知られる。

山口誓子 (1901-1994、京都府出身、本名 山口新比古) 俳人。高浜虚子に師事し、東大俳句会に参加、東京大学法学部卒業。

水原秋桜子 (1892-1981、東京市出身、本名 水原豊) 俳人。医師、医学博士。松根東洋城、高浜虚子に師事。

石田雨圃子 (1884-1952、富山県出身、本名 石田慶封) 旭川慶誠寺二代目住職。早稲田大学文科卒業、高浜虚子に師事。

黄を
濃くし
陣屋を
出でず
秋の蝶

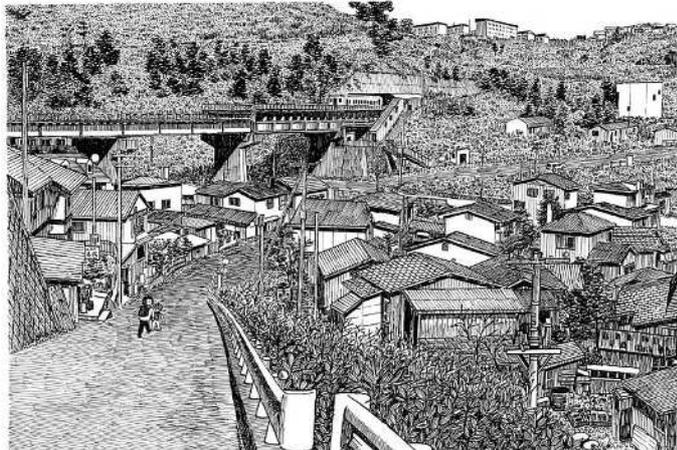


11. 室蘭の坂

港を囲むように高台で形成されている室蘭市には至る所に坂が存在し、生活と密接に関係しています。そして、室蘭という名前も坂が語源で、史実や地域で起こった出来事などが「坂」の名前の由来になっていて、普段、何気なく通っている坂に室蘭の史実を垣間見ることが出来ます。また、室蘭を舞台にした小説や随筆などの文学作品にも「坂」が登場し、情緒豊かな景観ゆえに近年はテレビや映画の撮影などにも使われ、訪れる人も増えています。

室蘭の地名の由来も「坂」 ムロラン地名発祥の坂と室蘭村 (崎守町、仙海寺前の坂、標識有り)

室蘭の語源は、アイヌ語の「モ・ルエラニ(小さな・下り路)」から転化したものです。モロランと呼ばれていた崎守地区は、幌別から山越えをして虻田方面に通じる要衝の地として幕府直轄の会所や通行屋が設けられ、荷物を宿場から宿場まで送り届ける駅遞や旅人宿、商店などが建ち並び、明治維新当時、室蘭村はこの地方最大の賑わいを見せるようになり、その地が「モロラン村」と呼ばれていたため、現在の「室蘭」となりました。



しかし、明治5年(1872)、現在の緑町(トキカラモイ)に港が開かれ、新室蘭と命名されると、開拓の拠点には白鳥湾対岸の旧札幌通(現在の中央町の中央通線とヤマコしらかわ米店前~道道祝津西小路中央線との交差点付近)周辺に移り、崎守地区は「元室蘭(後の本室蘭)」と呼ばれました。

・「モロラン村」と呼ばれていた創成期に、陸路の難所についた名は 七十二坂とも七段坂とも (上り下りを繰り返す国道37号黄金から知利別までの陸路)

モロラン村が交通の要路として発展した頃、有珠から室蘭、室蘭から幌別までは一日がかりでした。そこから国鉄線路に沿うように丘を上がって陣屋に下り、浄水場付近を上がって山を登ります。そして八丁平に出て知利別に下るこの上り下りの激しい陸路の難所を当時の人々は、七十二坂または七段坂と呼びならわしました。

「石垣」は当時の繁栄の証し 問屋の坂(産物の坂) (海岸町、日本一の坂から200m祝津寄り、標識有り)

明治25年(1892)、輪西~岩見沢間に北海道炭礦鉄道会社(以下北炭)により鉄道が敷かれると、室蘭は石炭積出港として大きく発展しました。北炭の石炭荷役を一手に請け負ったのが佐々木商店(ヤママルイチ)の佐々木市造。その繁栄ぶりは城壁にも似た石垣(一部改修)が物語っています。

明治39年(1906)、有珠の石を運び、京都から石垣職人を連れてきて作らせたもので、一度組上げてから縁起が悪いと全部崩して組み直したそうです。今はありませんが、石垣の上には、敷地500坪にくぎを一本も使わない宮造りの平屋建ての豪邸と厩(うまや)がありました。明治31年(1898)に海産物卸問屋の室蘭産物会社(道道室蘭港線沿い、問屋の坂手前の3件目辺り)が創業されると、その石垣のある坂は人であふれ、「問屋の坂」または「産物の坂」と呼ばれるようになりました。

石炭産業最盛期のころの港は、まだ明けそめぬ星空の帳を破るように、石炭列車が夕張から到着し、入江埠頭に数百輛の「セキ」印の貨車が止まっていました。その先には貯炭場の山と、うなるトランスポーターがあり、岸壁では荷揚げ人夫がパイスケ(竹製の運搬具)を肩に調子を取りながら歩み板を渡って斛(はしけ)を往復していました。

文学作品に登場する坂 バクチェンホ 朴重鎬『会期』より

「坂は約百メートルの距離だ。けっこうな勾配なので、爪先に重心を取って歩かないと、足払いをかけられたときのように、背中から叩きつけられることがある。坂道の片側は石垣になっていて、風雪に耐えた黒々とした荒削りの四角い石の層が坂を降り切ったところでは、十メートルを越す高さになっている。」

西小路の坂 (西小路町にある勾配率23%の急坂、昔は「丹波の沢」とも呼ばれていた)

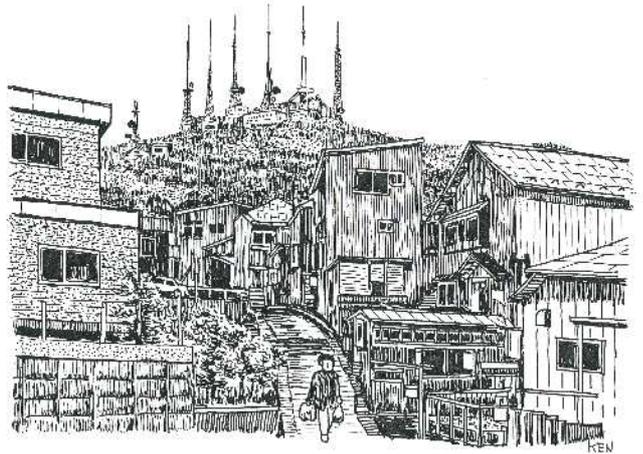
測量山に通じる坂。芥川賞作家八木義徳の小説『海明け』の舞台となっています。この付近で、八木自身が3歳まで乳母に育てられました。(文学碑...46ページ参照)

文学作品に登場する坂

八木義徳『海明け』より

「午前五時半、江川史郎は家を出た。北国の冬の夜明けは遅い。空はまだ黒い夜の色だが、大地にはほの白い雪明りがある。昨夜はまたかなりの量の雪がふったから、けさの雪は新雪だ。」

史郎は中学の制服に黒いマント、それにゴムの長靴という恰好で、西小路の坂をゆっくり下って行った。この坂道にはまだひとりも人影がない。両側に軒を並べた家々は、どこもみな戸をとざして、ひっそりと寝静まっている。」



「この道南の室蘭市でも西小路という町は一風変わった町だ。」

幅三間ほどの坂道をはさんで、東側はすこし小高い丘陵地帯になり、そこには警察署長や税関署長の官舎、その上の方には汽船会社やドック会社の高級社員の社宅、さらにその上の方には東京や札幌に本店をもつ大手銀行の課長クラスなどの住む社宅が、それぞれ高い坂塀で仕切られて特殊な一角をかたちづけている。

その反対の西側はゆるい傾斜地帯になって、そこにはほとんど港湾関係の労働者ばかりの住む貧しい長屋が、塀も仕切りもない裸のまま、軒をつらねている。

いってみれば、この西小路という町は一本の坂道をはさんで、その東側には陽の当たるひとたちが住み、その西側には陽の当たらぬ者たちがいやに鮮明な対照として住んでいる、ということになる。」

意外な事実から名付けられた

日本一の坂 (海岸町、旧室蘭駅舎向かいの室蘭釣具店横の小路、標識有り)

旧室蘭駅舎向かいにある釣具店横の小路の坂です。初めて耳にする時、何が「日本一」なのか気になる名前ですが、意外な事実から名付けられました。

名前から推し量ると、さぞかし大きな坂と思われそうですが、名前の由来は、「福井庵日本一」というそば屋がこの辺りで開店していたことに始まります。

明治36年(1901)、このそば屋の主人は、小樽で殺人を犯して室蘭に流れてきた偽名を名乗るお尋ね者でした。ある日、夫婦げんかが高じて、妻が“人殺し”と口走ってしまい、折も折、別の事件で刑事がこのそば屋を訪れるようになっていた矢先のことでした。てっきり小樽での殺人がばれたと早合点した男は、日夜苦悩のあげく、とうとうピストル自殺してしまいました。事件に衝撃を受けた町の人々が、流れ者の末路を教訓として、この坂を日本一と名付けたといわれています。

文学作品に登場する坂 八木義徳『帰郷』より

「十七年ぶりの帰郷だった。私は室蘭駅の改札口を抜け出ると、町の高台にある八幡神社をめざして、まっすぐに歩き出した。それは私の意志というよりは、脚自身が勝手にその方向へ向かって歩き出したというに近かった。何か眼に見えぬものに曳かれて行く。そんな感じだった。駅前から坂を一つ登って泉町の通りへ出る。その通りに面して高く立った石造りの鳥居をくぐり、そこから傾斜のかなり急な八十段ほどの石の階段を一段ずつゆっくり登った。」

急こう配の階段に付いた名は

八幡坂(はちまんざか) (海岸町)

道路(道道室蘭港線)を挟み、旧室蘭駅舎の向かい側にある幅6m・57段の急こう配の階段の名前です。階段を上りきった道路の向かい側には、八幡神社鳥居と神社に至る階段がさらに続きます。駅向かいのこの場所には、もともとは問屋街があり、先の戦争のときに「駅前には爆撃の対象になるから」と建物の強制疎開がありました。立ち退いた問屋の倉庫内にあったジクザクの階段のみが残され、通行に利用されていました。

昭和32年(1957)に旧産業会館(平成26年解体、現在は公園)が建築されたとき、幅1mほどの階段に新設。室蘭駅への往来に利用する通行人などが多いため、昭和36年5月、さらに整備され、この階段を呼びならわした八幡坂が路線名となりました。階段上からは、間近に旧室蘭駅舎の全景と背後に室蘭港が見渡せます。(室蘭八幡宮...56ページ、旧室蘭駅舎...65ページ参照)

遊郭街の面影はなく

幕西の坂(幕西坂) (幕西町)

幕西の語源は、アイヌ語「マクン・ニウシ」で、「後方の・森林(知里真志保の訳による)」の意味です。「ニウシ」には「木・群生している・ところ」の意味もあります。

その昔は名だたる遊郭街で、明治5年(1872)の札幌本道工事に従事した数千人の荒くれ男が、始終この場所に通い、殴り合いの喧嘩が絶えず、幕西坂は“人殺し坂”と異名をとるほどでした。幕西游郭は、同25年(1892)北海道庁の告示により、老名牛(おいなうし:現在の追直)に移転することになったのですが、老名牛住民が「コンブの干し場がなくなるし、風紀上好ましくない」と猛反対して中止になりました。

同28年(1895)に、幕西を遊郭区域に指定し、札幌通沿いに点在していた料亭や貸座敷が集約され「幕西游郭」が誕生しました。最盛期の同42年(1909)、当時の室蘭町内には、幕西游郭を中心に、料理店78件、貸座敷13件がひしめき、結局終戦後の公娼制度廃止まで続きました。

現在の幕西の坂は落ち着いた住宅街に生まれ変わり、その当時の風情はほとんどありません。

難工事の犠牲者を思う

仏坂(ほとけざか) (NHK室蘭放送局前)

明治5年(1872)4月に始まった、室蘭の夜明けを告げる室蘭 - 札幌間の札幌本道開削工事は、わずか1年3カ月のスピード工事によって完成をみました。この工事は度重なるコースの変更や切り下げが行われた難所で、明治40年創業の日本製鋼所の開設に伴う工事と相まって、犠牲となった人夫も多く、この工事場付近に一時仮埋葬されたため、だれ言うとなくこの坂に名付けられたのが「仏坂」でした。当時は両側に木が茂り、昼間でもさびしいところで、夜間の人通りは全くなかったそうです。「行こか幕西、帰るか母恋、ここが思案の仏坂」という歌がありましたが、これは、母恋の社宅に住む日鋼社員が自宅に帰ろうか、遊郭街のある幕西に行こうかと、鬼気せまる仏坂の手前で迷う姿を冷やかしたものです。

明治43年(1908)、工事の犠牲者と日鋼工場建設の犠牲者の慰霊の為、仏坂を見下ろす丘に仏坂招魂碑(39ページ参照)が建てられました。昭和7年(1932)の町会長会議で、前年に市役所が新庁舎(現在のNHK室蘭放送局)に移転したため、「市役所通り」と改められたこともありましたが今なお「仏坂」の名で呼ばれています。

森に響いたラッパの轟き

ラッパ森 (母恋駅から御崎町へ向かう坂を上る小高い丘)

明治5年の札幌本道開削工事で働く人々には粗暴な人が多く、その中でも腕力の強いものが勢力を持ち、普通のやり方では統率できませんでした。従って、組頭は、作業中の帯刀を許され、その中にはいつも抜き身の日本刀をぶら下げながら巡回していた人もいました。

さて、このラッパ森の地名の由来には、いくつかの説があります。一つは「この辺りはうっ

そうとした森で、官吏が作業員の合図にラッパを吹いて全体の指揮をとっていた」という説と「工事監督をしていた長州藩士の森さんという人が、柳の木の皮で作ったラッパで作業員の指揮をしていた」また「この辺りには熊が出ていたので、ここを通るときにラッパを吹いたから」という説もあります。いずれかは定かではありませんが、このラッパの音が新室蘭時代の幕開けを高らかに告げたことは確かです。

名前の由来は英雄の死から

牛太郎坂(ぎゅうたろうざか) (中島本町、中島スポーツセンター裏手、標識有り)

中島スポーツセンターの裏手にあり、国道37号線に通じている坂です。

明治の開拓期に川村丑太郎という人が、登別で宿屋を営みながら多くの馬を飼っていました。明治10年(1877)7月2日、所用で崎守町に出掛けた帰り道、夜道の悪路に足を取られたのか、知利別川の下流で水死しているのを発見され、この坂道で検死を受けました。そして、いつしかこの辺り一帯の地名になり、大正9年(1920)当時の輪西村の古地図には、旧日新小学校から山の手側に数百メートル入った一帯の畑や原野を「字牛太郎」と表記されています。また、沢町の満岡寺には、丑太郎の過去帳が今でも残っています。

かつて丑太郎は、ヒグマと死闘を演じた際、片目をむしり取られながらも、九死に一生を得た剛の者でした。熊を相手に闘った当時の英雄のあっけない死を聞いた住民は、その変死に驚きとショックを受け、その名を取ってこの地を牛太郎坂(丑牛)と名付け、現在は市道の名前「牛太郎坂通線」にもなっています。坂は一般的に「ぎゅうたろう坂」と呼ばれていますが、地元中島本町では「うしたろう坂」と呼ぶ人も多いそうです。

－ 他にもある 名前の付いた坂 －

・東小路の坂 または 丸井さんの坂 (丸井坂) (中央町、看板あり)

明治14年(1881)まで、西小路町との対で東小路町があり、その町の坂だったことから「東小路の坂」と呼ばれていました。また、大町(現 中央町)の旧丸井今井デパート(現 室蘭プリンスホテル)前にあるこの坂から旧室蘭駅までは、かつては多くの買い物客で賑わったため通称「丸井さんの坂」とも呼ばれました。現在はありませんが、室蘭プリンスホテルから向かって左角には、大正15年(1926)に改装・新築を重ねた三件目の店舗は正面を東京の虎屋に似せた菓子店「東陽軒」が平成13年秋まで営業していました。そのはず向いの坂下の角には、道内で三番目、室蘭で最初に開館した、芥川賞作家 三浦清宏の生家でもある小林写真館がありました。

現在は、「ノックスビル通り」と名付けられています。(ノックスビル通り...96ページ参照)

・栗林の坂 (本宅の坂) (常盤町)

測量山に向かって小公園から文化センターの右側の坂です。かつて旧家が立ち並び、坂を上った突き当り正面には、(株)栗林商会を創業した栗林五朔が宮大工を呼び寄せ建てた蕙山苑があります(「栗林本宅」とも呼ばれていました)。(蕙山苑...82ページ参照)

現在の文化センターの場所には、かつて常盤小学校が建っていたため、「常盤の坂」とも呼ばれていました。

・ウスイの坂 (水汲道) (海岸町)

測量山からの伏流水による良質の湧き水をくむために、人々が利用した小さな坂です。「ウスイ」とは、この坂の横にあったウス呉服店(のちにウス呉ストアール)のことです。

・病院坂 (常盤町と中央町の境にある測量山に至る坂)

中央町の富留屋菓子店前の坂を挟んで真向かいに、昭和26年(1951)から平成9年(1997)まで、市立室蘭総合病院(現在は山手町に移転)が建っていたため、このように呼ばれていました。(市立室蘭総合病院...70ページ参照)

12. 神 社

市内にはおよそ31あり、ここでは開拓使時代からの5つの神社を取り上げました。(室蘭市内の神社および不動尊の祭りの数々...96ページ参照)

絵鞆神社 (絵鞆町)

弘化元年(1845)に、当時の絵鞆場所請負人の岡田半兵衛が、絵鞆に漁場の出張りを設けた際に航海の安全と事業の発展を祈願するため、絵鞆近くの二つの小島に大黒・恵比寿の両神と陸には稻荷大明神の三神を祀ったのに始まるという説があります。これ以降、大黒島、恵比須島と呼ばれるようになりましたが、風当たりが強く社の保持が難しいため僅か1年で崎守神社に遷されました。

明治26年(1893)、現在地に社殿を建設して稻荷大明神を祀り、同30年崎守神社に一時遷座していた大黒・恵比寿両島の神体を同社に合祀(ごうし)しました。祭神は豊漁にちなんだ大国主命(おおくにぬしのみこと)、事代主命(ことしろぬしのみこと)、保食神(うけもちのかみ)です。

室蘭八幡宮 (海岸町)

明治元年(1868)旧暦8月15日に、室蘭群支配総鎮守神社として函館八幡宮より分霊を受けて今の崎守神社に創立し、新室蘭(現 蘭西地域)に町の中心が移ったことにより鎮守様が必要と、明治7年から8年にかけて、崎守町にあった崎守神社を遷座(せんざ)したものです。八幡大神とともに琴平神(ことひらのかみ)と保食神が合祀されています。

当時、神社の造営に当たり市民からの寄付を予定しましたが、思うように集まらなかったため、同年、港にクジラが漂っていたのを漁民が捕獲し、北海道開拓使に買い上げを願い出て、このクジラを売った代価(当時の140円)を造営費用(当時の300円)に充てたことから、別名「鯨八幡」とも呼ばれるようになりました。

開拓使の記録には、このクジラは「目の下丈(たけ)六尋(ひろ)(約10.8m)で胴まわり四尋(ひろ)(約7.2m)あり、左腹背から尾にかけて四分の一が鯨(しゃち)に食いちぎられていた」と記されています。(文化財・鯨神の舞...36ページ参照、文学碑・幸能舎守雄歌碑...45ページ参照)

中嶋神社 (中島町)

中嶋神社の前身は、室蘭屯田兵中隊の屯田兵(開拓と兵務を兼ねた人達)が入植した輪西村(現在の輪西町から本輪西町にかけての広い一帯をいう)鎮守のため、明治23年(1890)、兵村のほぼ中心にあたる翔陽中学校西側の小山(輪西町と東町の間、新日鐵住金球場の裏山)の上に建てた兵村社(やしる)「圓山(まるやま)神社」です。

明治30年(1897)、中隊本部が第七師団司令部(旭川)に吸収移管されたのを機に中隊本部があった中島台(現在地)に移転し、中嶋神社と改称しました。

はたもり 幡守神社 (石川町)

石川邦光を藩主とする仙台伊達藩角田支藩が石川町一帯に開拓団として入植し、石川家の惣神だった幡守神社をその守り神として、明治7年(1874)に建立したといわれています。八幡神社と同じ年に建てられ、明治34年(1901)には、故郷の角田幡守神社から社名公称の許可を得て、室蘭では崎守神社や絵鞆神社に次いで歴史のある神社です。祭典は、農閑期を利用した9月初旬に行われています。

崎守神社 (崎守町)

室蘭発祥の地、崎守町の鎮守である崎守神社は、今から170年ほど前の天保10年(1839)ころに建てられ、市内最古とされています。しかし、一方では、嘉永2年(1849)という説もあり、これが正しいとすると、弘化元年(1844)に建てられた絵鞆神社が市内最古になります。いずれにしても、当時のムロラン(現在の崎守町)は、東蝦夷地の交通の要路として、この地方最大の集落を形成し、多くの人たちの心のよりどころだったのでしょう。

崎守とは防人(さきもり=都から遠く離れた土地を守る)と同じ意味で、南部陣屋の出張台場がこの地にあった明治元年(1868)のころから崎守神社と呼ばれていたようです。

13 . シンボル彫刻像 (入江運動公園プロムナード内 14点)

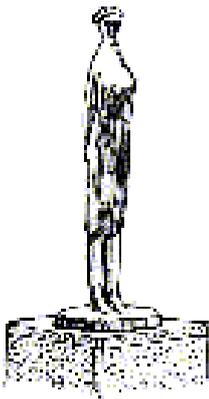
「室蘭にシンボルを創る市民の会」が、市民一人一人の夢と希望を託して、道内の著名な彫刻家14人に1点ずつ、室蘭の「過去・現在・未来」をイメージして制作していただいた14点のシンボル彫刻像を入江運動公園内に設置しました。

平成元年(1989)8月に完成したこれらの彫刻像は、市民をはじめ道内外のたくさんの方々の寄付によって制作されました。これだけ多くの作品が一堂に設置されているのは、道内でも珍しく、芸術の薫り豊かな「シンボル彫刻像プロムナード」は、マチのシンボルとして、多くの市民に親しまれています。

・拓(たく) 開き、広げる 佐藤範夫 作(旭川市)

若い女性の立像。大地を力強く踏みしめ、遠く太平洋を見つめ、荒波に向かって立つ。内に秘めた女性のたくましさ、優しさ、厳しい自然に耐えた北海道の女性。

ブロンズ製、高さ 1.7m、幅 1.2m



・萌(ほう) めばえ、誕生 斎藤一明 作(釧路市)

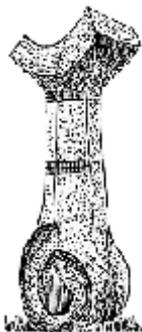
いま萌え出る室蘭の若さと、みずみずしさを表出するため、動きをセーブした飾らぬ立像の中にその思いを込めた。

ブロンズ製、高さ 1.5m、幅 0.6m

・遣(しょう) しょう遙する 熊谷紀子 作(伊達市)

人々が公園を散策中に、ふっと立ち止まると心安らぐ作品にぶつかるようにとの意図で制作。若い女性の姿を借り、ゆったりとした優しさの中に力強さを表現。

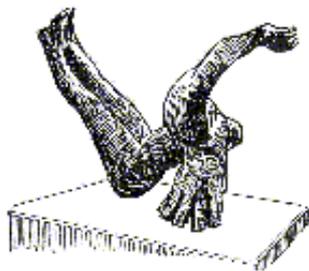
ブロンズ製、高さ 2.3m、幅 1.0m



・連(れん) つらなり結ぶ 丸山 隆 作(札幌市)

鉄のイオンが漂う、鼓動する町は生物のよう。その生物の神経、その連なりを形にした。ニューロンとシナプスは、工学的構造のスパナやレンチなどの工具と酷似している。また、汽車の動輪を動かすロッドと重なってゆき、その構造を力強くシンプルに造形。

御影石製、高さ 3.7m、幅 1.2m



・燦(さん) 照り輝く 二部 黎 作(小樽市)

あらゆる存在は、愛によって結ばれている。私もまた宇宙の子どもだから、空と海と山と命をつなく、そのためにのみ創る。一つの物は命に育ち、一つの命は、存在の領域に踏み入って永遠に旅し続ける。

ブロンズ製、高さ 1.6m、幅 1.8m

・焰(えん) 力強く燃える 板津邦夫 作(旭川市)

力強く燃える炎を、そして室蘭の活性化をイメージ。太平洋より室蘭港を吹き抜ける風を受け止めるようイメージして制作。

ブロンズ製、高さ 1.4m、幅 1.4m



・溶(よう) 熱せられ、溶け合う 高橋昭一 作(札幌市)

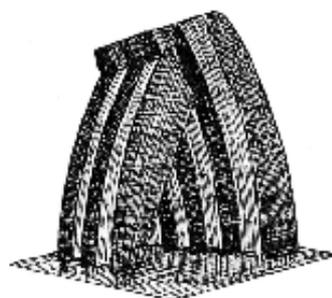
人間は一人で居るから孤独であるといえない。二人でいても孤独は孤独。だが、一人よりも二人の孤独が結び合った時、そこに何か生まれる。二人という人物を結び立てたい気持ちに誘われた。

コルテン鋼製、高さ 1.7m、幅 0.6m

・沃(よく) 若く、みずみずしい 中江紀洋 作(釧路市)

大地プラス開拓のツチ音のイメージから、地中のエネルギーの放出(自然)と地上のエネルギー(人間)との闘い、共存、開拓のイメージを具現化。

コルテン鋼製、高さ 3m、幅 3m



・翔(しょう) 未来への羽ばたき 本田明二 作(札幌市)

室蘭市の未来への躍進を表現。母に抱かれる子は、大地にしっかりと根をおろし、未来を育てていく。4月に初めて室蘭を訪れ、とても美しい海岸線に驚かされた。

ブロンズ製、高さ 1.2m、幅 0.5m

・黎(れい) れい明、夜明け 米坂ヒデノリ 作(夕張郡栗山町)

作品のコルテン鋼部分は、万里の波涛^{はとう}を象徴。ブロンズ像部分は、室蘭に生きる人々が未来に向かって旅立つ姿を象徴している。

ブロンズとコルテン鋼製、高さ 3.7m、幅 1.3m



・浪(ろう) うねりを越えて進む 小石 巧 作(江別市)

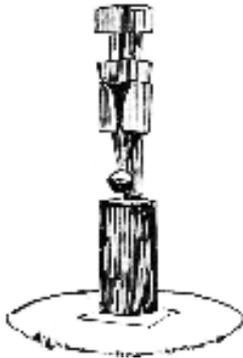
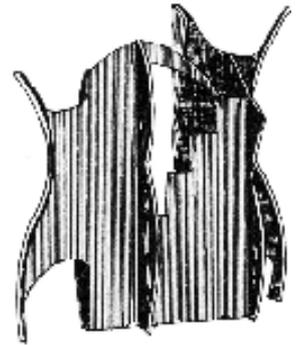
遠く海を見つめるという感覚は、同時にはらかな未来、遠い将来を見つめることにも通じる。手を現したのは、人間そのものの気持ちの表現。室蘭の自然の雄大さに負けない、力強い作品をと制作。

ブロンズ製、高さ 2.8m、幅 0.6m

・煌(こう) ひかり、輝く 国松明日香 作(札幌市)

豊かな自然に囲まれた近代工業都市「室蘭」のイメージを反映。像の階段部分は都市の躍進、周りの曲線を炎のように燃え上がるイメージにしたが、それを息づく人間とみてもいい。

コルテン鋼製、高さ 3.5m、幅 3.0m



・歓(かん) 新生への歓喜 砂澤ビッキ 作(中川郡音威子府村)

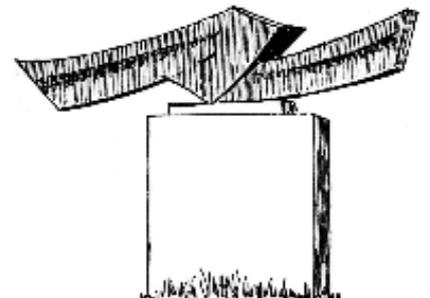
鉄のまち室蘭。その練り上げられた鉄の中に木の枝が出たり、葉が繁り、花が咲く。鉄の中に樹を求めるもの。室蘭と海と空というものを意識。

アルミ合金製、高さ 2.7m、幅 1.0m

・煥(かん) 四方に、光り輝く 高橋昭五郎 作(室蘭市)

港室蘭(鉄の町) - 敗戦 - 復興と経過してきたが、その時々未来を見据えた上での現在感を生かさねばならない。室蘭という狭い範囲にとどまらない世界、無限の広がり輝きを込めた。

コルテン鋼製、高さ 1.3m、幅 5.2 m



14. さわやかトイレ

市では、これまでの臭い、汚いといった悪評を打ち破り、明るく、さわやかなトイレづくりに取り組み、外観だけでなく「きれいなトイレ」「安心なトイレ」「快適なトイレ」「景色の中のトイレ」を目指して造ってきました。

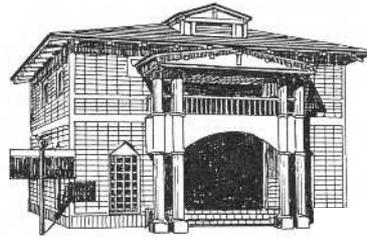
昭和62年7月に完成し、「全国グッドトイレ10」に道内から初めて入選した、入江運動公園東トイレ(愛称：室蘭公会堂トイレ)を手始めに、平成18年まで44のさわやかトイレが完成しています。

入江運動公園内の3カ所(下記1、4、5)のトイレは、かつて、市内に現存していた開拓期を象徴する歴史的建物をテーマに、単なる施設としてばかりではなく、マチのイメージやマチづくりとしてのトイレづくりを考えて造られ、それぞれに工夫を凝らした個性的なデザインは、従来の公共施設に対するイメージを大きく変えました。

これまでに完成したトイレ	完成年月
1. 室蘭公会堂トイレ(入江運動公園東)	昭和62年 7月
2. 虹のトイレ(白鳥湾展望台)	昭和62年12月
3. ペンション風トイレ(地球岬緑地)	昭和63年 3月
4. 高架棧橋トイレ(入江運動公園北)	昭和63年 8月
5. 秋田屋電気鍋店トイレ(入江運動公園南)	平成元年 3月
6. ログハウストイレ(室蘭岳山麓自由広場)	平成元年 7月
7. サンクチュアリトイレ(測量山緑地唐松平)	平成2年11月
8. まきばのトイレ(室蘭岳山麓内)	平成2年12月
9. 夢の蔵トイレ(本輪西公園)	平成3年11月
10. ミニハウストイレ(高砂3丁目公園)	平成3年12月
11. 松の茶屋トイレ(水元うぐいす公園)	平成3年12月
12. とんがり帽子のトイレ(マスイチ展望広場)	平成3年12月
13. こいかくしトイレ(港北ふれあい公園)	平成3年12月
14. シーサイドトイレ(絵鞆臨海公園)	平成4年 1月
15. 絵鞆地区親水緑地トイレ	平成4年 1月
16. 絵鞆小型船だまりトイレ	平成4年 7月
17. 東町5丁目公園トイレ	平成4年11月
18. 白鳥台4丁目公園トイレ	平成4年12月
19. 絵鞆岬トイレ	平成4年12月
20. 港北1丁目公園トイレ	平成5年10月
21. 水元せせらぎ公園トイレ	平成5年10月
22. 陣屋1号公園トイレ	平成5年12月
23. 室蘭岳山麓トイレ(スポーツ施設横)	平成5年12月
24. 中島公園東トイレ	平成6年11月
25. 中島公園南トイレ	平成6年11月
26. 白鳥大橋展望広場公園トイレ(祝津1丁目)	平成7年11月
27. 祝津公園トイレ(テニスコート横)	平成8年10月
28. 向陽公園トイレ	平成8年10月
29. 潮見公園展望広場トイレ	平成9年12月
30. 母恋公園トイレ	平成10年 9月
31. 八丁平北公園トイレ	平成10年10月
32. 母恋南町公園トイレ	平成11年 9月
33. 御前水公園トイレ	平成11年11月
34. 少年野球場トイレ	平成12年 3月
35. 八丁平南公園トイレ	平成12年10月
36. 栄町公園トイレ	平成12年11月
37. 輪西公園トイレ	平成13年10月
38. 弥生公園トイレ	平成13年10月
39. 港北公園トイレ	平成13年11月
40. ふるさとの森21公園トイレ(御前水3丁目)	平成14年 3月
41. レインボー公園トイレ(中央町4丁目)	平成14年 7月
42. 八丁平2号公園トイレ	平成15年10月
43. 白鳥台北公園トイレ(西側)	平成18年11月
44. 白鳥台北公園トイレ(東側)	平成18年12月

室蘭さわやかトイレ案内

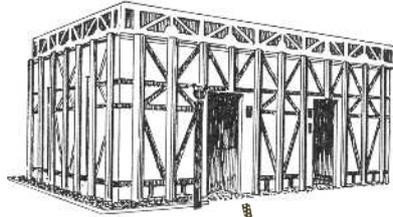
1. 室蘭公会堂トイレ
(入江運動公園東)



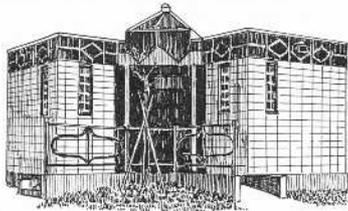
5. 秋田屋電気鍋店トイレ



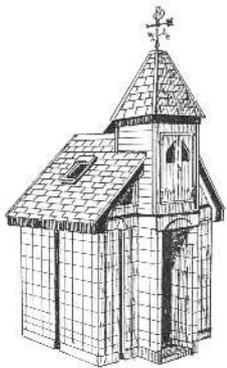
4. 高架栈橋トイレ
(入江運動公園北)



14. シーサイドトイレ
(絵鞆臨海公園)



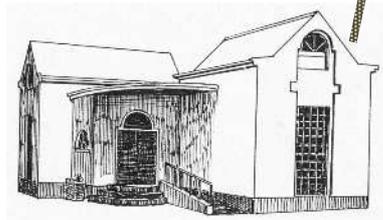
19. 絵鞆岬トイレ



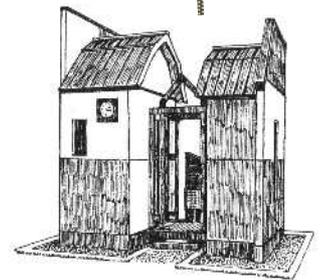
12. とんがり帽子のトイレ
(マスイチ展望広場)



7. サンクチュアリトイレ
(測量山緑地唐松平)



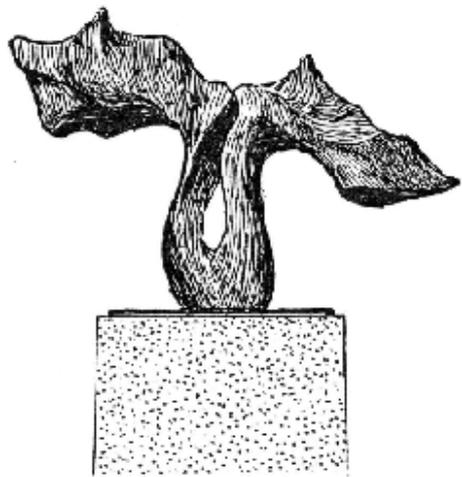
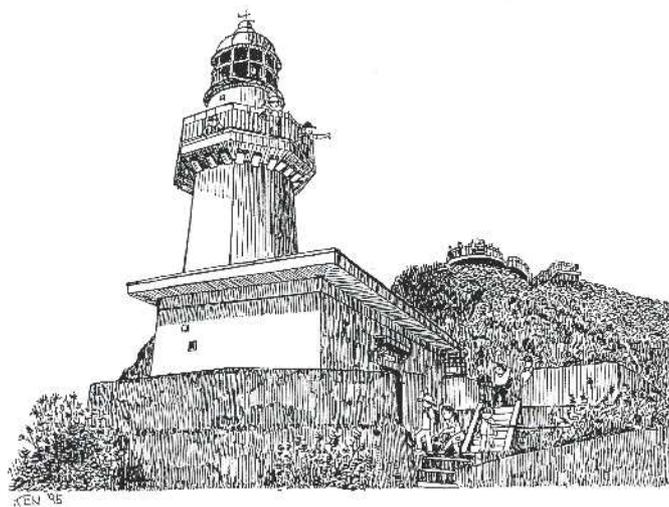
3. ペンション風トイレ
(地球岬緑地)



25. 中島公園南トイレ
(室蘭市体育館横)

町の風景

チキウ岬灯台



「はばたき」測量山山頂広場



測量山唐松平広場の街灯

15. 市内の施設（スポーツ・文化・医療・公園などの施設）

室蘭港エンルムマリーナ（絵鞆町）

平成4年(1992)4月にオープンしました。エンルムとは、アイヌ語で「突き出ている・頭」の意から「岬」を示す言葉で、一般公募により付けられた名前です。ヨットやモーターボートの収容能力は、海上で64隻、陸上で140隻です。

市民が気軽に利用できるセンターハウスは、国の民活法の適用を受けた全国で第1号の港湾交流研修施設で、世界のマリーナを紹介する展示ルームや研修ルームもあり、一般に貸し出しもしています。

開館時間 5月～10月 8時～18時（日曜日・祝日は、7時から）
11月～4月 9時～17時

休館日 木曜日(木曜日が祝日の場合は、その翌日)、12月30日～1月8日

B & G海洋センター（エンルムマリーナ横）

平成13年(2001)に(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団が、地域の海洋スポーツの普及のために建設し、同16年に市に無償譲渡されました。各種ディンギーヨット、更衣室・シャワールームがあり、多目的ホールは貸し出しもしています。ジュニアヨット教室と社会人ヨット教室が毎年開催されています。

利用時間 9時～21時（ヨット...9時～17時、11月から翌年4月は休止）

休館日 木曜日（木曜日が祝日の場合は、その翌日）、年末年始



プロビデンス号
室蘭港来航200年記念碑

絵鞆臨海公園（白鳥大橋記念館 道の駅「みたら室蘭」横）

平成6年(1994)に完成。広さは17,000㎡で、エンルムマリーナに隣接し、海水と直に触れ合える親水護岸は、子供たちに大人気です。

灯台・クジラ・熱帯魚の形をした水飲み場やヨット・カモメなどがあしらわれたフェンス、ナナカマド・ツツジ・ヒガラの絵が入ったカラーブロックなどが青い海とマッチし、休日には家族連れなどで賑わっています。

また、平成8年(1996)9月には、プロビデンス号の来航200年を記念して室蘭市、北海道、室蘭ルネッサンスなどが参加し結成された実行委員会により、この公園内に記念碑が建立されました。（プロビデンス号の来航...9ページ、プロビデンス号知ろう館...97ページ参照）

祝津公園グラウンド（祝津町）

バックネットとサッカーゴールがあり、野球やサッカーなどの競技ができます。

開設期間 5月1日～10月31日 利用時間 9時～17時

テニスコート（祝津町、高砂町、崎守町）

市内には、3カ所のテニスコートがあります。個人利用は直接コートに申し込んでください。シーズン券もあります。

・祝津公園テニスコート	4面	開設期間	4月1日～10月31日
・高砂テニスコート	9面	利用時間	9時～19時（4月と10月は17時まで、5月と9月は18時まで）
・崎守臨海公園テニスコート	2面		

室蘭水族館（白鳥大橋記念館みたら 向かい）

昭和28年(1953)4月に北海道が水産業知識の普及などを目的に設置し、6月に開館した道内で最初の水族館です。同32年(1957)文部省の認可を受け、同37年(1962)、社会教育施設として市に移管されました。

観覧室には40面の水槽があり、シンボルフィッシュのアブラボウスをはじめ、道内や本州方面に生息する珍しい魚や熱帯魚など120種、約3,300点あまりが飼育されています。クジラの骨などの標本を展示したクジラ資料コーナーがあり、平成22年(2010)に設けられたクラゲ館も人気です。

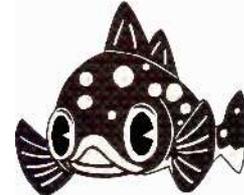
また、日本国内で初めてゴマフアザラシの繁殖に成功し、昭和47年(1972)4月、(公社)日本動物園水族館協会より繁殖賞を受賞しました。また、平成25年(2013)に国内で初めてニチリンヤナギクラゲの繁殖に成功したのに引き続き、翌年も国内初の青色ニホンザリガニの繁殖に成功しました。

観覧車や豆汽車、メリーゴーラウンドなど、各種の遊戯施設も備え、磯の生物タッチプールなどがあります。平成17年(2005)11月からは、指定管理者制度を導入し、民間の経営ノウハウを活用した施設運営が行われ、フンボルトペンギンの行進やトドのショーなども好評で、子どもたちに喜ばれています。開館期間中はさまざまな行事が行われ、同18年からは毎年連続で、年間入館者が10万人を超えています。

開館期間 4月下旬～10月中旬

利用時間 9時30分～16時30分（ゴールデンウィークと夏休み期間中は、17時まで）

水族館のシンボルフィッシュ
アブラボウス



日本で初めて、稚魚から成魚までの飼育に成功しました。

白鳥大橋記念館みたら（道の駅「みたら室蘭」、祝津町）

平成10年(1998)4月17日オープン。白鳥大橋の建設工事のあゆみや貴重な資料などを展示しているほか、室蘭港の紹介、白鳥大橋主塔からの景観を放映。また展望バルコニーからは白鳥大橋、風車、大黒島などの眺望が楽しめます。1階は174人収容のレストルームがあり、胆振の特産品や室蘭の土産品などの販売をしています。また、道の駅にも指定されています。

開館時間 9時30分～21時（11月1日から3月31日は、17時まで）（売店は、通年17時まで）

休館日 11月～3月は木曜日（木曜日が休日の場合は、その翌日）

4月～10月と12月31日～1月7日は無休

白鳥大橋パークゴルフ場（白鳥大橋記念館みたら 後方）

平成12年(2000)9月1日、白鳥大橋記念館みたらの横にオープン。36ホールコースは、間近に白鳥大橋を望み、潮風が心地よい絶好のロケーションです。子どもからお年寄りまで楽しめるコースで、18ホールのみナイター照明があります。有料で用具を貸し出ししています。

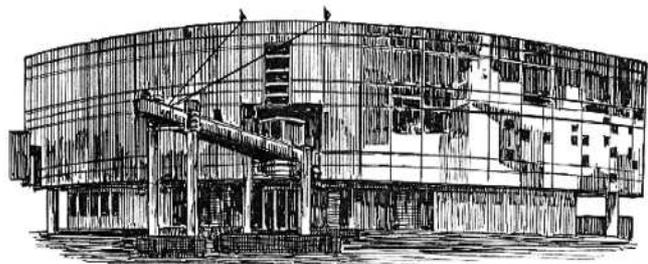
開設期間 4月21日～10月31日 利用時間 7時～21時

室蘭港フェリーターミナルビル

東日本フェリー(株)が、平成6年(1994)4月に建設。外観は、上から見ると白鳥、横から見ると帆船の形です。

平成20年(2008)11月のフェリー航路休止に伴い、同年12月に市に譲渡されました。

平成28年3月に、川崎近海汽船(株)が、宮古港と室蘭港を結ぶフェリー航路を平成30年6月に開設することが正式決定したことから、再活用に向けた改修などを行う予定です。



フェリー埠頭^{ふい}

室蘭港からは、青森港に平成20年(2008)11月まで、1日1便のフェリーが就航していました。平成30年6月からは、室蘭 - 宮古(岩手県)間でフェリー航路開設を予定しています。

中央埠頭旅客船バース

中央埠頭は、旅客船バースとして整備し、最大水深は9m、平成13年(2001)8月に使用を開始しました。客船の入港により、国内外の文化交流の場となっています。毎年大型客船が寄港し、大勢の乗客が市内や近隣の観光を楽しんでいます。

入江耐震岸壁

大規模地震が発生した場合の住民の避難や物資の緊急輸送などに使用される岸壁で、平成15年(2003)から20年3月にかけて、市街地に近接し、背後地域の幹線道路とアクセスの良い入江地区に整備されました。最大水深は、8mです。

旧室蘭駅舎(海岸町、国の登録有形文化財...34ページ)

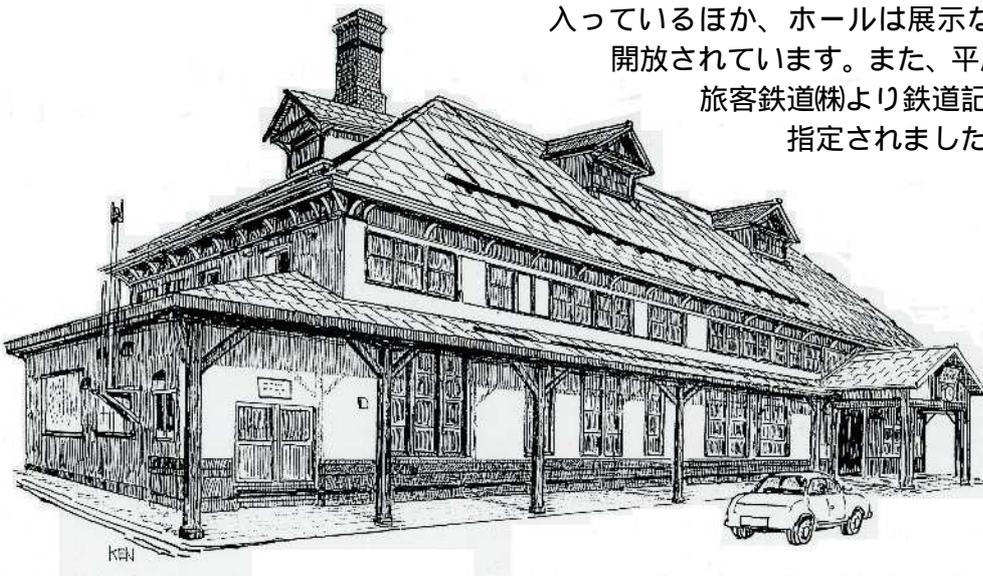
明治30年(1897)、輪西～室蘭間の鉄道完成により、仏坂下(中央町、現在の室蘭駅近く)に室蘭停車場として建設(初代)され、そののち同36年(1903)旧室蘭駅舎裏手の海岸町に移転(2代目)、同45年(1912)、現在地に新築(3代目)されました。

昭和54年、長年の風雪で傷んだ駅舎を改修しました。札幌時計台と同じく明治の洋風建築の面影を残す四方に屋根面が傾斜する寄棟造りで、緩い勾配の屋根には六つの三角破風(はふ)の屋根窓が取り付けられ、白漆喰の壁と木造部分のコントラストが美しい外観です。明治期の洋風建築のたたずまいを現在に残しています。外回りは入母屋風で「がんぎ」と呼ばれるアーケード様式になっており、それらを保存した全国でも珍しい建物です。

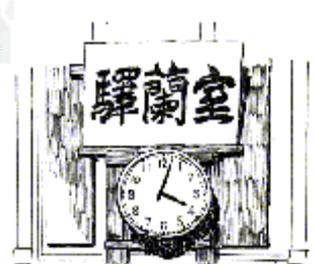
駅舎としては100年の歴史を持ち、道内駅舎の木造建築物の中では最古です。終着駅としてにぎわいを見せた旧室蘭駅舎は、平成9年(1997)に新室蘭駅(4代目)が完成し、駅としての役割を終え、翌10年に市へ譲渡されました。1年を通して、日没から24時まで、ライトアップされ、白く浮かび上がる駅舎は優美です。

平成11年には、国の有形文化財に登録。現在は、室蘭観光協会が入っているほか、ホールは展示などの会場として一般に開放されています。また、平成22年10月、JR北海道旅客鉄道(株)より鉄道記念物の準鉄道記念物に指定されました。

(室蘭駅...82ページ参照)



へんがく
入口の扁額



開館時間 8時～19時、(11月～3月は、17時まで)
休館日 1月1日

入江運動公園

昭和56年度から事業に着手したこの公園は、総面積18.1haで、第2種公認の陸上競技場、多目的運動広場、芝生広場(野外ステージ付)、子供の広場などがあり、平成6年(1994)10月には、温水プールも同公園内にオープンしました。



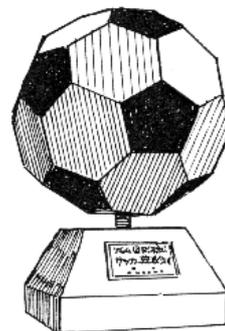
園内には、昭和62年(1987)、全国グッドトイレ10に入賞した、さわやかトイレ第一弾の「室蘭公会堂トイレ」のほか、「高架栈橋トイレ」「秋田屋電気鍋店トイレ」などがあります。また、道内の著名な彫刻家による、室蘭のシンボル彫刻像14点が並ぶ「シンボル彫刻像プロムナード」もあります。(多目的運動広場、芝生広場(野外ステージ付)の開設は、5月から11月まで)(さわやかトイレ...60ページ、シンボル彫刻像...57ページ参照)

入江運動公園陸上競技場 (入江運動公園内)

昭和63年(1988)から使用開始。トラック1周400mの全天候型トラック8コースの第2種公認陸上競技場、フィールド芝コート1面(7,314m²、69m×106m)で、各種陸上競技、サッカーなどができます。平成元年のはまなす国体では、サッカー競技の会場となりました。正面スタンドは一部屋根付きで1,000人、また、芝生スタンドは9,500人、バックスタンドには2,100人が収容できます。

開設期間 4月1日～11月30日

利用時間 9時～19時(4・10・11月は17時まで、5・9月は18時まで)



入江運動公園温水プール (入江運動公園内)

25m短水路8コースの日本水泳連盟公認の室内温水プールです。シンボルマークの「くじらん」が描かれている幼児用プール、低学年児童が大いに楽しめる児童用プール、日光が降り注ぎ明るい開放感のあるジャグジー(泡風呂)もあります。

開館時間 10時～20時

休館日 火曜日(火曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末年始

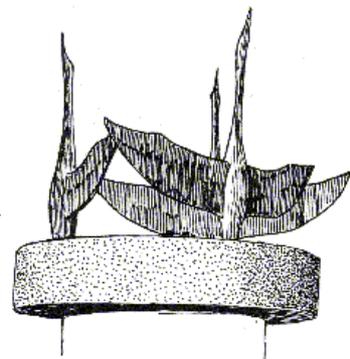
入江運動公園子供の広場 (入江運動公園内)

入江運動公園東側の約1haのスペースに、事業費1億7千万円をかけて建設されました。ちびっ子タウン、ちびっ子ファーム、水の広場冒険の山、三角の森などのプレーゾーンがあり、遊びを通して学べるように工夫されています。

入江臨海公園

港沿いにある公園で、港湾関係者の良好な労働環境の確保および地域住民と港湾との触れ合いの場になっています。ブランコや滑り台もあり、休日にはジョギングやウォーキング、散歩する親子連れなどが心地よい潮風を楽しんでおり、多くの市民に利用されています。

(展望台...27ページ参照)



市民活動センター (海岸町、港湾部庁舎1階ポートロビーいりえ内)

市民活動の拠点となる施設です。町内会・自治会や市民団体の情報の収集・発信、資料作成、打ち合わせ、他の団体との交流、活動紹介などに利用できます。

開館時間 10時～21時(土曜日は、17時まで)

休館日 日曜日、祝日、年末年始

むろらん広域センタービル（海岸町、旧室蘭駅舎隣）

市、商工会議所、金融機関、市内企業などの共同出資で事業主体となる「むろらん広域センタービル株式会社」を設立して建設し、平成21年(2009)2月に完成した官民複合施設です。市民利用度の高い市の窓口部門や道の税務部門、金融機関を1階に配置、また胆振総合振興局が道内ではじめて賃貸で入居し、官民の連携により、市民の利便性が高い施設となっています。

港の文学館（海岸町）

昭和57年(1982)から始まった文学館設立を目指す市民運動が実り、当初は「市立室蘭図書館附属文学資料室」として開館し、昭和63年(1988)10月に旧海員会館を改修してオープンしました。札幌市、小樽市に続く道内3番目の文学館です。室蘭の文学活動の歩みを集大成した公立民営方式の文学館で、運営にあたり室蘭文学館の会がボランティアで協力しています。

30,000点にのぼる資料の中から、室蘭出身の芥川賞作家、八木義徳と三浦清宏の生原稿や、そのほかの室蘭出身の作家や葉山嘉樹らの単行本などが展示されています。平成11年10月に「八木義徳記念室」が新設され、八木義徳から寄贈を受けた貴重な資料などが展示されています。このオープンを見届けるかのように、同氏は、その年の11月9日に亡くなりました。（八木義徳文学碑...46ページ）

平成14年(2002)には、作家としてだけでなく、コラムニストや漫画家としても活躍している室蘭ゆかりの長嶋有が、三人目の芥川賞作家として加わりました。

平成25年11月、室蘭駅に程近い旧ビアレストラン「プロヴィデンス」に移転し、「文学のまち・室蘭」の新たな拠点となりました。八木義徳記念室をはじめ、雑誌の創刊号などを収集した秀痴庵文庫、三浦清宏コーナー、長嶋有コーナー、市民展示室のほか、朗読会などのイベントに使用できるプロヴィデンスホールやカフェコーナーがあります。

また、旧文学館の敷地内に建立されていた棟方志功の板画碑は、新文学館の隣接地に移設されています。

（棟方志功板画碑...45ページ参照）

開館時間 10時～17時
入館料 無料
休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始



来館記念スタンプ

電信浜児童遊泳場（幸町）

並木凡平の短歌にも歌われているこの浜は、入江になっているため常に波が穏やかで、家族連れなどの磯遊びで、にぎわいを見せています。（並木凡平歌碑...47ページ参照）

また、電信浜の地名は、昔はアイヌ語の「ポンモイ」（小さい湾）と呼ばれていましたが、明治24年(1891)室蘭の対岸である砂原との間に通信省が、この浜から海底電線を敷いたことからこの名が付きました。

平成2年(1991)10月、電信電話記念日にNTT室蘭支店が、電話操業100年を記念して「電信浜地名由来記念碑」をこの地に設置しました。（高さ0.6m、幅1m、厚さ0.2m、黒御影石）

開設期間 7月下旬～8月中旬
利用時間 10時～16時

北海道立総合研究機構栽培水産試験場（追直漁港内）

平成18年(2006)4月に開設した、栽培から資源管理まで一貫して研究できる道内唯一の施設。マナマコの量産研究など、水産資源の調査、研究を行っています。また、追直(おいなおし)漁港では、「Mランド構想」の中核施設として建設された沖合人工島(通称:Mランド)が、増・養殖支援基地として、平成25年4月に供用開始されています。なお、市内には、追直漁港のほかにイタンキ漁港、絵鞆と崎守に漁港区があります。

室蘭市役所（幸町）

現在の庁舎は、旧庁舎が昭和27年(1952)12月15日に完成。その後、議会関係の新庁舎が同37年10月31日に完成しました。

文化センター（大ホール愛称：スワンホール、幸町）

昭和39年(1964)11月に開館した文化センターは、その後、管理棟やリハーサル室などを増築して現在に至っています。観客席数が1,307席ある大ホールのほか、リハーサル室、会議室などがあり、文化の殿堂として広い範囲で利用されています。

平成8年(1996)1月には、文化センターギャラリー（展示室）も新設され、市民の文化活動の発表の場として利用されています。

開館時間 9時～22時

市民美術館（文化センター内併設）

昭和54年(1979)からの美術館設立を進める市民運動が実を結び、平成20年(2008)10月1日に開館した美術館です。行政パートナーとして、長年にわたり設立運動を展開してきた「室蘭市民美術館をささえる会」が支援し、市民協働のもとで運営されているのが、大きな特色のひとつです。

展示室は、常設ギャラリーと芸術体験や市民の創作発表の場としても広く利用できるオープンギャラリーがあります。

所蔵作品は室蘭ゆかりの作家を中心とした絵画、彫刻、書、写真などで、これらの作品を年8回程度、展示替えを行い、常設展としてさまざまな角度からテーマを変えて紹介しています。また、毎年秋には全館展示による特別展を企画しています。その他、日曜画家展、市民ギャラリー展を開催し、美術創作愛好家に発表の場を提供するとともに、美術に関する体験学習も行なっています。

平成27年5月には来館者が12万人を超え、多くの市民が気軽に芸術文化に触れ、楽しめる施設として、親しまれています。

- 主な所蔵作家
- ・絵画 西村貴久子、伊藤正、熊谷善正、北浦晃、武田真、野本醇ほか
 - ・書 長谷川遅牛、加藤寿牛ほか
 - ・版画 佐野敏夫
 - ・写真 掛川源一郎
 - ・彫刻 高橋昭五郎、池田譲

開館時間 10時～17時

入館料 無料

休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始



開館5周年記念
来館記念スタンプ

武揚体育館（栄町）

旧武揚小学校の体育館を改修し、平成27年(2015)4月に開設しました。フットサル、バドミントン、バスケットボール、テニス、バレーボール、ミニバレー、武道各種目などが行えます。

開館時間 9時～22時30分 休館日 年末年始

常盤保育所子育て支援センターらんらん（栄町）

平成13年(2001)4月に、常盤保育所内に併設してオープン。親同士、子ども同士の交流の場として利用できるあそび場（ルーム）を開放しています。子どもの年齢によって利用対象となる日時が決まっているため、安心です。保育士が常駐し、さまざまな子育ての相談に応じるほか、親子講座の開催、子育てサークル・サロンへの支援なども行っています。

育児相談時間 8時45分～17時30分 休館日 土・日曜日、祝日、年末年始

図書館（市役所裏手、本町）

大正9年(1920)、開運町（現在の山手町）に室蘭区教育会所が室蘭区教育会図書館として開館した古い歴史をもち、同11年の市制施行により、翌年市に移管され「室蘭図書館」としました。何度も移転を繰り返し、戦時中は休館を余儀なくされた期間もありましたが、読書に対する要望が強く、昭和22年(1947)、当時常盤町にあった商工会議所の一室で再開。その後、室蘭図書館新築期成会が結成されたものの、資金不足により進展しませんでした。創業50周年となる株日本製鋼所室蘭製作所から新築資金1千万円が寄付されたことがきっかけとなり、昭和33年(1958)に建てられ、その後、昭和46年(1971)に児童室と3階が増築され現在の図書館となっています。

蔵書は、250,654冊(平成28年3月31日現在)、平成27年度実績で、年間利用者は68,124人です。平成24年(2012)1月から、室蘭市・登別市・伊達市の3市の図書館の図書を3市で発行した利用者カードで借りることができ、返却も3市のいずれの図書館でも、できるようになりました。

また、図書の検索・予約などはインターネットからも可能です。

市内には、分室として3カ所（白鳥台、本輪西、輪西）あり、昭和37年6月より開港90年・市制施行40年の記念事業として、自動車文庫「ひまわり号」が巡回運行しています。以来、市内33ステーションを隔週巡回し、平成24年には誕生してから50年を迎えました。

開館時間 10時～18時

休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は、その翌日）、年末年始
月末図書整理日、特別図書整理期間

本館のみ5月5日、11月3日、祝日が土曜・日曜日と重なった場合は開館。



・陶壁面(館内左手)

壁面右側が、新築の功をたたえる記。左側は、北海道窯業と陶磁工業技術および釉薬の研究により日本陶芸の発展に大きく寄与した作陶家、故・小森忍氏（1889-1962）による陶壁作品。新築された際に制作されたものが、今も残っている。

・ふくろう文庫（図書館本館3階）

ふくろうは、ギリシャ神話の学問・技芸・知恵を司る女神アテナの使者で、「森の賢者」と称されるなど、知恵の象徴とされています。

ふくろう文庫の蔵書は、平成11年(1999)12月、現在の「ふくろうの会」が、市民から人生の節目などの記念に寄付を受け、選書された美術書や画集、写真集など、貴重で高価な手に入りにくい図書を中心に、市民文化の知的財産を残したいという思いを込め「ふくろうの会」を通して図書館に寄贈されています。本には、ふくろうをかたどった蔵書票に贈り主の名前、贈る理由（誕生、追悼など）などを、記入して一冊ごとに貼っています。また、「ふくろう文庫」の蔵書公開展示には、「ふくろう文庫ウォッチャーズ会」の市民ボランティア22人が活動しています。

開館日時 図書館開館の木・土曜日の10時～16時（不定期）

青少年科学館 (市役所裏手、本町)

昭和38年(1963)4月、道内に初めて開館し、平成25年(2013)に50周年を迎えました。入館者数は、平成27年度実績で40,318人です。

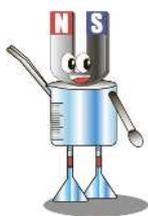
平成17年(2005)からは「みて、ふれて、つくって、なっとく」を合言葉に、理科教員などで構成する「NPO法人科学とものづくり教育研究会 かもけん」の皆さんが、指定管理者として、科学館の企画・運営を行っています。ユニークな手づくりの展示品やささまざまな体験ができるほか、職員「プロモ」が分かりやすく解説し、楽しみながら学べる科学を展示しています。天文と宇宙を再現するプラネタリウム室でも、音楽や朗読を聞きながら星空を鑑賞する取り組みなど、科学の宝箱として親しまれています。

また、小中学生を対象とした、科学クラブやロボットサッカークラブなどを主催し、体験型科学館として科学のおもしろさを子どもたちに伝えています。

開館時間 10時～17時(11月～2月は、16時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末年始

春休み(3/20～4/5)・夏休み(7/21～8/20)・冬休み(12/21～1/19)期間中は、年末年始(12/29～1/3)の休館を除き無休



科学クラブの科学マン



むろたん



プラネタリウムのプラ



ムッピー

平成18年度に
公募で作られた
科学館キャラクター
を紹介するよ!

・今に残るSL (青少年科学館内)

北海道のSLの歴史は、昭和19年(1944)の702輻が最高で、その後は減少の一途をたどりました。そのSLも同50年(1975)、SL旅客列車としてはC57-135(愛称:貴婦人)が室蘭 岩見沢間を走ったのを最後に、また、翌51年3月の追分機関区で入れ替え用に走っていたのがSL最後の姿となり、全国からその雄姿を消しました。室蘭でも消え行くSLを長く保存したいという動きが高まり、昭和50年3月20日、苗穂工場から「D51-560」を借り受け、青少年科学館に常設展示しています。現在は「SL保存室蘭機友会」が、毎月1回整備を行い保全に勤めています。近年は、道内でも観光用に復活して走る姿も見かけられ、平成24年(2012)5月には、開港140年・市制90年を記念して、SLみなと室蘭140周年号(C11-207)が、室蘭 登別間を走りました。

市立室蘭総合病院 (山手町)

明治5年(1872)元室蘭(現崎守町)に療所を開設したのに始まり、翌明治6年3月元室蘭に官立病院を開設し、同年6月に新室蘭に移転しました。改称をしながら、明治31年(1898)に港町72番地(現海岸町)から常盤町に移転しました。昭和26年(1951)火災により焼失のため建て替えし、昭和33年(1958)現在の名称となりました。

常盤町にあった病院の老朽化に伴い、平成9年(1997)2月に山手町に移転新築し、6月に開院しました。総事業費は約178億円。外観はアースカラーで統一し、病室や待合室も広くゆったりと造られ、駐車場は来院用に約300台分を確保しています。診療科目は全部で24科目。

最新鋭の医療機器や、医者の指示が各部局に瞬時に伝わるオーダリングシステムや電子カルテシステムを備え、室蘭のみならず、西胆振の医療の中核を担っています。また、平成20年2月「災害拠点病院」に指定され、さらに平成25年(2013)4月には「北海道がん診療連携指定病院」制度の指定を受けました。

子ども発達支援センター（愛称：あいくる、母恋南町）

児童福祉法第6条に基づき、就学前の児童に対し日常生活における基本動作の指導、集団適応訓練などを行う[児童発達支援センター][児童発達支援事業所]、小学校から高等学校までの児童生徒に対し生活能力向上のために必要な訓練及び社会との交流促進を図る[放課後等デイサービス]、障がい児が集団生活を送る施設において集団適応のための支援を行う[保育所等訪問支援事業]、および障がい児が心身の状況や環境等に応じ自立した生活を送るための総合的な相談を行う[障害児相談支援事業]の5つの事業を行っています。

また理学療法士、臨床心理士による乳幼児期からの心身の発達に関する専門的な相談を行っています。

J E S C O 北海道PCB廃棄物処理施設（仲町）

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、昭和49年(1974)に製造や新たな使用が禁止されて以来、保管を余儀なくされてきましたが、現在は、全国5カ所の処理施設にて処理を行っています。

仲町に建設された北海道PCB廃棄物処理施設は、平成20年(2008)5月より操業を開始。処理対象地域は、北海道、東北、北関東、甲信越、北陸の1道15県に加え、平成28年(2016)4月より南関東1都3県からも一部の処理対象物を受け入れています。PCB処理情報センターでは、各種資料のほか、PCB廃棄物の模型などを展示しています。

開館時間 9時～16時30分

休館日 土・日曜日、祝日、年末年始

シルバー人材センター（みゆき町）

「仕事をしたい」という健康な高齢者が会員として登録し、それぞれの希望と経験、能力に応じて仕事を引き受け、収入を得ながら地域社会に貢献する団体です。毎年秋に市民への啓発事業としてシルバーフェスティバルを開催し、刃物研ぎなどの技術提供や製作した作品の販売などを通してPRしています。

青少年研修センター（みゆき町）

青少年の団体が、研究討議、軽スポーツ、レクリエーション活動などを通して自主性や創造性を養う施設で、收容人員は大研修室100人、中研修室60人、小研修室A・B各40人、C・D各30人となっており、青少年の健全な育成と青少年の活動の振興を目的に使用する場合は無料。それ以外は有料です。

開館時間 9時～21時

休館日 月曜日、年末年始

市民会館（ホール愛称：わにホール、輪西町）

輪西の中心部に、商業施設と連結した市民の憩う芸能・文化の交流拠点として、平成14年(2002)に新築され、500席あるホールのほか、会議室や調理実習室などがあり、図書館輪西分室も併設されています。さまざまなコンサートや市民の文化活動の場として利用され、駐車場も100台分整備されています。

開館時間 9時～22時

室蘭・登別保健センター（東町）

昭和59年2月に開設したこのセンターは、疾病の予知・予防と早期発見のため、最新の医療機器とコンピューターを使用し、多種多項目の健康診査を短時間でいう総合健診・成人病健診をはじめ、日常生活に密着した母子保健・健康教育・健康相談・衛生教育等の事業を実施し、地域住民の健康管理や地域保健活動の拠点になる施設です。

・臨床検査センター（1階）

室蘭市医師会(同センター1階)が運営にあたり、各医療機関から依頼される血液などを検査するため、血液生化学分析装置や多項目自動血球計数装置などをコンピューターと連動させ、検体検査のスピードアップと精度管理の向上を図り、各病院、診療所などの適切、迅速な治療と指導に協力しています。

・室蘭・登別総合健診センター（2階）

財団法人が運営にあたり、中高年齢層から増加の傾向にある成人病の早期発見に努めています。

健診は、最新の医療機器とコンピューターを使用し、多種多項目の健診を約3時間で行い、地域住民の健康の保持、増進に寄与しています。

・室蘭市保健センター（3・4階）

母子保健や成・壮年期の健康増進事業など、地域住民に密着した総合的保健施設。室蘭市健康推進課があります。

・つどいの広場（愛称：サンキッズ、5階）

平成22年(2010)11月に開設。冬期間や雨天時などの天候に左右されずに、無料で通年利用できる子育てのための屋内施設です。乳幼児とその保護者の交流の場として、気軽に利用できます。

室内には、親子で遊べる部屋や読書スペース、お弁当を食べられるランチルームがあるほか、子育てに関する相談や情報提供も行っています。

休館日 月・水・金曜日、第2・4土曜日（祝日、年末年始を除く）

開館時間 10時～16時

イタンキ浜海水浴場（東町）

昭和49年(1974)、市の要請に基づき道が沖合海底に離岸堤を設置し、完成と同時に、市は潮見公園の造成工事を行い、トイレ、シャワー室、更衣室、駐車場(680台)、管理室(海水浴シーズンのみ)を設置、同56年(1981)7月に海水浴場をオープンしました。

また、平成8年(1996)には、トッカリシヨ側の浜辺が、海の日(7月20日)記念の全国選定「日本の渚・百選」に選ばれました(道内では5カ所のみ)。夏場は大勢の市民や子ども連れでにぎわいます。

開設期間 7月下旬～8月中旬

利用時間 10時～16時

イタンキ生活館（東町）

アイヌ住民を対象に、生活文化の向上を図るため生活相談や生活改善指導などの事業を行う施設として、昭和57年(1982)4月に設置されました。

中小企業センター（東町、室蘭警察署隣）

昭和57年(1982)5月に開館した中小企業センターは、中小企業の経営向上と人材育成を図るための研修、集会、会議、催事などを目的とした施設です。

室蘭テクノセンター（中小企業センター隣）

最近の技術革新に対応し、室蘭地域の産業基盤を強化するため、昭和61年(1986)、中小ものづくり企業の支援機関として、産学官が連携して設立。主な事業として、技術・製品開発等支援事業、産学官連携支援事業、中小企業支援事業に取り組んでおり、地域中小企業の基盤技術高度化、省エネや市場開拓、新製品・新技術の開発など、さまざまなニーズに応えています。

胆振地方男女平等参画センター（愛称：ミンクール、中小企業センター併設）

胆振管内婦人活動の拠点として、婦人の教養を高め、婦人活動の充実を図るため、道内10番目の婦人会館として昭和56年に開館しました。研修や集会、調理実習のほか、多くのサークル活動や各種講演会などが開催されています。

平成18年(2006)4月に胆振地方男女平等参画センターに名称が変わり、男女平等参画活動の拠点として活用されています。

公設地方卸売市場（日の出町）

本市の東端、登別市の西端に位置する室蘭市公設地方卸売市場は、昭和43年(1968)に室蘭中央卸売市場として誕生し、平成21年(2009)10月に地方市場に転換しました。道内2番目に開設した歴史ある卸売市場で、温暖な気候を利用した地元西胆振地域の青果（野菜・果物）や噴火湾や太平洋の前浜でとれる豊かな水産物を中心に、白老町から豊浦町までの3市4町に向けて、道内外各地の安全・安心・新鮮な生鮮食料品などを扱っています。

東室蘭自由通路（愛称：わたれーる、東町）

JR東室蘭駅の東・西口を結ぶ歩行者専用道路で、平成19年(2007)4月開通。東口と西口には、エスカレーター、エレベーターなどのバリアフリー設備を備え、24時間通行が可能です。また、駅事務所に蘭東支所（愛称：えきがるセンター）を設置し、翌年5月から業務を開始しています。

障害者福祉総合センター（愛称：ぴあ216、東町）

障がい者の更生と社会参加を図るため、昭和63年(1988)4月に開設。各種の講座や打ち合わせのほか、ボランティア団体の育成、健常者との相互理解の促進など、障害者福祉を総合的に推進する施設です。施設の中には、集会所や研修室のほか、機能回復訓練室、医務室や視聴覚室などがあります。

国際コミュニティセンター（中島会館1階）

市民と外国人との交流の場として、平成7年(1995)6月に寿町に開設。その後、平成20年(2008)6月に現在の場所に移りました。国際交流を目的としたボランティア団体の活動支援やさまざまな情報を提供し、会議室スペースや資料コーナーなども備えています。

開館時間 8時45分～17時15分

休館日 土・日曜日、祝日、年末年始

中島公園

昭和37年(1962)に、本市初の運動公園(現在は、地区公園)として開設し、園内には体育館や野球場、ゲートボール場などを設置しています。トリムコースも設けられており市民に広く利用されています。

体育館 (中島公園内)

昭和45年(1970)に開館し、主競技場のほか、卓球場、トレーニング室などを備えた総合体育館です。平成20年(2008)4月に、主競技場床を改修しました。

開館時間 9時～12時、13時～17時、18時～21時

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末年始

中島公園野球場 (中島公園内)

昭和37年(1962)に開設した、この野球場の収容人員は、内野席・外野席、各6,000人です。管理棟内に通年使用できる多目的室もあります。

開設期間 野球場...5月1日～10月31日

利用時間 5時～19時(10月は、6時～18時まで)

休館日 野球場...なし

多目的室...月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末年始

室蘭市弓道場 (中島公園隣)

射場、的場(6人立)、更衣室があり、通年利用できます。

子育て相談ふれあいセンター (中島保育所内)

子育て家庭に対する育児不安などについての相談指導、親子遊びやサンデーパパなどの講座開催、子育てサークルへの支援のほか、保育情報の提供などを目的に平成7年(1995)に設置し、中島保育所内で、お母さんの育児支援の取り組みが行われています。

開館時間 8時45分～17時15分

休館日 日曜日、祝日、年末年始

中島スポーツセンター (中島本町)

平成18年(2006)7月から、市の指定管理者により運営されています。夏期はプール、冬期はスケートリンクとして開設し、学校授業や幼稚園などのレクリエーションをはじめ、市民のスポーツ振興の場となっています。

・プール 利用期間 5月 1日～9月30日
利用時間 10時～19時
コース 専用兼遊泳、歩行用、フリースペース、幼児用

・リンク 利用期間 11月 1日～3月31日(貸しスケート有り)
個人利用時間 平日...12時～18時、土・日曜日、祝日...10時～18時
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末年始

サンライフ室蘭 (港北町)

昭和58年(1983)10月にオープンしたサンライフ室蘭(中高年労働者福祉センター)は、中高年労働者の雇用促進と福祉の向上を図るため、職業情報の提供を行う心身の健康保持や体力増進などのための施設です。各種器具を備えたトレーニング室、バドミントン、バレーボールなどができる体育室と研修室や和室があります。

開館時間 9時～21時

休館日 年末年始

移動式水素ステーション (港北町)

平成28年(2016)3月、燃料電池自動車に水素を充填することができる北海道唯一の移動式水素ステーションとして整備。本市および北海道の水素利用社会構築に向け、今後の活用が期待されます。

総合福祉センター（天神町）

高齢者や心身に障害のある人、母(父)子家庭の人の福祉の増進を図るため、昭和51年(1976)10月に開設。書道や茶道、手芸、囲碁、民謡、社交ダンス、カラオケ、ビリヤード、陶芸などのふれあい教室や同好会があり、平成18年度から音楽レクをはじめとする介護予防事業を行っています。1日平均169人(平成27年度、陶芸の家利用者を含む)が利用しています。

開館時間 9時～16時30分

休館日 月曜日、祝日(祝日が月曜日の場合は、その翌日)、年末年始

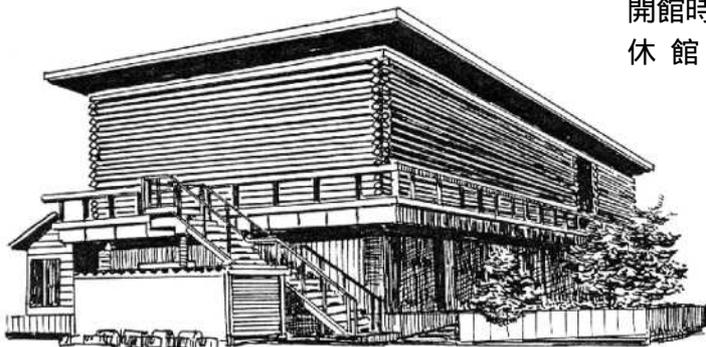
・陶芸の家

陶芸を通して健康と生きがいづくりを支援するため、平成4年11月に総合福祉センター内に設置。1日平均19人(平成27年度)が利用しています。

民俗資料館（愛称：とんてん館、陣屋町）

古くから天然の良港として発展してきた室蘭の歴史と郷土の文化財を保存するとともに、広く一般にさまざまな視点から公開展示して、青少年の歴史学習や社会教育活動に役立てるため、昭和55年(1980)4月に開館しました。国指定の史跡「東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡」に隣接する博物館相当施設で、考古資料を含む約31,000点の資料が収蔵展示され、特に続縄文期の資料が豊富です。

常設展示には開拓の歴史コーナーから港や産業の歩みまで、本市の歩んできた歴史が一目でわかるようになっており、季節ごとに体験学習などの催しも行っております。建物の外観は、校倉(あぜくら)作り様式で、資料館にマッチするように配慮しています。



開館時間 10時～16時 入館料 無料

休館日 月曜日、祝日の翌日年末年始

資料整理休館(1/20～3/19)

(年末年始の休館を除き、春休み・夏休み・冬休み期間中は無休)

愛称のとんてん館とは...

鉄を打つ音“とんてんかん”と屯田兵(とんでんへい)の音を掛け合わせ“かん”の音を館としました。

少年野球場（神代町）

昭和56年(1981)に建設された少年野球専用のグラウンドです。両翼74m、センターは89m、総面積25,000㎡の野球場で、グラウンド2面、管理棟、放送施設などがあります。少年野球を行う小中学生が優先ですが、使用しないときは一般も利用できます。

開設期間 5月1日～10月31日

利用時間 9時～18時

崎守臨海公園野球場

昭和55年に開設した敷地面積5,500㎡の野球場です。

開設期間 5月1日～10月31日

利用時間 9時～17時

白鳥の湯（白鳥台）

市営住宅団地住民の公衆衛生の確保を主な目的として、平成24年(2012)11月に市営共同浴場としてオープンしました。湯浴施設は内風呂、露天風呂です。こどもの日や敬老の日には、各年齢層を対象に入浴無料事業を実施し、市民に広く利用されています。

休館日 毎週火曜日

室蘭岳山麓総合公園（愛称：だんパラ公園、「家族団らんパラダイス」から命名）

室蘭岳山麓レクリエーション整備事業の一環として整備されたこの公園は、シラカバ林の中には、炊事場や野外炉、ログハウスイレなどが整備されたキャンプ場のほか、運動広場、イベント広場、遊び広場などがあります。自然学習の場として集会や研修ができる宿泊施設や体育館などの施設をはじめ、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、パターゴルフ、ゲートボール、テニスなど軽スポーツに対応できる屋外運動施設など、自然とのふれあいや心身の休憩の場として楽しめる総合公園です。

屋外運動施設(有料) 使用期間 4月21日～10月31日
 利用時間 9時～17時(月によって終了時間が異なります)

室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設（愛称：サンパワー^{さんちまる}380）

だんパラ公園宿泊研修施設で、小・中の会議室や8人用宿泊室10室をはじめ、食堂、調理室、男女別の浴室などが設備されており、スポーツなどの合宿や各種研修の場として最適です。また、体育館だけの利用も可能です。

利用時間 入館時間13時から、退館時間12時まで
 宿泊料金 大人 1,900円(2,280円)、大学生 1,100円(1,320円) ()内は、11月から
 (1人1泊) 高校生 900円(1,080円)、小中学生 400円(480円) 4月までの料金です。
 休館日 12月29日～1月3日

だんパラスキー場

市民ニーズにこたえて、昭和62年(1987)12月オープンし、平成24年(2012)から、市の指定管理施設となりました。3人乗りリフト1基、平均斜度9度、ナイター照明の整った初級者用の第1コースと中級者用の第2コースがあり、なだらかな斜面は子どもや初心者が練習するのに最適です。

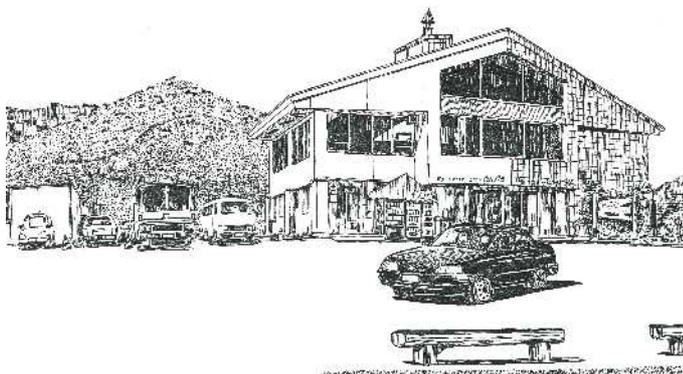
第1コースのリフト側には、ジャンプ台とウェーブを設置したスノーパークがあり、スノーボードに利用されています。

開設期間 12月下旬～3月中旬
 利用時間 9時～21時(天候などにより、終了時間が変更になる場合があります)

・山の駅ロッジだんパラ

だんパラスキー場にあるロッジで、1階はスキーやスノーボードのほか、ソリやウエアなどのレンタルを行っています。2階のレストランでは、ラーメンなどの麺類やカレーライスなどのメニューがあります。

レンタル営業時間は、スキー場の開設期間・利用時間と同様です。



レストラン 営業時間 11時～15時
 定休日 毎週火曜日
 (冬休みシーズンは定休日なし)

白鳥ヒュッテ

室蘭岳にある山小屋で、昭和24年(1949)に日本製鐵(現 新日鐵住金株)の山岳部が建設し、昭和43年(1968)4月に市に寄付されました。通年開設しており、管理人も常駐しています。30人程度の宿泊が可能です。

西いぶり広域連合最終処分場（神代町）

これまでの処分場が満杯になったのに伴い、平成6年(1994)に16億3千万円をかけて建設しました。自然環境に配慮し、浸出水が地下水を汚染しないように、処分場全面に遮水シートを張って、浸出水を集め、処理施設で浄化処理しています。また、このシートが破損したときのために遮水機能障害位置検知システムが設置され、いつでも破損の有無や場所を検知できるようになっています。埋め立ては、その都度覆土を行うサンドイッチ工法で、環境保全や埋め立て後の跡地利用も考慮されています。

平成15年(2003)4月に、室蘭市から西いぶり広域連合に承継されました。

エコロパ西いぶり（施設全体の総称、石川町）

西胆振地域廃棄物広域処理施設、西いぶり広域連合リサイクルプラザと西いぶり広域連合げんき館ペトトルの三施設があります。この三施設の総称を公募したところ、ecology(環境)とpark(公園)の頭文字をとったecolo-pa(エコロパ)に決定しました。

・西胆振地域廃棄物広域処理施設（愛称：メルトタワー21）

国が策定したダイオキシン類削減対策の新基準を守るため、広域連合を設立し、公設民営方式のごみ処理施設を建設。西胆振5市町（室蘭市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）のごみの受け入れを行っています。平成15年(2003)4月より稼働を開始。

処理能力 燃焼・溶融処理設備 可燃ごみ210 t /日
不燃・粗大ごみ処理設備 不燃・粗大ごみ47.5 t /5時間

・西いぶり広域連合リサイクルプラザ

西胆振5市町（室蘭市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）の資源物の中間処理と保管を行う施設。また、不要となった家具を補修し再生利用を進めるほか、環境やリサイクル関連の体験学習ができます。

処理能力 空き缶3.5 t /日、ガラスびん5.5 t /日、ペットボトル3.4 t /日
開館時間 10時～17時
休館日 水曜日(水曜日が休日の場合は、土・日曜日、祝日を除く次の開館日)、
12月31日～1月5日

・西いぶり広域連合げんき館ペトトル

西いぶり広域連合が設置する、ごみ処理施設からの余熱を利用した施設。温水プールのほか、体育館やトレーニング室なども備えています。多目的室は、別途使用料がかかります。

開館時間 13時～20時(専用利用は10時から可)
休館日 水曜日(水曜日が休日の場合は、土・日曜日、祝日を除く次の開館日)
12月31日～1月5日
ごみ処理施設から余熱提供ができない日

・キッズパーク

体を動かして遊べる「わんぱくルーム」と幼児でも安心して遊べる「ゆったりルーム」があります。保護者の交流の場としても利用できます。

開館日 火・金曜日 開館時間 10時～12時

チマイベツ浄水場（石川町）

昭和15年(1940)、チマイベツ川、ペトトル川を水源とする本市初の独自水道として完成し、上水道を給水していました。供用開始以来約70年余り稼働を続けてきましたが、耐震性が低く、施設全体の老朽化も進行していることから、平成22年(2010)11月に施設の全面更新が完了し、より安全で安心な水を供給しています。

地域交流センター（石川町）

平成14年(2002)11月1日、市内で唯一の酪農地帯、石川町にオープン。市街地と異なる環境のもと、市民の交流・学習の場として活用されています。センターには、集会室、料理研修室、多目的研修室、和室があり、バリアフリー構造になっています。

開館時間 9時～22時 休館日 年末年始

16 . 室蘭市内の大学、専門学校

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション室蘭臨海実験所（舟見町）

昭和8年(1933)5月27日開設。現在の建物は、平成24年(2012)6月に旧道立函館水産試験場室蘭支場跡を増改築し移転しました。周辺には、道立栽培水産試験場、室蘭漁業共同組合などがあり、水産の関係機関が集積したことで、なお一層の連携が期待されます。 -

チャラツナイ海岸は、寒流系と暖流系がぶつかる所で、海藻類が非常に豊富なことから、我が国で唯一の海藻研究施設として設置されています。ここでは海産藻類の分類形態学・発生活史・形態形成・生態・生理生化学および遺伝の各分野にわたって基礎的な研究が行われているほか、コンクリートブロック投入や岩面爆破などによるコンブ増殖事業などの応用研究を行い、水産業界に大きく貢献しています。

室蘭工業大学（水元町）

国立大学法人室蘭工業大学は、昭和14年(1939)室蘭高等工業学校として創設されました。昭和19年(1944)室蘭工業専門学校と改称し、同24年(1949)室蘭工業大学になりました。

学部は、工学部（昼間コースと夜間主コース）で、「建築社会基盤系」「機械航空創造系」「応用理化学系」「情報電子工学系」の4分野の学科があり、大学院は、博士前期課程が3専攻、博士後期課程は1専攻です。

・ものづくり基盤センター（愛称：^{クレモ}CREMO 室蘭工業大学内）

金属を加熱して溶かす溶解炉や鍛造室などの施設を備え、ものづくりに関わる実践的な教育、先端加工技術の研究を行う施設。見学会やものづくり教室などを開催し、ものづくりを通じた地域との交流を行うことを目的の一つとしています。

・ロボットアリーナ（室蘭工業大学内）

平成22年(2010)11月開所。地域公開型施設としてロボットの設計製作、評価、コンテスト競技場、体験・展示スペースを集約して、ロボット関連分野における教育研究と地域貢献に役立てるとともに、これを核とする体験型先端技術教育研究の拠点形成を目的としています。

・テクノアゴラ（輪西町）

平成26年(2014)9月8日、室蘭工業大学を知(地)の拠点とした地域づくりを進める一環で、地域貢献活動を行う場や学生が自主的に地域に出て活動を行う場として、輪西町の商店街の空き店舗を活用して開設。ギリシャ語で「広場」の意味を持つ名称の「アゴラ」は、地域住民と学生などが集える地域振興の場になって欲しいという願いも込められています。

市立室蘭看護専門学院（高砂町）

昭和43年(1968)に市立室蘭高等看護学校としてスタートし、昭和59年(1984)に市立室蘭看護専門学院と改称し、今に至ります。

医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、医療技術の進歩および医療提供の場の多様化により大きく変化しています。同学院は、この状況に対応しうる地元で根ざした看護職者の育成を目的とした施設です。平成22年(2010)4月に旧文化女子大学短期大学跡の施設に移転し、1学年定員80人と規模を拡大しました。

日鋼記念看護学校（新富町）

明治44年(1911)日本製鋼所工共済会病院附属私立産婆養成所として設立し、のちに看護婦養成所を経て、昭和63年(1988)に開校。心と知と技が統合された看護師の育成を目指しています。

平成8年(1996)に現在の専修学校専門課程として認可され、創立から100年を経ています。1学年の定員は70人です。

北海道福祉教育専門学校（母恋北町）

北海道福祉衛生専門学校の介護福祉学科が独立し、平成20年(2008)に開校。また、翌年4月からは、こども未来学科が新規開設され、保育士および幼稚園教諭育成を行っており、人材を育成する教育機関として充実しました。

北斗文化学園インターナショナル調理技術専門学校（山手町）

北海道福祉衛生専門学校の調理師学科を独立し、平成20年(2008)に開校。学務提携しているフランスはニースの国立ポール・オジエ観光調理専門学校と、交換留学や教員の研修を通じ、学校交流をしながら学生が国際感覚を身に付ける授業を行っています。

北海道立室蘭高等技術専門学院（東町）

国（厚生労働省）が定める法に基づき公共職業能力開発施設として、北海道が設置している施設です。

昭和21年(1946)12月に北海道廳立室蘭建築工補導所として、御前水町に開設しました。その後、改称や移転を経て、昭和40年代に東町に移転し、昭和63年(1988)に現在の名称に改称。企業や地域のニーズに応える確かな技能・技術の習得を目指して、実践的な教育訓練を行い、“ものづくりのまち室蘭”を支える技術者を育成しています。

また、平成29年(2017)4月には、みゆき町に移転し、2つの学科「金属加工科」「精密機械科」を2年制課程として新たにスタートします。

17. 室蘭市の主な企業

新日鐵住金(株)棒線事業部室蘭製鐵所 (仲町)

前身は、明治42年(1909)創業の北海道炭礦汽船(株)の輪西製鐵場で、敷地面積は418haです。北海道唯一の銑鋼一環製鐵所として、1世紀にわたり、高品質な特殊鋼を東北以北唯一の高炉を使って生産してきました。近年は、室蘭製鐵所の特殊鋼を素材とする自動車部品メーカーが複数社、構内に立地しています。平成24年(2012)10月1日、住友金属工業と会社統合し「新日鐵住金(株)」に社名が変更となり、世界第2位の製鐵会社となりました。

主力製品である特殊鋼棒鋼・B I C、特殊鋼線材は、最高レベルの強度や耐久性などが求められる自動車のエンジン部品や足回りの重要保安部品に数多く使われています。強く優れた鋼材を造るためには「不純物をいかに少なくするか」がキーワードです。構内インフラを生かした「プラスチックリサイクル事業」などを行い、環境産業にも注力しています。

また、室蘭のシンボルである白鳥大橋のメインケーブルは、室蘭製鐵所が製造しました。

(株)日本製鋼所室蘭製作所 (茶津町)

室蘭製作所は、明治40年(1907)に天然の良港である室蘭港を前面に創業し、平成19年に100周年を迎えました。創業以来、長年にわたり受け継がれてきた技術・技能を進化させ、室蘭から世界へ向けた「ものづくりナンバー1工場」を目指しています。

世界最大670tの鋼塊を製造することが可能な世界で唯一の工場で、自社製の1万4千t鍛錬プレス機を2台保有し、大型発電所で使用される一体型タービン軸などを製造することができます。このほか、天然ガスを輸送するクラッド鋼管や石油精製に使用される圧力容器などを製造し、世界屈指の生産設備と高い技術力が世界のエネルギー産業を支えています。

白鳥大橋の建設では、各種サドルやケーブルバンドを手掛けました。

また、ものづくりの原点ともいえる日本刀製作技術の保存と向上のため、大正7年(1918)に瑞泉鍛刀所を開設しています。(瑞泉鍛刀所...83ページ参照)

JXエネルギー(株)室蘭製造所 (陣屋町)

昭和31年(1956)12月に日本石油(株)室蘭製油所として操業を開始し、敷地面積は101haです。経営統合により現在の社名となりました。平成29年4月には、新たに東燃ゼネラル石油(株)と経営統合する予定です。

かつては原油を処理する製油所として稼働していましたが、平成26年(2014)4月より、石油化学製品を中心に生産する製造所へと機能を転換し、ENEOS最北端の製造所で、韓国・ウルサンにあるアジア最大級の石油化学工場に衣料用繊維やペットボトルなどの素材となるパラキシレン原料を供給する国内最大級拠点であるほか、CDなどの素材となるキュメンなど、付加価値の高い製品を主に製造しています。また、本州に比べて北海道で需要の多い灯油・軽油を安定的に供給するための物流拠点でもあります。

高さ180mの集合煙突は室蘭マリンプルーの色彩に塗り替えられ、平成26年11月よりライトアップを開始し、室蘭の工場夜景を彩る新しいシンボルとして親しまれています。

日鉄住金セメント(株) (仲町)

製鉄所で副生される高炉スラグを有効活用した「高炉セメント」を主力製品として製造、販売するセメントメーカーです。昭和29年(1954)6月に設立しました。

工場敷地面積は約23ha、各種セメント製品のほか、注入材やセメント系固化材などの特殊製品を製造しています。特に、高炉スラグを使用する高炉セメントは、環境貢献と耐海水性等に優れ、サハリンプロジェクトでも使用されました。また、さまざまな廃棄物・副産物が焼成・焼却され、セメントに再資源化されています。

函館どつく(株)室蘭製作所 (祝津町)

昭和12年(1937)に設立され、工場敷地は約14haです。主に漁船や漁業調査船、貨物船、運搬船など中小型船舶の建造・修繕と、橋梁などの大型鋼構造物の製造を行っています。また、特に船舶の修繕では国内外で実績を残しており、高度な技術力が評価され、サハリンの砕水船などの修繕も多数受け入れています。

平成21年(2009)1月に地元の檜崎造船(株)と合併しました。

(株)栗林商会 (入江町)

明治25年(1892)、栗林五朔が酒店を創業したのに始まります。120年の歴史を持ち、室蘭が本社です。室蘭港・苫小牧港での海陸輸送・通関・倉庫業・物流などの運輸事業、建材事業と電機・設備事業などの商事を柱に、保険代理事業、旅行業などを行う総合物流商社です。

ナラサキ産業(株) (海岸町)

電気機械、産業機械、建設機械、セメント、建設資材販売等の総合商社です。

(株)檜崎製作所 (崎守町)

明治35年(1902)、檜崎平太郎が個人経営で創業したのに始まります。昭和59年(1984)8月、(株)檜崎製作所と名称を変更し、現在に至っています。工場敷地5.5haです。

橋梁(鋼橋)、鉄管やゲートなどの大型鋼造物、水処理関連装置を中心とした環境機械などの製作を行っています。

香川工業用地 (香川町)

標高170mの高台に位置する、比較的平坦な草地を造成した工業用地です。北海道自動車縦貫道室蘭インター周辺用地の土地利用計画に基づき、インダストリアルパーク構想の一環として先端技術型企業及び軽工業の立地を目的として造成。第1工区(工業用地面積6.1ha)は19区画のうち18区画が売却済み、第2工区(工業用地面積3.9ha)は9区画のうち3区画が売却済みで、精密金型や建設機械アタッチメント製造、光学用ガラス研磨などの企業が操業しています。

(株)北海道高度情報技術センター^{ハイテクス}(HITEX) (みゆき町)

地域情報化を促進するとともに、高度な情報処理技術者(上級システムエンジニア)を育成し、情報処理産業の振興・育成を図ることを目的に平成3年11月に設立されました。

現在は、インキュベーションを目的としたテナント事業を中心に展開しています。

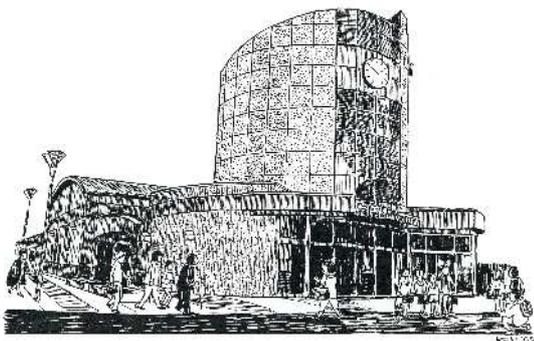
18.その他

室蘭駅

昭和62年度実施の、「室蘭市駅周辺市街地整備構想調査」の中で、室蘭駅移設と土地利用構想について検討がなされ、室蘭市駅周辺市街地整備構想調査研究会の意見を踏まえた上で、室蘭駅舎の移転と保存構想が出されました。

旧駅舎を保存することや、新駅舎のデザインについて、市民からアイデアを募集しました。応募されたアイデアを集約して、デザインテーマを「港・海」に、建物は明るく近代的な中にもにぎわいを感じられるものにと決定し、事業主体

であるJR北海道に市民の声として反映するように要請しました。「風をはらんだ帆」と「海に浮かぶクジラ・イルカ」をイメージした建物で、平成9年(1997)10月から新駅舎が開業となりました。



蕙山苑 (栗林本宅、常盤町)

明治42年、(株)栗林商会の創業者である栗林五朔(ごさく)が、当時室蘭に建設が始まった製鉄所の建設に関わって来蘭する政財界の賓客を手厚くもてなすため、巨額の私財を投じて建設しました。建設に当たっては、五朔の出身地新潟から宮大工を呼び寄せ、くぎを1本も使用していない典型的な日本の寺社建築の様式になっています。敷地2,800坪、建坪は200坪で、庭園は、測量山からの沢水が流れ、春のツツジのころの景観は見事です。(普段は一般公開していません)

また、明治39年(1906)の夏からアイヌ研究のために、度々来蘭した金田一京助が、宿泊したのもこの蕙山苑です。(室蘭の坂...55ページ参照)

碧の彫刻像 (入江臨海公園内)

婦人の社会奉仕団体、国際ソロプチミスト室蘭が創立10周年を記念して、昭和59年11月、公園内に建立。高さ86cmの台座に「碧」と名付けられた白色コンクリートの1.3mの裸婦の座像が設置されています。

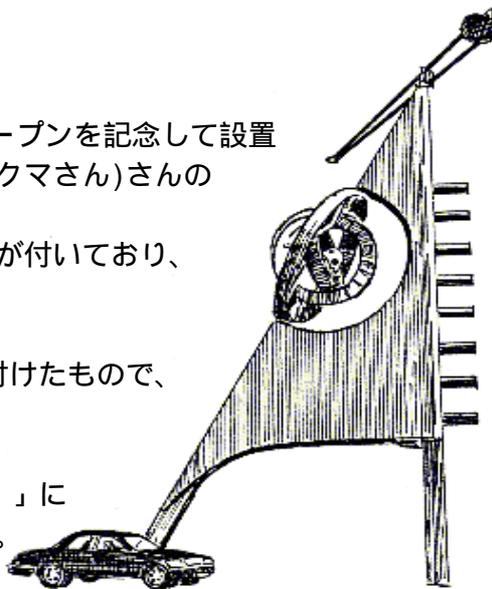
FURAI (NHK室蘭放送局敷地内、鉄の造形作品)

平成5年(1993)2月、NHK室蘭放送局がリニューアルオープンを記念して設置したもので、室蘭市出身の“鉄のゲージツ家”篠原勝之(クマさん)さんの設計により(株)檜崎製作所が制作しました。

高さ15m、重量15t、最頂部には長さが10mのアンテナが付いており、五重のジャイロ(羅針盤)が風を受け回転し、形を変える動きのある作品です。

この“FURAI(=風来)”は、制作者のクマさんが名付けたもので、デザインは室蘭の風をイメージして表現し、室蘭に元気を出して欲しいという願いを込めて造られました。

平成24年には、異業種交流団体「産学交流プラザ“創造”」に参画する地元企業の協力により、改修工事が行われました。



風力発電施設 (株)日本製鋼所内、祝津町)

風況に優れる室蘭地域の自然環境と地元環境関連企業の技術集積を活かし、環境にやさしい再生可能エネルギーを導入することを目的として設置されました。

現在、市内には(株)日本製鋼所製の2基(1,500kW(平成18年7月稼動)および1,950kW(平成19年9月稼動))と、市所有の1基(1,000kW(平成21年12月稼動))があります。

ずい せん かく
瑞泉閣 (株)日本製鋼所室蘭製作所構内、茶津町)

明治44年(1911)9月、皇太子殿下(大正天皇)の視察に備えて、(株)日本製鋼所室蘭製作所構内茶津山のふもとに新築した洋館(199㎡)と日本館(303㎡)の和洋折衷の迎賓館です。同館の命名を殿下にお願いしたところ、「瑞泉閣」の名を賜りました。皇族が来蘭の都度、ご宿泊所・ご休憩所として使用されています。

内外装に粋を凝らし、外国家具や調度品類が配された豪華な明治建築の遺産として有名で、平成19年(2007)10月から同20年4月にかけて、日本館の基礎や洋館の外壁などを改修工事しました。同年11月には、室蘭の鉄鋼生産関連遺産として、近代化産業遺産に認定されました。

ずいせん
瑞泉鍛刀所 (株)日本製鋼所室蘭製作所構内、茶津町)

日本製鋼所が明治維新以後衰退しつつあった日本刀の鍛刀技術の保存と向上のため、大正7年(1918)茶津山に建設したものです。仕事始めに打ち初め式が行われ、刀匠が古くから確立された制作刀技術を連綿と受け継いでいます。第二次大戦終了後は、昭和29年(1954)まで閉鎖されましたが、再び美術刀として鍛刀が許可され、再開しました。明治28年(1895)から刀鍛練用の送風に使われている鞆(ふいご)は、民俗文化財に指定されています。鍛刀所に隣接して資料館があり、歴代刀匠の作品が展示されています。(文化財...34ページ参照)

知利別会館 (新日鐵住金(株)所有、知別町)

北海道唯一の銑鋼一環製鉄所として100年以上にわたり高品質な製品を供給してきた新日鐵住金(株)室蘭製鉄所が、昭和15年(1940)に社員の交流の場や会議、来賓の宿泊施設として建設したのが知利別倶楽部です。全面中央に尖塔のある白亜の建物で、和風とアールデコの内装です。現在は知利別会館と名前を改め、迎賓館として利用されています。

ボルタ工房 (輪西町)

ボルトやナットで作られた人形「ボルタ」は、室蘭輪西商店街の若手後継者が中心となって組織する市民団体「てつものまちぷろじえくと」(現：NPO法人テツプロ)が輪西町の空き店舗を活用してボルタ工房を開設し、制作・販売をしています。工房では、ボルタ100種類、女の子のナッティ7種類、ボルタとナッティのカップル10種類などの販売スペースのほか、ガラス越しに制作の様子を見学することも出来ます。また、ボルタの製作体験(小学4年生以上、要予約)とボルトやナットと両面テープで作る工場模型製作体験(小学1年生以上、要予約)を実施しています。(室蘭の知って得するミニ情報...95ページ)

問い合わせ先 NPO法人テツプロ ボルタ工房 電話・FAX 0143-47-8233
〒050-0085 室蘭市輪西町1-32-6

輪西八条アトリエ (輪西町)

平成28年(2016)9月に、NPO法人テツプロにより開設されたものづくり体験工房で、「てついく」拠点としても期待されています。季節を問わず、予約により鍛造や溶接など鉄のものづくり体験プログラムを提供しています。夏休み中に体験や、鉄のお祭り『アイアンフェスタ』を継承したイベントも開催しています。

問い合わせ先 輪西八条アトリエ 電話・FAX 0143-84-5510
〒050-0085 室蘭市輪西町2-3-6

体験予約 NPO法人テツプロホームページ <http://www.tetsupro.com>

F Mびゅー (輪西町) 周波数 FM84.2メガヘルツ

ラジオを通じて、身近な情報や人々の声を活発に伝えることで地域を活性化したいとラジオ局の設立活動を続けてきた市民団体の活動が実を結び、平成20年(2008)8月に胆振地区に初めての、コミュニティーFM放送局が開局しました。生活に密着した情報番組の提供や視聴者が番組に参加できる地域密着のラジオ局で、生放送中の番組を見学することができます。

また、緊急時に対応した放送も行っています。

問い合わせ先 室蘭まちづくり放送(株) 電話 0143-84-1662
FAX 0143-84-1663

〒050-0085 室蘭市輪西町1-32-8

第4章 室蘭市の伝説

1. アイヌ語の地名とその意味

アイヌの人たちは文字を持たず、言葉による言い伝え、即ち「伝承」の豊かな民族で、川や山、小さな岩にも、その特徴をつかんだ名前を付けていました。

北海道の地名のほとんどがそうであるように、室蘭の地名もアイヌ語から転化したものが多く、有名なのは「地球岬」で、ポロ・チケウエ(親である断崖)が転化して、チケウエ チキウ チキユウとなり「地球」の当て字が使われるようになりました。

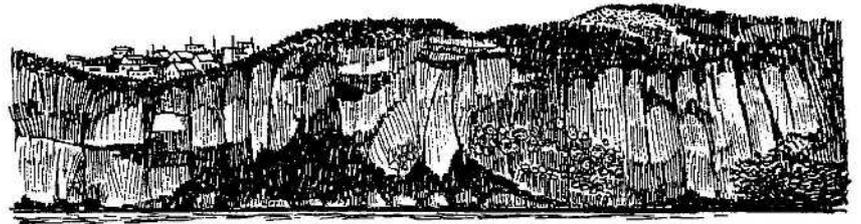
地名	読み方	原名	意味
室蘭	ムロラン	モルラン	小さな下り路
アフルパロ		アフルパル	入る道の口
イタンキ		イタンキ	お椀(クジラの伝説からこの地名が付いた)
絵鞆	エトモ	エンルム	岬(突き出ている頭)
追直	オйнаオシ	オйнаウシ	幣(へい・ぬさ)の群立する所(祭(神事)が多く行われたらしい) 元の漢字は老名牛
小橋内	オハシナイ	オハシナイ	沢口に灌木のある沢(他の説もある)
神代	カミシロ	カミシロコタン	霊山にある祭場
喜門岱	キモンタイ	キムニタイ	山の方の森林
銀屏風	ギンビョウブ	チヌイエピラ	彫刻してある崖
鯨岩	クジライワ	フンベシュマ	鯨岩(室蘭栄高校前の波間に見え隠れする岩)
祝津	シュクツ	シクトウツ	エゾネギの群生する所(他の説もある)
陣屋(べけれおた)	ジンヤ	ペケロタ	白い砂浜(昔、陣屋前は砂浜で海水浴場だった)
測量山	ソクリョウザン	ホシケサンベ	先に出てくる者(沖から舟で帰って来ると最初に 見えてくる山)
地球岬	チキユウミサキ	ポロチケウエ	親である断崖
茶津	チャツ	チャシ	砦(昔、砦があつたらしい)
チャラツナイ		チャラシナイ	滝をなしてサラサラと流れる小川
知利別	チリベツ	チルベツ	鳥の川(昔、鴨が群集していた)
チマイベツ		チマイベツ	焼いて干した鮭の多くある所
トッカリショ		トカリショ	アザラシ岩(昔、アザラシが沢山いた)
ハルカラモイ		ハルカルモイ	食料とる入江
ハワノタ		ハワノタ	声ある砂浜(イタンキ浜の鳴り砂海岸)
ベシポッケ		ベシポッケ	崖下の所(旧室蘭ガスとユースホテルの崖の2カ所をいう)
蓬萊門	ハウライモン	ムカリソ	マサカリ(大きな斧)岩
幌萌	ホロモイ	ポロモイ	親である・大きい湾
母恋	ボコイ	ボコイ	ホッキ貝の群生する所
ポロシレト		ポロシレトウ	大きい岬(崎守町の外防波堤付け根)
幕西	マクニシ	マクヌシ	木の群生している所
マスイチ		マスイチセ	海猫の家(カモメやウミネコの巣が多かった)
モトマリ		モトマリ	静かな入江

は、国指定の名勝とされた絵鞆半島外海岸の地名です。(文化財...34 ページ参照)

輪西とは、もともとは本輪西の地名で、現在の輪西に市街地が移った後に旧輪西を本輪西とした。

2. 銀屏風とムイ岩の伝説

銀屏風には「チヌイエピラ」(彫刻してある崖)というアイヌ語地名がついていました。絵鞆町に近い方がポン(小さなという意味)チヌイエピラ、



マスイチ浜に近いほうがポロ(大きなという意味)チヌイエピラです。そして、その白い断崖が波に洗われて出来た小さな島を、アイヌは「ムイ」(箕(み)という意味で大きなザルのこと)と言っていました。

昔、チヌエカムイ(アワビの神)とムイカムイ(箕の神)が、勢力争いのために、ここで戦ったことがあります。この戦いで、ムイカムイは箕で砂をかき集め立派なチャシ(砦)を築いて立てこもり、チヌエカムイは貝で砂を集めてチャシを作りました。箕と貝では砂を集める量が比べものにならず、アワビの神のチャシは貧弱なものでした。結局、アワビの神は箕の神に負けて逃げ出してしまうのですが、この時に流した涙が岩を削り、その跡がポンチヌイエピラとポロチヌイエピラ、そして、箕の神のつくったチャシが箕の形をした「ムイ岩」だと言うのです。

なお、ムイとは、赤褐色の体内にウロコ型の8枚の貝殻を持つ貝の一種で、アワビを貝の中から抜いたようなものです。大きいものは、体長40cmにも達します。

3. ニラス岩とムカルソの伝説

追直漁港に立って海を望むと、右手の海上に大きな岩が見えます。これが「ニラス岩」(夫婦岩)です。

昔、二人の女神がこのあたりに住んでいましたが、近くに男神がいませんでした。そうかと言って遠くの男神のところに出掛けるのも恥ずかしく遠慮していました。しかし、いつまでたっても男神は現れず、淋しさのあまり女神同士が抱き合って寝てしまったところ、そのまま岩になってしまったと、絵鞆コタンの人々は言い伝えました。

一方、室蘭コタンの人々は、ニラスとは木片のことで、大昔、コタンカラカムイ(天地創造の神)が、この絵鞆半島を創る時、大きなマサカリで木を切り倒したところ、その木クズが海の中に飛び込んで岩になったのだと伝えています。

コタンカラカムイの伝説は、この付近に、もう一つ残っています。チャラツナイの海中には、ニラス岩の倍以上も高い岩が立っています。下の方に四角い窓があいており、満潮時には、この窓から小舟が出入り出来たことから、和人は「窓岩」と呼んでいましたが、やがて東向きに穴が開いていることから蓬萊山(中国の伝説で、東海中にあって、仙人が住み、不老不死の地とされる霊山)に通じる道ということで、蓬萊門と名付けられました。

この蓬萊門をアイヌは「ムカルソ」または「ムカリショ」(マサカリ岩)と呼んでいました。コタンカラカムイが、レプウンモシリ(アイヌの楽園)を創るのに、クワとオノと石づちを使いましたが、出来上がって天に帰る時にそれらの道具を投げ捨てて行ってしまいました。

捨てられた道具は、腐ってニツネカムイ(魔の神)になったり、悪い水や病気をおこす木になりましたが、オノだけはあまりに重いため、魔の神にもなれず、岩になってしまったのだといわれています。



4. イタンキ浜の伝説

イタンキというアイヌ語地名は、「おわん」の意味です。

昔、日高地方一帯が不漁に見舞われ、コタンの人々は飢え死にを迫られていました。そんな時、絵鞆コタンが豊漁だという話を聞き、日高アイヌは海岸伝いに胆振へ向かいました。

そして、ようやくの思いで白老コタンまでたどり着くと、絵鞆は豊漁どころか、天然痘が流行し、コタンの人々は山に逃げ隠れているとのことでした。しかし、いまさら日高へ引き返すわけにもいかず、ようやくアルトル(鷲別岬の西南側の土地)までたどり着いたところ、沖の方でクジラの死体が岸近くへ流れようとしているのを発見し、躍り上がって喜びました。

ところが、クジラと見えたのは、実はイタンキ浜の真ん中に見え隠れしているフンベシュマ(鯨岩：室蘭栄高校前の波間に見え隠れする岩)でした。空腹のあまり目も良く見えなかったのか、岩をクジラと見誤ったのです。クジラを食べられると思い、人々は流木をたき木にしながら、幾日もここで待ち続けました。やがて、たき木にする流木もなくなり、ついには自分たちの持ってきた「おわん」までも燃やして暖をとりました。

しかし、海中の岩がクジラになるはずもなく、とうとう飢えと疲労で力尽き、全員ここで亡くなってしまったということです。

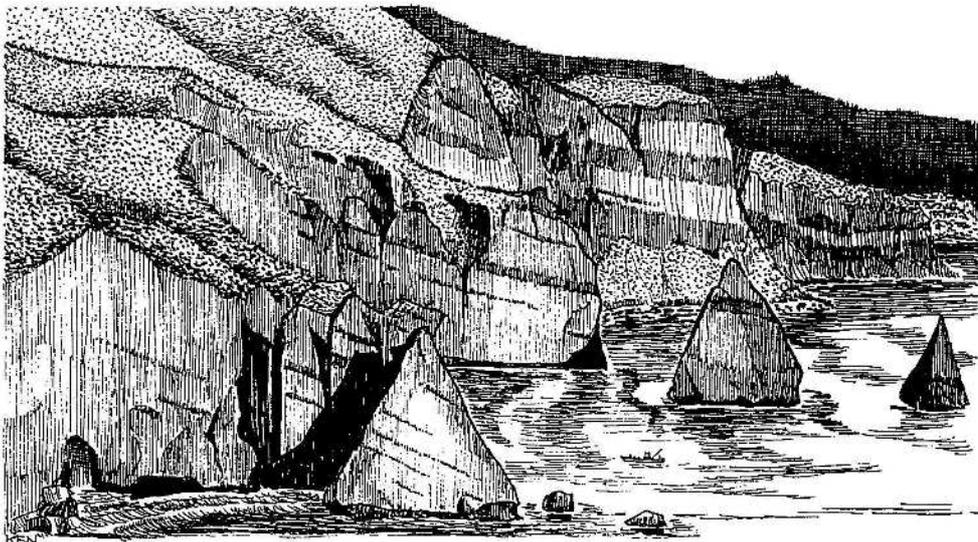
5. トツカリシヨの伝説

港口から離れた奇岩絶壁の東端であるトツカリシヨ。アイヌは、この地に月明りの夜にまつわる神話を語り伝えています。

レプウンモシリ(アイヌの楽園)に、まだ和人の移り住まぬ大昔のことでした。そのころも、月はこの美しい海岸に微笑んでいましたが、ニツネカムイ(魔の神)は、これがうらやましくてなりませんでした。自分も一度でよいから、月のように夜の天を支配してみたい...と、その機会を待っていました。

ある時、日の神が眠っているすきに「光の衣」を盗み、それを着て夜の空に現れたニツネカムイ。突如、空には二つの月が光り輝いたのです。驚いたアイヌたちは、夜眠ることも出来ず、天界に大きな異変が起きたに違いないと騒ぎ立てました。

アイヌの文化を守る神、オイナカムイは、ニツネカムイの仕業であることを見破り、銀の弓に銀の矢をつがえて、トツカリシヨにある岩からニツネカムイの偽の月を射ました。銀の矢は、はっしとばかりに命中。光の尾を引いてニツネカムイは墜落。光の衣は、たちまちオイナカムイの手で剥ぎ取られ、世界は再び平和を取り戻したということです。この時、矢を放った岩は、アトカニ岩(我ら矢を射るところ)と呼ばれています。



第5章 おはなしむろらん

「おはなしむろらん」は、昭和50年(1975)から同60年にかけて、子どもたちに郷土の歴史や伝説を知ってもらうために、図書館が市内に伝わるアイヌ伝説をもとに童話風にまとめたもので8編あります。ここでは当時図書館職員だった前田亨之さんがまとめた「室蘭屯田兵ものがたり」「春を告げる室蘭岳のニシンの雪形」の2編を紹介し、作成当時のままの内容を掲載しています。

ほか6編の問い合わせは、図書館(電話22 - 1658)まで。また、これらのお話は、昭和62年(1987)に袖珍書林から『室蘭むかしむかし チケウの海の親子星』として、出版されています。

- | | | |
|-----------------------|-------|---|
| ・母恋と地球岬の金屏風 | 前田亨之 | 作 |
| ・アフルパロものがたり | 前田亨之 | 作 |
| ・室蘭屯田兵ものがたり | 前田亨之 | 作 |
| ・たこ沼のはなし | 前田亨之 | 作 |
| ・春を告げる室蘭岳のニシンの雪形 | 前田亨之 | 作 |
| ・大蛇になった二十日ねずみ | 前田亨之 | 作 |
| ・アトカニ岩とタコ八 | 深海秀俊 | 作 |
| ・銀びょうぶの話 - ムイとアワビの話 - | 図書館編集 | |

『おはなしむろらん』をまとめた
前田亨之さん(1939-1977)

母恋南町に生まれ育つ。室蘭の高校から千葉大学に進み、教師を志すが心臓を病み断念。市立室蘭図書館に勤務。

郷土資料室の担当になり、郷土資料の掘り起こし、収集・整理に努めた。屯田兵として入植した人の話を聞き次の世代に残すため『室蘭屯田兵』をまとめ、昭和20年の空襲・艦砲射撃の被災記録を作成。

児童室に来る子どもたちに向けて「おはなし」の時間をもち、生まれ育つ土地の昔話を聞かせたいと思い、自ら筆を執り、6篇のお話を創作した。

1. 室蘭屯田兵ものがたり

そうさの一、わしが親父とお袋につれられて、暖かい四国からこの寒い北海道の室蘭にやってきたのは、明治二十年五月のことじゃった。

親父が「屯田兵の募集で北海道に行く」と言い出した時にゃ、祖父様や親類全部が反対しての一。今と違って、簡単に北海道に来れる時代じゃなかったから、そりゃー大ごとじゃった。

「北海道は、一年の半分以上が雪で一面、山と森林だけの国じゃ。そんなところで、田んぼや畑など作れっこね。おまけに住んでいるのはアイヌとかいう得体の知れぬ人間と囚人だけじゃ。熊に喰われるか、凍えて死んでしまうか、ふたつにひとつじゃ。

悪いことはいわねえから、よした方が無事じゃ」と行くのを止めるよう忠告されたんじゃが...

じゃがの一。親父は三男坊で、田舎に住んでは、田んぼは分けてはもらえん。一生小作人じゃ。わしら子供も四人もおって、生活は楽じゃなかったしの一。

屯田兵で北海道に行くなら、三年間お国がわしらの生活の面倒を見てくれる。また、その間に作った畑や田んぼは、全部タダでくれるというし、取れた作物は売っても、食べても自由にしてええ。おまけに子供達は学校に通わせるし、病人には医者もいる。死んだ時にゃ、お金もくれるという、いいことづくめの募集じゃった。

.....

なんという船じゃったか、名前は忘れてしもうたが、大きな船での一。千人以上の人に乗っているの一。わしらは室蘭の輪西村という所に入植したのじゃが、残り半分位は、札幌の新琴似という所に入植するといってたの一。

船中じゃ、皆んな仲良うしてな。子供たちは「わしらは屯田兵じゃ。開拓屯田兵じゃ！」ちゅうて、一日中遊び回ってなあー。ほんに楽しい船旅じゃった...

じゃがの一、入植した輪西村は、それはそれは大変ひどい所じゃった。

ヤチダモの木や葎が生えている湿地帯での一、狐などがよう出よる春には、やっと耕した畑も雪融水でぐちゃぐちゃになったり、夏は日照りの日が少なく、ガスがかかったりして、作物の育ちも悪く、秋の取り入れの頃には大風や大雨が吹いたり、降ったりで、ロクな物も取れなかった。でも、大豆やジャガイモは割りとうよう取れたの一。それで、ご飯にはよくジャガイモなどを混ぜて食べさせられよった。

親父は屯田兵じゃから、訓練があつてな、朝早くに「トテ、トテ、トテチー、トテ、トテ、トテチー」、「兵隊さんよ、早よコー」って、ラッパが鳴ると、皆んな起き出すんじゃ。

それから、ママを食って、親父は屯田兵の中隊本部に、かけ足で集まるんじゃ。

本部は、今の中島神社のある森ん中の一。そこには、中隊長や軍曹などの偉い人が詰めていたし、近くには、馬や豚などを飼ってる牧場や共同作業場とって、カイコのまゆを糸につむぐ工場もあつた所じゃ。

親父たちが訓練に出かけると、あとは家中の者が、割り当てられた土地を耕しに出かけ、子供らは学校に行くんじゃ。学校の名前は私立塵別小学とゆうたが、街の者は屯田学校ともいってたの一。

学校では、ソロバンや書き方、読み方なんぞを教わつたが、試験もあつたんじゃぞ。先生は髭なぞをつけた、ちょっと恐い人じゃつた。

学校で一番楽しかったのは、学校の田んぼや畑で、稲やジャガイモ、野菜などを作って、街に売りに行ったりしたことじゃ。“汗を流して作ったもんが銭になる。一生懸命働けば、いつか必ず立派な作物になって、お国のために役に立つ”と、よう先生がいってつたなあ一。

.....

そうじゃ、子供たちで室蘭の街に行つたとき、こんなことがあつたの一。

今の室蘭駅のあたりから、丸井デパートの前の道は、札幌通りとってな。そりゃー、賑やかな所じゃつた。宿屋やお店が沢山あつて、デッチさんが着物の前に前垂をつけてくるくると忙しく働いておつたり、日傘をさして、きれいなベベを着た娘さんが歩いていたり。乗合馬車がガラガラ音を立てて走っていたり、銭がのうても、人間を見てるだけで胸がワクワクしたものじゃ。

じゃがのう、街の腕白どもは、わしらの姿を見つけると、

「屯田兵の子じゃ、ポロ屯田兵じゃ！」ちゅうて、わいわい集まってきて馬鹿にするんじゃ。

「ヤーイ、ヤーイ、屯田 屯田 イモ屯田 イモ屯田のクソツタレー！」

わしらも負けずにこういってやるんじゃ。

「何を！わしらはクソツタレなんかじゃないわい。わしらは屯田兵の子じゃ。お国を守る屯田兵じゃ。今度そんなことをヌカスとぶんなぐるぞ！！」ってな。

そういうと、街の子はあわてて逃げたり、かくれたりしよるのじゃが、遠くから

「イモメシ、ムギメシ、アワメシ、何んでも食べる。トットツ屯田兵 ワーイ！」とはやしたてるんじゃ。

こんな歌をうたわれると、わしらはシュンとなつてしまふんじゃ。

それというのな、この歌のとおり、わしらのご飯にはイモやムギやアワやヒエなどが混じつてのう、大変貧乏していたんじゃ。

今、わしらが住んでいた屯田兵の土地には、鉄道が走り、新日鉄の工場や社宅などが建つてしまつたんじゃが、あそこは、わしらの親父たちが、屯田兵として一番最初に開拓した土地なんじゃ。

いつか中島神社に行つたら見てらっしゃれ。そこには、屯田兵の記念碑や服や帽子や書類などが大切に残されておるんじゃ。

お わ り

2. 春を告げる室蘭岳のニシンの雪形

むかしむかし、ずっと昔のことでした。

にぶく輝く太陽が、冬の厚い雲にすっぽりと包みこまれた暗い空の下に、長くうねうねと続く白い山脈がありました。この山脈の終わりの処に、室蘭地方をひと目で見渡せる高いひとつの山。

その山の麓の近く、エゾ松やトド松、ヤチダモやオヒヨウの木に囲まれて、雪の埋まった小さな冬小屋が一軒、ポツンとたっていました。

冬小屋には、十歳くらいの少年とお母さんが住んでいて、寒い冬が通り過ぎていくのをじっと待って暮らしていました。

木枯らしがピュー！ピュー！と木々の梢を鳴らし、熊笹が茂るチマイベツ川の崖の下から、もうもうと渦を巻いて吹き上げる地吹雪もようやくおさまったある晩のこと、冬小屋の戸を「トントン、トントン」と弱々しく叩く者がいました。

「おや！？こんな時分、いったい誰でしょうねえ？」

赤々と燃えるいろりの側で編物をしていたお母さんが、少年を見ていいました。

「ビョーン、ビョーン」とムックリの練習をしていた少年は、「誰か来たの？... ぼく、何も聞こえなかったけれど...。じゃ、ちょっと見てくるよ！」

そうって、土間におりると、草ぶきの重い戸をギギ...と開けて、外を覗いてみました。

雪明りの小屋の外には、いまにも倒れそうによるよると杖にすがって立っているひとりの老人がいました。

「ま...まことにすまんが、と、とめては下さらんか」とふらふらと片方の手を泳がしてこういって、その老人は、ずるずると足もとの雪の上に座り込んでしまいました。

「お母さーん！！知らないお爺ちゃんが大変だヨー！！」

少年とお母さんは、急いで老人を抱きかかえて、小屋の中に入れました。

暖かいいろりの側に座った老人は、髪もひげもまっ白でのびほうだい、冬だというのにボロボロの布を二、三枚重ねて着ているだけのひどい身なりです。骨と皮のしわだらけの手をぶるぶると振わせ目を閉じて火にじいっと当てていました。

やがて、そうっと目をあけた老人は、ひと息、大きく深呼吸をすると、「あーあ、やっと人心地がついた。暖かく燃える火は、年寄りにとっては何よりの御馳走じゃ。ご迷惑じゃろうが、今晚ひと晩、泊めては下さらんか」

そうって、老人はお母さんと少年に頼みました。

「ええ、よろしいですとも。ご覧のとおり貧乏で、特別なご馳走を差し上げることもできませんが、ひと晩といわず、二日でも三日でも元気になるまでいて下さいな。」とお母さんがいいますと、少年も「そうだよ、お爺ちゃん。ゆっくりしていくといいよ。今夜はぼくと一緒に寝ようね。」

「おお、ほんにありがたいことじゃ。それじゃ、遠慮なくごやっかいになりますぞ」

お母さんが作った、あったかーい雑炊を美味そうに食べ終わった後、老人と少年はひとつ蒲団にくるまってやすみました。いろりの側では、お母さんが老人の着ていた着物を熱心につくろっていました。

蒲団に入った少年は、なかなか寝つかれず、老人の顔をキョロキョロ見えています。

「どうしたんじゃね、わしの顔に何かついてるかね？」

すると少年は、頭を振って、「ううん、おひげを見ていたの。ぼくのお父さんもおひげを生やしているんだよ。でも、お爺さんと違って黒いんだ。黒くでごわごわして、さわると痛いんだよ」と言いました。

「ふーん、お父さんがいたのかね。じゃが、ここには居なさらんようじゃが、どこかへ行ったのかな？...」

「うん、お父さんはコタンの人たちと一緒にユーラップの山の方に稼ぎに行ってるよ。木を切り出して、春には帰ってくるんだ」

「ほー。この近くの海には、ニシンやカレイや秋味が沢山とれると聞いたが、どうした訳じゃな？」

「あのね、今年は魚が全然とれなかったの。春のニシンなんか今年も去年もその前もほんの少ししかとれなかったんだって。ニシンを見つける時が遅かったって、お母さんがいったよ。だからぼく、今度の春は雪が融ける前から海に行って、きっとニシンを見つけるんだ。そしたらお父さんも、もうどこにも行かなくてすむんだもの。ね、お爺ちゃん、そうでしょう」

「うん、お前は感心な子だね。...そうか、ニシンを見つける時が判からなかったのか...うーん、そうか、そうだったのか...」

老人は、少年の話を聞いて、何かひとりうなずいていました。いつの間にか、少年はすうすう寝息をたてて、ぐっすり寝てしまいました。

外は寒い冬の夜。でもこの小屋の中は薪が時々、パチパチと音をたてて弾け、ほのぼのと暖かい炎の色がゆらゆらとゆれて動いていました。

あくる朝、食事が終わると老人がいました。

「大変、お世話になったが、わしゃ先を急ぐ旅でな。もう出発せねばならんのじゃ。何かおかえしを上げたいんじゃが、見る通りの手ぶらでな。そこで、お前さんたちに『春』を上げたいんじゃが、もらってくれるかね？」

「春、ですか!？」

お母さんは目をまるくしてきき返しました。

「うん、そうじゃ。春じゃ。いいかな。この冬小屋のうしろに高い山があるじゃろう。あの山を注意して見ていなされ。これからは冬が通り過ぎて、この辺りの雪がみんな消えてしまう頃、あの山にニシンの形の雪が残って見られるようになるじゃろう。そのニシンの雪形が見えるようになったら、それが春じゃ。そうしたら、沖にでてニシンの漁にかかるがよい。また、畑をおこして種まきの用意をするがよい。山に雪のニシンが見えているあいだ、この沖ではニシンを沢山釣ることができるようになるじゃろう。そうなればもうお父さんとはなれずに一緒に暮らすことができるじゃろうて。よいかな、山をようく見てるのじゃぞ」

そうって老人は少年の頭を軽くなせて、キラキラ光る雪の中を杖をつきながら、林の中に消えていきました。

冬が去り、お母さんと少年は冬小屋から海辺の夏小屋に移り住み、まだ冷たい海の中に入って、マツボヤノリや、エビ、カニなどを取って暮らしていました。

少年は時々山を眺めて老人が言ったニシンの雪形を見つけようとしていましたが、山にはまだ雪が沢山残っていました。

二週間ほど過ぎたある朝早く、少年が山を見ますと、山の雪はほとんど消えて、中ほどの処に何か細い雪の線が見えます。よく目をこらして、じいっと見ていると、魚の形に見えてきました。

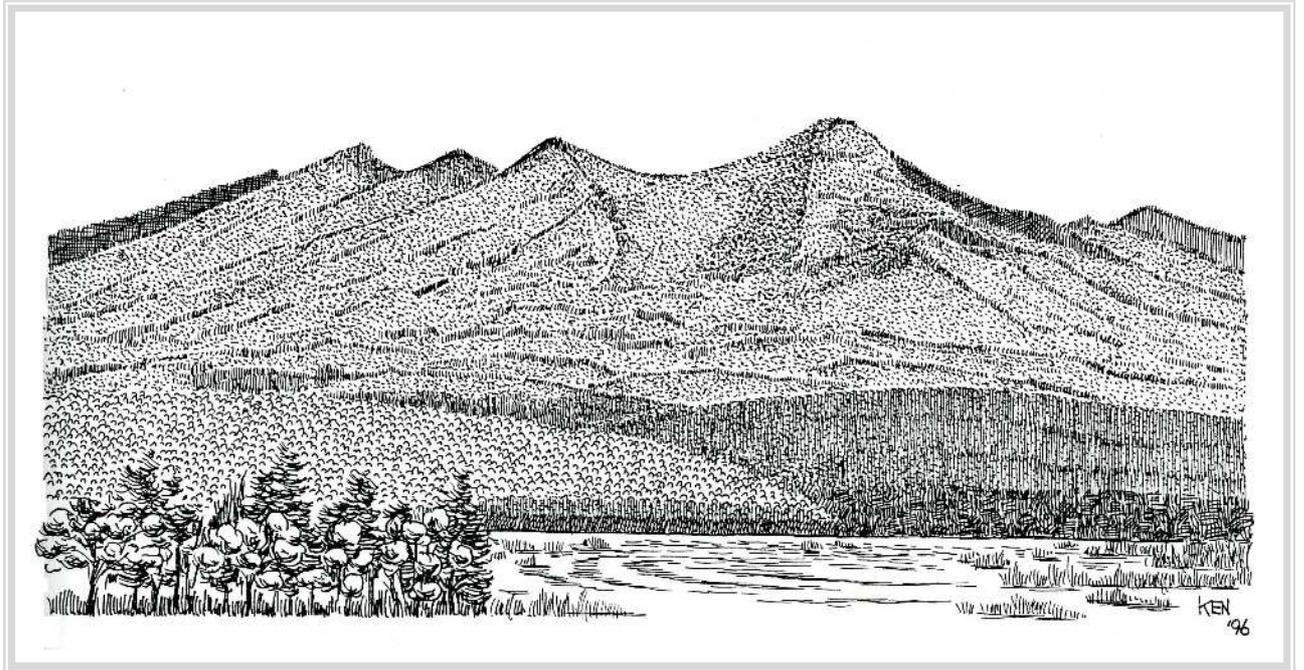
「ワーイ、雪形だ!お爺ちゃんのいったニシンの雪形が見えるよ!!ニシンがやって来るよ!!」

そうって、少年はコタンにいる人たちに知らせました。

初めは信用しなかったコタンの人たちも、少年が余りに熱心に老人のいったことを話すので、沖に舟を出してみました。

すると、どうでしょう。黒く海が盛り上がるように、ニシンの大群が来ていました。

それから後、室蘭地方のアイヌの人たちは、この山をヘロキウパシ、ニシンの雪の山と呼んで、山を見て春の知らせを待つようになりました。また秋に三度、この山に雪が降って消えると、コタンの里は根雪になるとも伝えられています。



第6章 室蘭の主なまつり・イベント

- 春 -

- 5月上旬 水族館祭り、科学館祭
(ゴールデンウィーク期間中、子どもから大人まで楽しめるイベント)
- 5月～8月 イルカ・クジラウォッチング
- 5月～9月 神社・不動尊・地藏尊のお祭り
(絵鞆神社祭典に始まり本輪西八幡宮神社祭典まで、室蘭港を回るように、お祭りが行われる)
- 5月～10月 夜景見学バスの運行
- 6月下旬 Shanちゃん共和国建国祭(中島町シャンシャン通り)
(フリーマーケットをはじめ、さまざまなイベントが行われる)

- 夏 -

- 7月中旬 ワニ祭り(輪西7条グリーンモール周辺)
(輪西商店街が、各種イベントを開催)
- 7月下旬 エンルムマリーナ祭
(新鮮な魚介類の販売やフリーマーケットなど)
- 7月下旬 むろらん港まつり(フェリー埠頭ほか、市内各所)
(室蘭ねりこみや総参加市民おどり、よさこいソーラン、花火大会など
3日間にわたる市内最大の祭り)
- (7月最終
金・土・日曜日)
- 7月下旬 イタンキ浜海水浴場開き
～8月中旬 (「鳴砂海岸」で知られるイタンキ浜海水浴場のオープン)
- 8月中旬 裸みこし(浜町商店街)
(パッチ姿のみこしの担ぎ手、乗り手に沿道から水をかけ、観客とみこし
が一体となる祭り)

- 秋 -

- 9月上旬 スワンフェスタ
 (白鳥大橋開通を記念して、始まったイベント。花火大会や、「室蘭やきとり」が軒を連ねる「室蘭やきとり横丁」などが人気)
- 9月中旬 輪西八条アトリエまつり(輪西町)
 (鉄にこだわるイベントを展開。ものづくりのまち室蘭ならではの催し)
- 9月下旬 市民大運動会「むろらんピック」(入江陸上競技場)
 (運動会でおなじみの種目やオリジナル種目で、スポーツを楽しむ)
- 9月下旬 科学の祭典(青少年科学館)
 (道内の小・中学校、高校の理科教諭などが多彩な実験や工作を指導)
- 10月上旬 室蘭さかなの港町同窓会(追直漁港)
 (新鮮な海の幸の即売、サケのつかみどりやステージイベントなど)

- 冬 -

- 1月1日 初日の出歓迎(地球岬初日の出)
 (住民有志が、温かい飲み物などを提供する歓迎)
- 2月下旬
 ~中旬 むろらん冬まつり(だんパラ高原)
 (雪山での宝さがしやスノーボード無料レッスン、歩くスキー教室など、冬山を満喫するイベントがいっぱい)

これらのイベントは、主催者の都合で変更になる場合があります。

第7章 室蘭の知って得するミニ情報



昭和12年(1937)から始まった日中戦争の時代に、食糧増産のため農家が豚を飼うようになりました。昭和14年には、一般の靴生産は中止され、皮不足から軍は豚の皮を軍靴に用いるため、養豚を大いに奨励。室蘭では豚の皮と肉以外は食べても良いことになり、屋台などで豚の内臓(モツ)が売られるようになりました。モツのほか、当時は野鳥も串焼きにして食べていたことから、現在の「やきとり」の語源の由来ともいわれています。その後、徐々に「豚肉、玉ねぎ、洋がらし」のスタイルが、室蘭の「やきとり」として定着していきました。

平成12年(2000)、市内のやきとり店の多さと、各店独自のタレや工夫を凝らしたやきとりを市の広報紙「広報むろらん 11月号」が取り上げ、室蘭の「やきとり」と題して特集しました。市民は注目を新たにし、「室蘭やきとり」が全国からも一躍脚光を浴びるきっかけとなりました。

平成13年、秋の大イベント「スワンフェスタ21」で市内のやきとり店が軒を連ねる「室蘭やきとり横丁」が初登場しました。同年11月には「やきとりゆうパック」もスタートし、室蘭の味が全国に発信され、注文が殺到しました。

平成19年に福島市で開かれた「第1回やきとりんピック」では、市内のやきとり店が優勝。翌年室蘭市で行われた第2回でも連覇を成し遂げ、さらに全国への知名度が上がりました。今では全国ブランドとして、全国7大ご当地やきとりの一つに数えられています。

室蘭
カレーラーメン



マスコットの名前は
「めんばる君」
「メンバー」「元氣」「ほおぼる」
「めんこい」の4つの意味から
「めん」に「からめる」ように命名さ
れました。

ラーメンと相性の良いカレースープを各店主が考えに考え抜き、鉄のまち室蘭ならではの風土が育てた庶民の味となりました。その味が、北海道特有のちぢれ麺やチャーシュー、さまざまな野菜やワカメなどおいしさのハーモニーを奏でます。市内にある約50のラーメン店の内、6割のお店でカレーラーメンを提供しています。

平成18年(2006)には「室蘭カレーラーメンの会」が発足。室蘭カレーラーメンのおいしさを、室蘭から全道・全国に発信し、札幌の「みそ」、函館の「しお」、旭川の「しょうゆ」に続く北海道第四の味を目指して、毎年スタンプラリーなどのイベントも開催などの活動を行っています。

らんせん 室蘭活ホタテ「蘭扇」

太平洋と噴火湾に面した栄養豊富な魚場に恵まれ、手間暇かけて養殖されたホタテは、大きくて甘みが強く太い貝柱が特徴です。その中でも、3年間養殖されて殻長13cm以上に成長したホタテを厳選し、室蘭の「蘭」の文字、海扇(ほたて)の「扇」の文字を取って、室蘭ブランドホタテ「蘭扇(らんせん)」と名付けました。12月初旬から1月中旬のみ出荷されます。



室蘭市の魚「クロソイ」は、刺身や焼き魚、鍋物など、いろいろな調理法が楽しめる高級魚です。

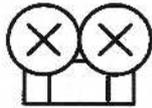
市内の飲食店(店舗により予約が必要)で、各店さまざまなクロソイ料理を提供しています。

釣りの対象魚としても人気があります。



Lロランワニシのボルト人形

ボルト



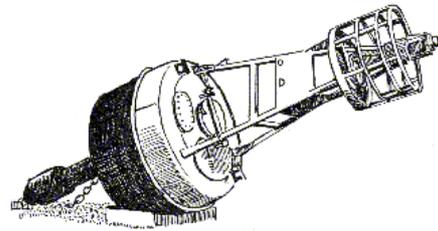
「ボルト」は鉄のまち・室蘭生まれのボルトやナット、ワッシャーなどをハンダ付けした5cmほどのボルト人形のことで、小さな体でユーモアたっぷりの表情やしぐさが人気を呼び、まちのアイドルとして親しまれ、「鉄のまち・室蘭」を全国に発信しています。ボルトは室蘭からの鐵文化発信を理念に置く「NPO法人テツプロ」のボルト工房が製作・販売しています。ボルト100種類、女の子のナッティ7種類、ボルトとナッティのカップル10種類、その他派生商品などを含め、約140種類があります。

平成28年4月には、ボルト一般販売10周年、同年7月にボルト工房開設10周年を迎え、記念の「プレミアムボルトセット」を販売。また、ボルト工房では、ボルト製作体験（小学4年生以上、要予約）や工場模型製作（小学1年生以上、要予約）も行っています。（ボルト工房…83ページ参照）

問い合わせ先 NPO法人テツプロ ボルト工房
〒050-0085 輪西町1-32-6
電話・FAX 0143-47-8233

とうふひょう
燈浮標

昭和38年(1963)8月から同53年(1978)7月まで、室蘭港に出入りする船の安全航行のために航路標識として利用されていたものです。現在は、入江臨海公園に置かれています。



友好記念碑（チューブ・ベル）

昭和60年(1985)、大洗青年会議所と室蘭青年会議所は姉妹青年会議所を締結しました。

平成7年(1995)、室蘭青年会議所は創立40周年にあたり、入江臨海公園の中程に記念碑を建立しました。碑のそばの「チューブ・ベル」は、両青年会議所の友情のシンボルとして室蘭と大洗の両港に設置されました。

新潟県上越市(旧直江津市)からの友好記念の桜

平成2(1990)年7月31日に、現在姉妹都市として締結している上越市から、八重桜5本が贈られ、入江臨海公園に植樹されています。（姉妹都市…6ページ参照）

国道36号の終点 旧室蘭駅舎裏あたり。

ようこそ室蘭へ
(地球儀型・室蘭駅前)

世界一大きいサッカーボール
大沢町にある室蘭ガスのガス
タンクに、サッカーボールの絵
が描いてあります。

ノックスビル市姉妹都市提携記念塔とノックスビル通り

平成3年1月16日に、姉妹都市として、アメリカのテネシー州ノックスビル市と締結しました。その記念に室蘭岳だんパラ公園駐車場横に「姉妹都市提携記念塔」を建立しました。塔の上部には時計が、中央には両市の紹介プレートがあります。

また、室蘭プリンスホテル前から、入江方面に向かう緩やかな坂道は、姉妹都市締結のために、当時室蘭に滞在していたアッシュ市長が散歩した道路です。平成14年に「両市交流のスタートの地」として「ノックスビル通り」と命名され、室蘭港開港130年・市制施行80年記念式典出席のため、再びアッシュ市長が訪れ、通名を記した標識の序幕と「市の木・ナナカマド」の記念植樹を行いました。両市の絆を深めた証として、市民に親しまれています。

(姉妹都市...6ページ参照)

室蘭市内の神社および不動尊の祭りの数々

5月の絵鞆神社祭に始まり、9月の本輪西八幡神社祭を最後に、室蘭港を回るように、次々とお祭りが行われています。(神社...56ページ参照)

JR母恋駅

「母の日記念乗車券」

めずらしい駅名が一般に広く興味を持たれるようになり、5月の第二日曜日の母の日に、母恋駅の切符を添えてプレゼントする人が増え始めました。昭和60年頃には、全国のデパートでも数万枚売れ、今も母の日に向けて人気は続いています。



母恋駅を愛する会

かつての駅の賑わいを取り戻そうと、母恋に住む有志が中心となって、平成8年(1996)10月から「母恋駅を愛する会」を運営しています。

毎月第2土曜日に母恋駅で、さまざまな催しを開催し、人々の憩いの場となっています。平成25年(2013)3月に200回、平成28年9月で満20年を迎えました。

旧札幌通の案内板「思い出プレート」

緑町の白川商店付近から西小路町、沢町、室蘭八幡宮前の通りは、かつて札幌通と呼ばれていました。平成7年(1995)に北辰商店会連合会が創立40周年を記念して、案内板「思い出プレート」を設置しました。当時の旧家や旧跡の7カ所の様子を説明文と室蘭出身の画家 佐久間恭子さんの絵で紹介しています。室蘭観光協会(旧室蘭駅舎)などで、絵はがきとして販売されています。(室蘭の坂...52ページ参照)

- トキカラモイ棧橋・・・緑町の常盤小学校の登り口
- 問屋の坂・・・・・・・・港の文学館手前の坂を登り切ったところ
- 胆振国室蘭群役所跡・・・海岸町3丁目公園前
- 金沢商会旧宅地・・・・・・・・旧縫製工場ルックラン前
- 大板初枝宅・・・・・・・・問屋の坂と日本一の坂の間
- 創成館跡・・・・・・・・沢町入り口
- 日本一の坂・・・・・・・・沢町入口前で、室蘭駅につながる

為せば鳴る蘭の鐘（中央埠頭、駐車場付近）

市内のまちづくり市民団体NPO法人羅針盤が、平成24年(2012)の開港140年市制施行90年を記念して平成25年4月に建立し、市に寄贈したモニュメントです。すべて鉄で作られた船「むろらん14世」に鐘と直径1.2メートルもの巨大ジギスカン鍋が配置され、市内で大型船舶の部品を製造している㈱タカヤナギと、室蘭工業大学ものづくり基盤センターが製作に協力しました。鐘には「希望を持ち続けていれば必ず実現する」という願いが込められています。

室蘭市には、ボーリングして湧き出てきた「天然温泉」があります。

・むろらん温泉「ゆらら」（絵鞆町、エンルムマリーナ横）

平成17年(2005)5月27日にオープン。同10年から泉源を調査し、1,100mの深さから、毎分35ℓ、43.6度の弱アルカリ性高張性高温泉が湧出しました。民間により経営され、抜群のロケーションで多くの人々が温泉を楽しんでいます。施設は鉄骨2階建て、延べ床面積は約1,500㎡。約90台の駐車場を完備。湯浴施設は内風呂、露天風呂、サウナ、家族風呂など。休憩スペースは1階、2階で合計約150人を収容します。

休館日 第3木曜日

・「楽々温泉」（宮の森町）

煙突から顔を出した巨大ボルタ(輪西7条グリーンモール)

「鉄が生まれる街のボルタ」と名付けられたモニュメントは、平成21年(2009)10月に市民団体「てつのまちぷろじえくと」(現 NPO法人テツプロ)が、当時の新日鐵グループ(現 新日鐵住金グループ)の協力を得て、彫刻家の登尾真帆さんに製作を依頼し完成しました。鉄とステンレスを使い、高さは1.8mで、工場をイメージした煙突から、工場を双眼鏡で眺めるボルタと記念撮影に慌てるひょうきんなボルタが顔を出しています。このモニュメントと一緒に記念写真を撮るなど、てつのまちの新たな名所となっています。

ライオンがいる町

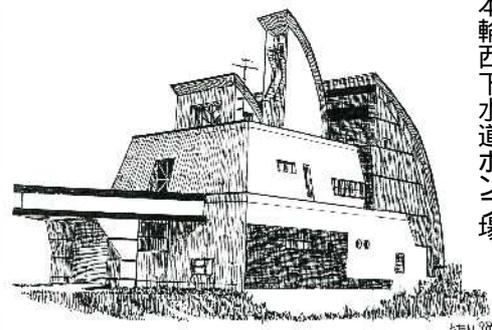
中島町の知利別川に架かる曙橋の両側のたもとで、百獣の王ライオンが町を見守っています。このライオンの像は、昭和62年(1987)に、室蘭ライオンズクラブの創立10周年を記念して製作し、市に寄贈されました。

プロビデンス号知ろう館（港北町、図書館本輪西分室内）

平成7年(1995)に、本輪西地区の整備計画を「水と公園のまち」とし、そのシンボルをプロビデンス号としました。同年7月に、蘭北商店会の経営者らで「プロビデンス倶楽部」を設立。

翌年は同号の来航200年記念に当たり、ベニヤ板で実物大の全長30m、マストの高さ23mの模型を有志が造り、同年9月に完成。来航200年記念祭に訪れていた英国大使夫妻も視察に訪れました。「水と公園のまち」計画は実現しませんでした。同倶楽部の活動により本輪西下水道ポンプ場は、帆船をモチーフにした外観となりました。

平成13年には、図書館本輪西分室内の一角に、プロビデンス号の歴史的意義を学んで伝えていこうと「プロビデンス知ろう館」が開設されました。同号が交流都市のきっかけとなった平良市(現 宮古島市)の資料や同号唯一の遺品「バラスト」、航海日誌の復刻版記録などが展示されています。(プロビデンス号の来航...9ページ参照)



本輪西下水道ポンプ場

公衆無線LANサービスを提供しています

市内には、Wi-Fiを設置している場所が7カ所あります。
右のマークが目印です。

- ・道の駅「みたら室蘭」
- ・旧室蘭駅舎（観光協会）
- ・市民活動センター
- ・東室蘭自由通路
- ・地球岬展望台
- ・蘭東支所（えきがるセンター）
- ・観光案内所（中島町 ふれあいサロンほっとな～る）



室蘭市にこんなナンバーワンがある

平成 28 年 3 月現在

項目	内容説明	分類
大きさ	(株)日本製鋼所室蘭製作所が製造する、世界最大の 670t の鋼塊	世界一
規模	(株)日本製鋼所室蘭製作所の世界最大級の自由鍛造水圧プレスと油圧プレス (14,000 t)	日本一
長さ	白鳥大橋の主塔間の長さ 720m	東日本一
深さ	新日鐵埠頭の専用岸壁 海面からの深さ - 16.5m	北海道一
多さ	(株)室蘭うずら園の生うずら卵は、道内シェア 100%	北海道唯一
ナンバーワン	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 水圏ステーション室蘭臨海実験所	日本唯一
古さ	昭和 17 年(1942) 8 万 5 千坪の港の埋め立てにより、近代的民間埠頭が完成	日本初
古さ	飛行機エンジン(室0号)、モーリス・ファルマン型複葉機用 (株)日本製鋼所製作	国産第一号
飼育	昭和 44 年から平成 5 年まで、水族館で、国内で初めて深海魚アブラボウズの飼育に成功。体調 1.5m、体重 40kg。35 年 8 カ月の長寿を全うした。	日本初
繁殖	昭和 47 年、国内で初めて水族館でゴマフアザラシの繁殖に成功 平成 25 年、ニチリンヤナギクラゲの繁殖に国内初の成功 平成 26 年、青色ニホンザリガニの繁殖に国内初の成功	日本初
貴重	江戸時代末期に日本で初めて出版された青地林宗(あおちりんそう)著の物理学書「気海観瀾」が、平成 10 年に図書館の書庫から道内で初めて発見。全国で 31 冊目。	道内初
大きさ	くりぬき(一本の木をくりぬいて作る)胴太鼓 大太鼓「神(カムイ)」 平成 14 年市制 80 年に市が所有。口径 4 尺 2 寸 (126 cm) 重さ 550 kg。 材質：樹齢 500 年の唐木製 皮：和牛(雌)	北海道最大
長さ	平成 24 年のスワンフェスタで、市制 90 年にちなみ、鉄串 90mのやきとりを市民有志により完成	世界最長

室蘭を題材とした歌(アイウエオ順)

印のあるものは、CD、カセットテープまたはレコードがあり、貸し出しをしています。

問い合わせ先 室蘭観光協会 電話 0143-23-0102

	曲名	作詞	作曲	編曲	歌手
ア	未来(あした)へキラキラ	永森全湧	大中 恩		白鳥大橋賛歌実行委員会
	雨の五番街	光城健悦	七戸賢一	七戸賢一	谷藤一広・中本広子
	雨の室蘭	塚田修治	青野 進	沖野雄三	岩田幸恵
	ある日鳥のように				
	安全揃打ち				
	海のふるさと	太田武彦	遠藤 実	片山俊夫	コロンビアローズ
	俺の室蘭	七戸賢一	七戸賢一		樋渡唯祠
	女がひとり	阿久 悠	彩木雅夫	森岡賢一郎	森 進一
カ	観光室蘭音頭	月館重雄	青木精一郎		
	感動・燃える若さのkick-off	ゲンゴロウ	川辺光俊	川辺光俊	加茂栄二
	北の鳴り砂	欄 岳夫	藤 幸策	きねぶち明	あずま明弘
	希望岬	山田幸雄	四方章人	近藤 進	平岡千佳
サ	四季・室蘭 新室蘭音頭	ゲンゴロウ 本間恵美子	川辺光俊 古賀政男	川辺光俊	コロンビアローズ 岡野 滋
	スノーボードの楽しさを君にも伝えたい	日栄 均	日栄 均		日栄 均
タ	地球岬	山下景子	山下景子	宮下博次	A Y A K O
	地球岬	さとう宗幸	さとう宗幸		さとう宗幸
	地球岬	星野哲郎	船村 徹	南郷達也	鳥羽一郎
	地球岬	富永 信	富永 信	河辺晃吉	パパ富永とジョイアリーズ
	地球岬	酒井智雄	森 雄二	奥野広道	森雄二とザザンクロス
	地球岬	木村雅信	木村雅信		
	地球岬で	星野哲郎	聖川 湧	西原 悟	広瀬慎吾
	地球岬に霧が降る				
	地球岬に霧笛鳴る	月館重雄	青木精一郎		寺内英雄
	地球岬慕情	光城健悦	七戸賢一	七戸賢一	今野ミチ子
	土俵の花	小林 猛	小林 猛	南郷達也	大和太郎
ナ	中島の女	光城健悦	七戸賢一		七瀬美伽
	涙のエンルム岬	月館重雄	青木精一郎		寺内英雄
	鳴り砂慕情	西川辰美	七戸賢一	七戸賢一	渡辺 聡
ハ	パイスケ節				
	白鳥大橋音頭	月館重雄	青木精一郎		
	初恋列車	里村龍一	北野明		氷川きよし
	母恋し	月館重雄	青木精一郎		あおきのりこ
	浜町酒場	光城健悦	七戸賢一	七戸賢一	桜井 良
	ヒューマティックむろらん	佐藤文子	七戸賢一	七戸賢一	七瀬美伽
	噴火湾の女(ひと)	佐々木逸郎	桑山真弓	桑山真弓	日高一也
	母恋北町会いに来い	原田充雄	原田充雄		大川栄策
	母恋の町は北の町	足立貞敏	小山恭弘	斉藤恒夫	金沢明子

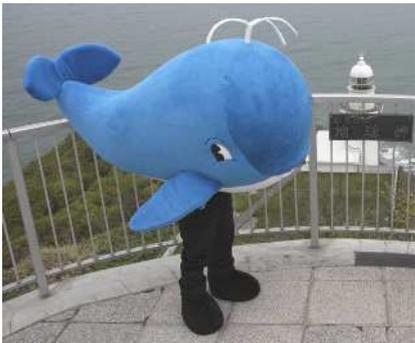
	曲名	作詞	作曲	編曲	歌手
	母恋ふれあい音頭	佐藤文子	七戸賢一	七戸賢一	七条かおる 今野ミチ子
ハ	北海道室蘭本線	くにみ雄三	かきざき昭人	かきざき昭人	大和太郎
マ	またくるぜ室蘭	あおき正義	立花五郎	納谷伴染	立花五郎
	マリンプルー	ゲンゴロウ	青野 進	川辺光俊	とき城二
	室蘭アプローチ	ゲンゴロウ	川辺光俊	川辺光俊	とき城二
	室蘭音頭	福田清作 野村俊夫	竹岡信行	竹岡信行	伊藤久男 久保幸江
	室蘭カレーラーメン				
	室蘭港	成田経秋	青野 進	青野 進	成田経秋
	室蘭小唄	岡 正二	古関祐而	古関祐而	丸山和歌子
	室蘭サーフィン	月館重雄	青木精一郎		あおきのりこ
	室蘭讃歌(詩吟)	佐々木岳甫	抜粋・符付: 伊藤岳奏		吟者: 丹治誠岳、野村慶岳 横山令岳、鈴木心岳
	むろらんサンバ	川根貞雄	赤坂 洋	七戸賢一	桶谷清定 伊藤佐津紀
	室蘭City(S)	川畑浩一	川畑浩一		吉法'S D I
	室蘭City(L)	川畑浩一	川畑浩一		吉法'S D I
	室蘭市の歌	土岐善麿	信時 潔		開港80年・市制30年 を記念して作成 昭和27.11.6 完成
	室蘭の男	星野哲郎	中村千里	重松岩雄	松前弘子
	室蘭の女(ひと)	松崎暎子	三佳令二	かみたかし	鷹ひでお
	むろらの夜	さきゆうかつみ	伊藤雪彦	伊藤雪彦	三条れい子
	むろらの夜	佐久勝美	伊藤雪彦	伊藤雪彦	椿 まみ
	室蘭ばやし	関沢新一	安藤実親	安藤実親	北島三郎 (開港100年・市制50年 を記念して作成)
	室蘭フェリー	月館重雄	青木精一郎		寺内英雄
	室蘭ブルース	伊藤正治郎	伊藤正治郎	河合英郎	大文字伸介
	室蘭やきとり				
	室蘭やきとり天国	七戸賢一	七戸賢一	桜井 良	
	室蘭夜曲	すながしちろ	柳 新一		大木純一
	室蘭旅情	小岩二郎	七戸賢一	竹田英二	恵 京華、船見浩二
	もう一度笑って	サトウヨシアキ	サトウヨシアキ		サトウヨシアキ (PVは、旧絵鞆小学校の円形校舎で撮影された)
	モルエラン	浅沼晃明	浅沼晃明	河辺光俊	高木 君
ヤ	山開き音頭	七戸賢一	七戸賢一		菊地久美子、七条香 る、堀勝雄、酒井の り子、三浦まさお
	夢のハーバーゲイト	ゲンゴロウ	川辺光俊	川辺光俊	足立俊也
ラ	ライトアップin室蘭	フライトセッション	フライトセッション		美ち奴
ワ	輪西音頭	岡正二	藤山一郎		
	輪西製鐵所の歌	岡正二	藤山一郎		藤山一郎

室蘭市マスコット 「くじらん」の誕生

平成元年の「ふるさと創生 1 億円事業」の一環として、室蘭のマスコットとシンボルカラーを募集しました。

市民投票を経て、平成 3 年にマスコットにはサッカーボールと波を組み合わせたクジラ、シンボルカラーには、海洋・科学技術都市を目指す海に囲まれた室蘭にふさわしいマリンドブルーが決められました。魅力あるまちづくりと活力と希望にあふれた新しい室蘭をアピールするために誕生したマスコットの名前を公募し、「くじら」と「むろらん」を組み合わせた「くじらん」に決められました。

平成 22 年には誕生から 20 年目を迎え、記念に「着ぐるみくじらん」も登場しました。



クジラ

マスコットとしてクジラの応募が多かったのは、噴火湾では昔から多くのクジラが見られた記述があることや身近にクジラの登場するアイヌ伝説、クジラと似ていることから「くじら半島」と呼ばれている地名があることなどもあげられます。また、クジラウォッチングも観光として行われ、クジラは市民の身近な生き物として親しみやすかったからなのでしょう。

サッカーボール

本市は、昭和 57 年に「生涯スポーツのまちづくり」を誓い、スポーツ都市宣言をしました。スポーツの盛んな都市を象徴するにふさわしいサッカーボールですが、サッカーは高校チームの活躍により 室蘭に浸透していきました。市内の高校を始めとした多くのチームが全国大会を経験し、室蘭出身のプロ選手も誕生しています。現在は、キッズからシニアまで数多くのチームがあり、競技人口も厚く室蘭を代表するスポーツとなっています。

平成元年のはまなす国体では、サッカー競技がこの地で行われ、当時建設されたばかりの入江運動公園陸上競技場が会場となりました。また、プロサッカーチームの夏季トレーニングキャンプも行われています。



まちで活躍する「くじらん」を探してみよう

- ・ 道南バスの待合所
- ・ マンホールのふた
- ・ くじらん焼き(たいやき)
- ・ 入江運動公園温水プールの児童用プール
- ・ 市役所本庁舎のてっぺん
- ・ 青少年科学館のシャッター

などなど、みなさんの身近なところでも使われているかもしれませんね。



カントリーサイン
「まちとまちの境に
ぼくがいるよ」





ふるさと室蘭ガイドブック

発行日 平成28年12月
編集 室蘭市総務部広報課
ペン画 故寺地憲一氏
発行 室蘭市総務部広報課
〒051-8511 室蘭市幸町1番2号
電話 0143 - 25 - 2193